

平成21年度

熊本県

# 放課後子ども教室 ガイドブック



**みんなでやってみよう!**  
子どもたちが心豊かで  
健やかに育まれるために



はじめに

～あなたのまちでも放課後子ども教室を始めませんか！～



現在、県内では、地域の方の参画を得て、体験活動や交流活動・学習活動等を通して子どもたちを心豊かで健やかに育む取組としまして、「放課後子ども教室」が32の市町村において68の小学校で実施されています。その教室に参加している子どもや保護者、また、関わっておられる関係者の方々から、次のような声が届いています。

- ◇「放課後は楽しい遊びができるし、いろんな人たちに会えるから楽しい。」  
「いろいろなことを放課後子ども教室で体験できるので楽しみにしている。」  
(子どもから)
- ◇「地域の方に子どもと関わっていただけるので、大家族みたいに温かいつながりを感じる。」(保護者から)
- ◇「子どもたちが地域に見守られ育てられていると実感している。」(学校から)
- ◇「私にとって子どもたちの笑顔は最高の宝物であり、この笑顔をいつまでも守っていくためにこれからもいろいろな工夫を凝らしながらがんばっていきたい。」  
「子どもたちの心と体の安全を守ることがサポートできているし、何よりも子どもたちに自分自身が育てられている。」(地域の方から)

以上のような声に応じて、さらに放課後子ども教室が、子どもたちや地域の方々にとってかけがえのない居場所となりますように、本ガイドブックを作成いたしました。

このガイドブックは、「放課後子ども教室」の参考となる資料や県内の取組状況をまとめたものです。今後、本教室を実施しようとするとき、また、現在放課後子ども教室を実施されておられる関係者の方々の参考資料として活用していただければ幸いです。

最後に、本事業の推進にご尽力いただいております地域の関係者の皆様、熊本県放課後子どもプラン推進委員並びに放課後学習向上アドバイザーの皆様をはじめ、ご協力いただいたすべての皆様に心から感謝を申し上げます。

熊本県教育庁社会教育課

## 目 次

### はじめに

I	放課後子ども教室推進事業、放課後学習向上アドバイザー事業の概要	
1	放課後子ども教室推進事業（概要）	1
2	地域教育力を活用した放課後学習向上アドバイザー事業（概要）	3
II	放課後学習の指導ポイントQ&A	4
	～放課後学習向上アドバイザーからのアドバイス～	
III	放課後子ども教室の活動事例	
1	内容別活動の様子	
(1)	教室実施の背景・経緯	9
(2)	教室運営者選任の経緯	12
(3)	教室実施の工夫点	
①	多様な地域の協力者の参加事例	
ア	P T A等の参画	15
イ	公民館講座・自主サークル・地域の各団体等の協力	16
②	地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例	
ア	大規模校の活動の様子	18
イ	小規模校の活動の様子	19
ウ	平日毎日実施している活動の様子	20
エ	プログラム内容を工夫した活動の様子	21
③	安全・安心方策の工夫事例	24
④	放課後児童クラブ（学童保育・学童クラブ）との連携事例	26
2	教室別活動の様子	
■	多様な地域の協力者の参加事例	
○	網田放課後子ども教室（宇土市）	29
○	隈庄小学校放課後子ども教室（城南町）	30
○	月瀬小学校放課後子ども教室（玉名市）	31
○	菱形放課後子ども教室（植木町）	32
○	坂梨小学校放課後子ども教室（阿蘇市）	33
○	碧水小学校放課後子ども教室（阿蘇市）	34
○	産山村放課後子ども教室（産山村）	35
○	七滝中央小学校放課後子ども教室（御船町）	36
○	相良村放課後子ども教室「四浦塾」（相良村）	37
○	鬼池小学校放課後子ども教室（天草市）	38

■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

○松合小学校放課後子ども教室（宇城市）	39
○菊水南小学校放課後子ども教室（和水町）	40
○緑小学校放課後子ども教室（和水町）	41
○南関第四小学校放課後子ども教室（南関町）	42
○稲田小学校放課後子ども教室（山鹿市）	43
○西合志第一小学校放課後子ども教室（合志市）	44
○菊西キラキラ教室（菊陽西小学校、菊陽町）	45
○大津東小学校放課後子ども教室（大津町）	46
○高森中央小学校放課後子ども教室（高森町）	47
○市原小学校放課後子ども教室（南小国町）	48
○飯野小・津森小学校放課後子ども教室（益城町）	49
○郡築小・昭和小学校放課後子ども教室（八代市）	50
○西地域放課後子ども教室（錦町）	51
○わんぱくキッズ塾（水上村 湯山小、岩野小）	52
○渡小学校「あすなろ教室」・一勝地第一小学校「やまなみ教室」（球磨村）	53

■安全・安心方策の工夫事例

○乙女小学校放課後子ども教室（甲佐町）	54
○湯浦小学校放課後子ども教室（芦北町）	55
○多良木小・久米小・黒肥地小学校放課後子ども教室（多良木町）	56

■放課後児童クラブとの連携事例

○中央小学校放課後子ども教室（美里町）	57
○桜山小学校放課後子ども教室（荒尾市）	58
○木葉小・山北小学校放課後子ども教室（玉東町）	59
○長洲小学校放課後子ども教室「きんぎょクラブ」（長洲町）	60
○花房小学校放課後子ども教室（菊池市）	61
○白水小学校放課後子ども教室（南阿蘇村）	62

IV 市町村運営委員会の活動

1 運営委員会の設置	63
2 運営委員会の構成、協議内容・協議の結果改善したこと	64

V 「科学遊び」・「算数遊び」のレシピ集 65

参考資料

1 放課後子ども教室関係者・緊急等連絡先一覧	89
2 熊本県放課後子ども教室実施一覧	90
3 熊本県放課後子ども教室関係資料の紹介	91

# I 放課後子ども教室推進事業・放課後学習向上アドバイザー事業の概要

## 1 放課後子ども教室推進事業(概要)

### なぜ、「放課後子ども教室」が始まったのか。

昔に比べ、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しました。例えば、少子化で近所に遊ぶ子どもが減少しています。しかし、テレビやゲームなど一人で遊ぶことができるものはたくさんあります。そのために、地域の人とのつながりも少なくなっています。

以前は、今、子どもたちに求められているコミュニケーション能力や規範意識等は、体験や群れ遊び、地域に見守られているという意識の中で育まれてきました。

しかし、現在は、学校のみならず地域社会の中で、意図的に人と関わる経験や地域住民の連携体制をつくる必要がある、そういう時代になったのではないのでしょうか。

このような状況をふまえ、平成19年度から「放課後子ども教室」が始まりました。

### 「放課後子ども教室」とは、どのようなものか。

**内容** 平成19年度から文部科学省の補助事業として始まり、実施主体は市町村教育委員会です。

- ◆いつ 放課後や週末等（週2回程度、1日1～2時間）
- ◆どこで 小学校の余裕教室等
- ◆だれに 小学校の希望するすべての子どもが対象
- ◆だれが 地域のさまざまな方々の協力で運営
- ◆何を 学習・体験・遊びの活動、地域住民との交流活動等
- ◆費用 地域のボランティアによる活動が中心であり、原則無料
- ◆全国の実施状況 8,719教室（H21 全都道府県）
- ◆県内の実施状況 68教室（H21 32市町村）

### 期待される効果

- 安全・安心な居場所 ⇒ 1人で過ごす時間が減り、安心して放課後を過ごせる。
- 様々な体験活動・遊び ⇒ 豊かな人間性や社会性を育むことができる。
- 地域の大人との交流 ⇒ 地域の大人とつながりができる。また、地域の大人の生涯学習や生きがいづくりへとつながる。
- 学習機会の提供 ⇒ 学ぶ機会が増え、学習意欲が向上する。

### 地域のさまざまな方々の協力で運営されています。



- ◇コーディネーター：活動プログラムの作成、学校や関係機関との連絡調整、地域の協力者の確保・登録・配置を行います。
- ◇安全管理員：子どもたちの安全を見守ったり、安全に留意した活動の指導を行ったりします。
- ◇学習アドバイザー：子どもたちの学習活動を支援します。
- ◇ボランティア：子どもたちと一緒に体験活動や遊びの活動を行います。

### 参加している地域の方々からの声

- いろいろな体験をさせたいと、地域にも協力を得ながら実施することにやりがいを感じる。
- 私にとって子どもたちの笑顔は最高の宝物であり、この笑顔をいつまでも守っていくためにこれからもいろいろな工夫を凝らしながらがんばっていききたい。
- 子どもたちはどの子も自分の孫のよう。子どもたちから元気ももらい生きがいも持てる。
- 子どもたちと顔見知りになり、学校の外でもあいさつを交わすことが増えた。
- 子どもたちの心と体の安全を守ることがサポートできているし、何よりも子どもたちに自分自身が育てられていることを実感する。
- 子どもたちが楽しく参加してくれるので、指導者としても嬉しく思う。1年間でこんなに変わるのかと、子どもの成長を実感し喜びを感じる。

### 参加している子どもたちの声

- いろいろなことを放課後子ども教室で体験できるので楽しみにしている。ものづくりをたくさんしたい。
- 放課後は楽しい遊びができるし、いろんな人たちに会えるから楽しい。
- できなかったことをアドバイスしてくれたり、褒めてくれたりして、勉強が楽しくなった。
- 参加されている方と学校以外で会っても、あいさつやお話をするようになった。

### 保護者の声

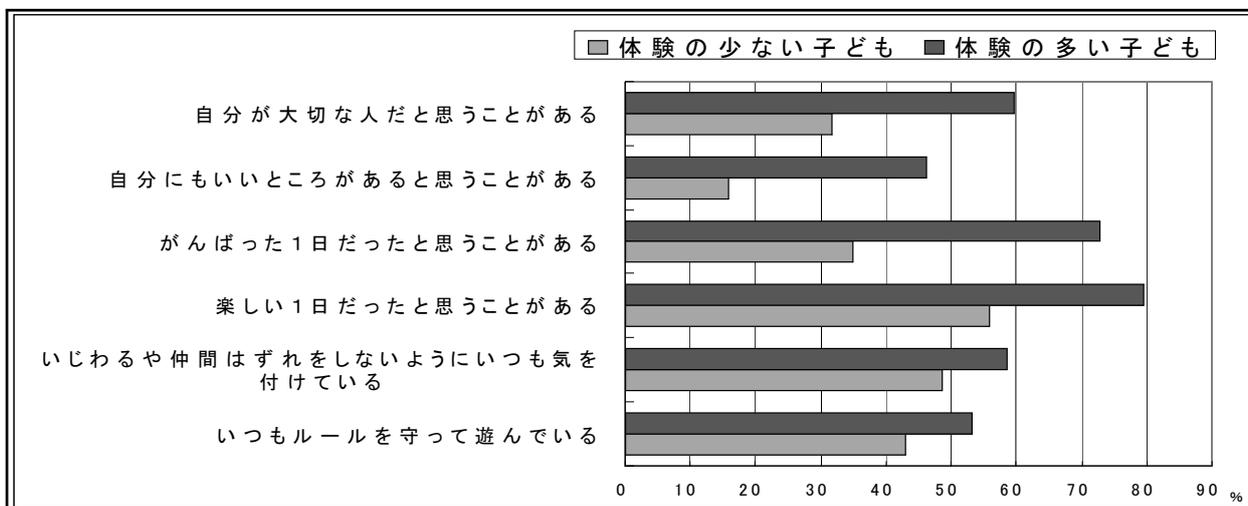
- 放課後子ども教室がある日は、子どもが朝から楽しみにしていて、帰ってからも教室での出来事をたくさん話してくれる。いい経験をさせてもらっているなどありがたく思う。
- 学校から帰っても近くに友だちがいないため、放課後子ども教室の友だちがいて良かった。
- 子どもが、学校や家庭ではできないような体験活動ができたり、家が遠い友だちと遊べたりするので、放課後子ども教室に行くことを楽しみにしている。
- 地域の方に子どもと関わっていただけるので、大家族みたいに温かいつながりを感じる。

### 学校の声

- 本校は小規模のため帰宅しても一緒に遊ぶ機会が少ない。週1回の教室であるが、同じ時間同じ学びを共有できることは絆を深めるうえで有効である。子どもたちが地域に見守られ育てられていると実感している。

## 体験活動や遊びの中で子どもは大きく成長します。

体験活動や様々な遊びの経験の多い子どものほうが自尊感情や規範意識が高い傾向にあります。



熊本市「子どもの遊び実態調査」(H19.10月調査)

## 2 地域教育力を活用した放課後学習向上アドバイザー事業(概要)

### 目 的

県教育委員会において設置する放課後学習向上アドバイザーを、市町村の希望に応じて放課後子ども教室に派遣し、モデル的な学習指導等を行い、放課後子ども教室の充実を図る。

### 派遣先における放課後学習向上アドバイザーの役割

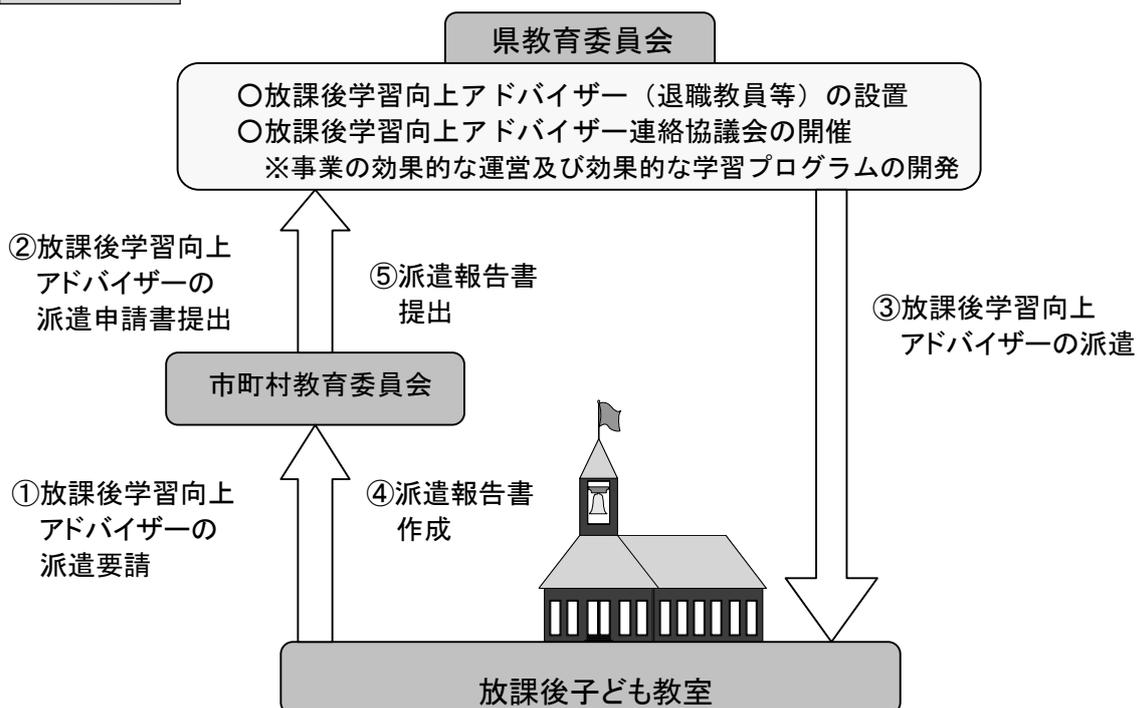
放課後学習向上アドバイザーは、子どもの学習活動の充実を図るため、以下の活動を通して「放課後子ども教室」の指導者等を支援する。

- ①「放課後子ども教室」に参加している子どもを対象とした体験的学習の模範的指導
- ②「放課後子ども教室」において活用できる効果的な体験活動プログラムの紹介
- ③「放課後子ども教室」における効果的な学習活動を行うための指導方法の助言・伝授

### 放課後学習向上アドバイザー連絡協議会

- ①事業の効果的な運営及び効果的な学習プログラムの開発を目的として放課後学習向上アドバイザー連絡協議会を開催する。
- ②連絡協議会を活用して放課後学習向上アドバイザーが開発した効果的な学習プログラムは、県内における「放課後子ども教室」関係者に提供し、子どもの充実した学習活動に活用するものとする。

### 派遣の仕組



## II 放課後学習の指導ポイントQ&A

# 放課後学習の指導ポイント Q & A

## —放課後学習向上アドバイザーからのアドバイス—

放課後子ども教室は、子どもが「わくわくする場」、「また、行ってみたいと思う場」に。子どもは、興味のあるものは、最後まで取り組むことができます。だから、指導者は、興味・関心のある体験学習を計画しましょう。そして、指導者自身も、体験学習教材に自ら感動して、子どもとともに楽しみましょう。

### 学習教材に関すること

Q どんな学習教材がいいのでしょうか？

A ①なるべく前準備に時間がかからないもので、②製作にもさほど時間がかからず、③遊び方も簡単、そんな教材を選ぶのがよいでしょう。また、材料は、同一のものばかりでなく、できれば複数の材料を準備し、子どもに材料を選ばせる工夫をすると、さらに有意義な活動になると思います。

Q 学習教材を準備するときに気をつけることは？

A ・まずは、指導者自身が実際にやってみて、作り方や遊び方のポイント、また、子どもが迷いそうな点を把握しておくことが大切です。  
・次に、子どもが失敗することも想定して、予備の教材をたくさん準備しておきましょう。  
・また、教材を配る際には、事前に「おかしな空き箱」等に班別に必要数用意しておくこと、時間短縮が図れます。



### 学習活動の展開・プログラムに関すること

Q 学習プログラムは、どのように計画したらいいのでしょうか？

A ・まず、活動パターン、いわゆる、基本プログラム 「導入—展開（主活動）—整理（まとめ）」を決めましょう。低学年が中心で、しかも、放課後という解放性を考える

と、主活動（学習時間）は、実質的に30～40分と考えてプログラムを組みましょう。

- ・できれば、異学年で活動することのメリットをいかした学習の展開、例えば、異年齢のグループ構成などを工夫した活動を行いましょう。
- ・限られた時間の中でも、子どもの活動時間は十分とるように活動計画をたてるようにしましょう。

**Q 学習活動を展開するうえで、大切なポイントを教えてください。**

**A** 大きく3つの段階ごとに気をつけることがあります。

＜導入（活動のはじめ）の段階では・・・＞

- ・まず、挨拶を交わし、気持ちを落ち着かせて活動を始めるようにしましょう

- ・学習の目標（めあて）をはっきりさせ、目標を確かめてから活動に入るようにしましょう。

- ・子どもの体験活動の指導をする場合、この導入の時間が最も大切です。子どもたちの興味関心を高めるような、わくわくドキドキするような教材の提示ができるかが、主活動を活発に行う鍵となります。



＜展開（主活動）の段階では・・・＞

- ・低学年のうちから、考える力をつける学習活動、例えば、「少々悩ませる」、「少々困らせる」など活動場面を工夫することが必要です。しかし、絶対到達できないというものはやる気が起こらないのでよくありません。ちょっと工夫するとできるというとき、科学的思考も育ちますので配慮が必要です。

- ・教えるだけでなく、気づかせ、発見させることが大切です。子どもたちに気づかせるための工夫、モデルの準備（しかけ）が必要です。

＜整理（活動のまとめ）の段階では・・・＞

- ・活動の終わりには、必ず子どもに後片付けを徹底させ、目標が達成できたか等活動の反省をさせ、終わりの挨拶もきちんとさせるように指導しましょう。

## 指導方法に関すること

**Q** 子どもたちを指導するときに、特に気をつけることを教えてください

**A** 大きく3つの段階ごとに、特に配慮すべきことがあります。

＜導入（活動のはじめ）の段階では・・・＞

- ・最初に、学習訓練やルール（約束、きまり）作りなどをしましょう。そして、その

ルールは、子どもたちが常に意識するよう活動場所に掲示しておき、繰り返し指導するようにしましょう。

・特に危険を伴う道具の使用方法については、使い方をていねいに説明してから活動に入ることが必要です。

#### <展開（主活動）の段階では・・・>

・班長に班の子どもの世話をさせるなど、なるべく、子どもに役割をもたせて活動させるようにしましょう。

・問題解決の場面が生じたとき、それを解決しようと積極的に挑戦していく子どもに育てることが大切です。そのためには、楽しい活動を繰り返す中で、教えることは教え、子どもに任せる部分は子どもの考えを生かし、手を出し過ぎないようにしましょう。



・子どもたちが自分たちで解決していけるよう支援することが大切です。支援の場面では、興味・関心をもたせる言葉かけ、間の取り方などがポイントとなります。

#### <整理（活動のまとめ）の段階では・・・>

・その時間の指導で終わるのではなくて、家庭に帰ってから、あるいは学校の休み時間などで取り組みたいという気持ちにさせ、余韻を残すことも大切です。そのために、「安全に活動できたか」、「友達と協力して楽しく活動できたか」、「発見したことは何か」等反省項目を決め、毎回必ず自己評価させ、活動を振り返らせることが大切です。

・作ったものを持ち帰らせる場合は、小さい子どもがいる家庭もあるので、製作したものの中で、特に小さいものはむやみに畳の上に置かないなど、注意事項をよく言って持ち帰らせるようにしましょう。

**Q 子どもたちに体験的学習を指導するには何人ぐらい大人が必要ですか？**

**A** 各班に一人大人がいて、フリーの人が1人いるというのが理想的です。さらに、全体的な指導ができる人プラス1、2人でチームティーチングをするのがベストではないでしょうか。

## 子どもたちへの関わり方に関すること

**Q 子どもたちに個別に関わるときに、配慮すべきことを教えてください**

**A** ・特別な支援の必要な子どもたちもいます。子どもたちの実態について必要な事柄をおさえておくことが大切です。もちろん、知り得た情報には、守秘（秘密を守る）義

務があることも忘れないようにしましょう。

- ・どの子にも一様に声をかけることが大切です。些細なことでもいいので、コミュニケーションの機会をできるだけ多くしましょう。例えば、思いつきも大切です。「なぜ」が大切です。多くの経験が選択域を広めます。子どものつぶやきに共感するよう常に心がけましょう。
- ・失敗も肯定し、努力を認め、励ましましょう。失敗の中から工夫した考えが出てきます。



### Q 子どもたちをしかってもいいのでしょうか？

- A 子どものがんばりを認めることやほめることも大切ですが、ダメなことはダメという毅然とした態度も必要です。特に、放課後子ども教室では、ルールを守ることの大切さを理解させ、してはいけないことについては、繰り返し指導することはとても大切です。ただし、「体罰」はいかなる理由があっても許されません。

## その他

### Q 指導スタッフの反省会で、これだけは話題にした方がいいということがありますか？

- A 「子どもが喜んで過ごすことができたかどうか」と「危険なことがなく安全に勉強するという約束ができていないかどうか」等指導者で活動評価項目を決め、毎回チェックするようにしましょう。そうすることで、指導者間の意思統一を図ることができますし、お互いに気づかないことに気づき共通理解・共通実践につながり、指導効果があることとなります。

### Q 活動場所は、固定した方がいいのでしょうか？

- A ・活動場所が空き教室等に固定している場合は、教材や材料を置く場所（コーナー）を設置できたり子どもの作品を展示できたりするメリットがあります。
- ・しかし、活動場所は固定せずに時々変えることも、子どもの意欲を高めるために必要ですので、活動内容によって変更すればよいでしょう。
- いずれにしても、教室実施場所である学校の事情もありますので、学校とよく相談のうえ活動場所を工夫してみてください。



### Ⅲ 放課後子ども教室の活動事例

#### 1 内容別活動の様子

## (1) 私たちの教室は、こんなきっかけや思いで始めました。(教室実施の背景・経緯)

※本文中のページ番号（P）は、本ガイドブック中に詳細情報があります。

### ■ 学校と地域との連携をいっそう進めるために

- 平成 19 年度の少子化による学童保育所閉鎖に伴い、地域住民やPTAの音頭により、平成 20 年度から放課後子ども教室として実施。放課後子どもプラン推進事業の新たなモデルともいえる地域住民総参加による子ども教室である。【宇城市 松合小学校放課後子ども教室】P39
- 帰宅後友だちと遊ぶことの減った子どもたちに、夕方まで体験的な活動を行うことで人間関係育成の上で、また、子どもに関わる大人が、保護者や地域の方であるため、学校のためにも横に広がるネットワークになり、学校と家庭、地域の連携の上でも意義深いと考え実施した。【南関町 南関第四小学校放課後子ども教室】P42
- 町内でいち早くモデル事業として平成 19 年度に開講し、子どもたちの「学び」の場として、また、「体験・交流」の場として、地域で支えあう教育現場を目指すため実施した。  
【長洲町 長洲小学校放課後子ども教室】P60
- 校区内の家庭では 3 世代同居の家庭が多く、放課後は部活動をしない 1～3 年生は、祖父母に見守られ自宅の周りで遊んでいる状況にあった。そこで、地域と学校がともに育てることを目指し、まず校区内の地域の方々と広くふれあう機会として、平成 20 年度から本教室を立ち上げた。【阿蘇市 山田小学校放課後子ども教室】
- 社会教育法改正を踏まえつつ、「地域の中の学校・社会教育との協同」の意義について教職員の意識改革から取り組み、徳育・知育・体育の具体的実践事項の一つとして平成 20 年度に立ち上げた。【阿蘇市 坂梨小学校放課後子ども教室】P33



地域の方との交流

### ■ 校区内の子どもや保護者のニーズから

- 本校区には放課後児童クラブがないが、両親共働きの家庭の増加等により、放課後の子どもたちの居場所が求められていた。そのため、部活動のない学年を対象として安心・安全な居場所を設け、学習活動や体験活動を通して豊かな心を育むことを目指し、平成 20 年度に開設した。【山鹿市 稲田小学校放課後子ども教室】P43
- 波野地域では、子どもたちの家がかなり遠隔地にあり、子どもの数も少なくなっているため、地域の中で集団で遊ぶ姿が減り、成長に必要な体験の機会の減少や、地域の人と交流する機会も減ってきているという状況にある。また、本校区には、放課後児童クラブがなく、部活動に参加できない子どもたちのニーズから実施している。



メンコ遊び

【阿蘇市 波野小学校放課後子ども教室】

## ■ 子どもたちの体験不足を補うために

●本町においては、子どもの少子化、親の共稼ぎ等で学校から帰宅しても1人で過ごす子どもが増えているので、地域住民との交流を通して、安心・安全な子どもの活動拠点(居場所)を設ける必要があった。【芦北町 湯浦小学校放課後子ども教室】 P55

●町内では、児童生徒数が多く通学距離が長いため、登下校の安全確保のため、現在一部シャトルバスを利用している。しかし、帰宅後の子どもの居場所の確保が難しい家庭があり、安全確保と子どものすくすく育つ環境を目指し、甲佐町のモデル校として、取組みを始めた。

【甲佐町 乙女小学校放課後子ども教室】 P54

●本教室実施にあたっては、保護者へ児童の放課後の過ごし方がどのようになっているのかをアンケート調査した結果、地域の中で群れて遊ぶ「遊びの体験」や「生活に基づく体験」等が少なくなっており、更には地域の方々との交流も薄れてきているという状況であった。このようなことから、地域教育力の向上や子どもたちが様々な体験を積める場になるようにと実施した。

【南阿蘇村 白水小(P62)・中松小・久木野小・長陽小・長陽西部小放課後子ども教室】



指あみ

## ■ 放課後児童クラブと連携して、活動を充実させるために

●平成 20 年度、阿蘇郡市の放課後子どもプラン推進事業の一環として指定を受け、放課後の子どもの居場所として立ち上げた。放課後児童クラブも校内で活動しており、放課後の時間の協同的・橋渡しの役割も担っている。

【阿蘇市 内牧小学校放課後子ども教室】

●本市におけるモデル校としての位置付けのもと、平成 19 年度より放課後児童クラブと並行して実施した。

【菊池市 花房小学校放課後子ども教室】 P61



サトイモの苗植え

## ■ 子どもたちの学力向上のために

●平成 19 年度から地域住民やPTA・学校職員の熱い想いを受け、放課後子ども教室として実施。児童の居場所づくり、健やかな心と身体の育成、地域教育力の向上という目標のみならず、児童の学力向上にも力点を置き教室を実施した。

【宇城市 小野部田小学校放課後子ども教室】

●学校では、従前から学級担任を中心に放課後の「学力充実タイム(はぜの実タイム)」を実施していたが、さらに個別

指導にゆとりを持って対応できるようにするために、保護者や地域に支援を依頼して平成 20 年度から実施している。【南関町 南関第三小学校放課後子ども教室】



学習活動

## ■ これまでの地域活動をさらに生かすために

- 網田地区公民館で、6年ほど前から地域の有志によって行われてきた寺子屋活動をさらに進化させ、放課後の子どもの居場所として平成20年度から実施している。

### 【宇土市 網田放課後子ども教室】 P29

- 子どもたちが地域社会のなかで、心豊かで健やかに育つことを目的に、平成14年度から、旧菊水町では、毎月第2土曜日に「いきいき選択学習」を実施（4小学校全校児童の9割程度が参加）し、平成16年度からは、地域子ども教室推進事業として事業実施していたものを継続する形で、平日2回の教室と第2土曜日のいきいき選択学習として実施している。

### 【和水町 菊水南小学校放課後子ども教室】 P40

- 当小学校区内では、年々子どもの数が減少し、またパソコン、ゲームの普及などにより友達と遊ぶ機会、特に異年齢で一緒に遊ぶ機会が少なくなっている。同時に地域とふれあう機会も減少してきている。そこで、一昨年より当校区では、通学合宿などの事業に取り組み、プログラムの中で地域とのふれあいや異年齢集団生活に取り組みできた。これを継続的にまた、より活発にするために本年度より放課後子ども教室に取り組んでいる。



習字活動

### 【大津町 大津東小学校放課後子ども教室】 P46

- 平成16年度から地域子ども教室として「わいわいヒゴタイ 土曜塾」、「子ども水泳教室」、「放課後英会話教室」を開設し3年間取り組み、平成19年度からこれらを生かして放課後子ども教室を実施している。【産山村 産山村放課後子ども教室】 P35

- 平成16年度に放課後の子どもの居場所づくりを目的に「アフタースクール」を村内4小学校で開校し、平成19年度より放課後子どもプラン推進事業として実施している。児童は、スクールバス登下校が大部分を占め、スクールバスの待ち時間を「アフタースクール」で過ごしている。【球磨村 渡小学校「あすなろ教室」・一勝地第一小学校「やまびこ教室」】 P53

- 平成16年度から18年度まで「地域子ども教室」を運営した新和町実行委員会がそのままの組織で放課後子ども教室に移行し、新和小学校の子どもたちのこころよい居場所を確保し、健全な育成を応援している。【天草市 新和小学校放課後子ども教室「ひだまりクラブ」】

## ■ 近隣施設を生かして

- 校区が純農村地帯であるが、近年の就業形態の変化により子どもたちの安全・安心の居場所づくりが求められている。また、校区は登下校に巡回バスを利用しており、水曜日の授業終了後からバスの出発までの時間を有効に利用するため、地域の人材を生かし子どもたちの安全・安心な居場所を作るために平成21年度から実施している。【菊陽町 南っ子教室】

- 平成20年度に隣接する玉水幼稚園の閉園に伴い、幼稚園の空き教室利用と、放課後の子どもの居場所作りとして平成21年度に開講した。【玉名市 玉水小学校放課後子ども教室】



点字の勉強

## (2) 私たちの教室は、このようにして教室運営者を探しました。(教室運営者選任の経緯)

### ■ 学校・教育委員会が連携して

- 校長、市社会教育指導員の推薦によって、地区の主任児童委員をされている方をコーディネーター、前寺子屋活動の学習指導をされていた方々などを学習アドバイザー、地区に住んでいる方の中から安全管理員・活動ボランティアを選任した。

#### 【宇土市 網田放課後子ども教室】P29

- コーディネーターは、この地域に住んでいて人脈が豊富で事業に賛同でき、積極的に協力できる方である。コーディネーターと学校が協議し、地域の中から安全管理員・学習アドバイザーを選任している。菊水西小学校は、「放課後子ども教室」支援協議会で協議し、地域の中から安全管理員・地域との交流活動の講師等を選任している。



料理体験

#### 【和水町 和水町放課後子ども教室】

- コーディネーター1人、安全管理員2人、学習アドバイザー2人は、いずれも地域選出の指導者であり、人望も厚い。特に、学習アドバイザーについては、小学校等から得られた情報をもとに、退職教員の中から選任している。【菊池市 花房小学校放課後子ども教室】P61

- 学校教育及び社会教育に関わった経験がある社会教育指導員を、コーディネーターに選任した。

#### 【益城町 飯野小・津森小学校放課後子ども教室】P49

- コーディネーターは、PTAや子ども会役員の経験を持ち、学校や地域と精通した方で、安全管理員は、学校行事に積極的に参加されておられ、学校から推薦をいただいた。



将棋

#### 【長洲町 六栄小・長洲小学校放課後子ども教室】P60

### ■ コーディネーターが中心となって

- コーディネーターは、この地区に住んでいる元小学校長で、地域の中でも人望が厚く、青少年教育担当指導員として活躍されている。安全管理員・地域協力者はコーディネーターの人脈により、地域の有志約30人が登録されている。

#### 【宇城市 小野部田小学校放課後子ども教室】

- コーディネーターは、生来からこの地区に住んでいる方で人脈が豊富で人望も厚い。地区民の総意でコーディネーターが決定した。このコーディネーターが核となり地域の中から安全管理員を5人、地域協力員として約40人が登録している。【宇城市 松合小学校放課後子ども教室】P39



教室運営者

- 地域のキーパーソンから情報もらい、人を呼べる人材をコーディネーターに据え、学校と十分協議しながら、ボランティアの人選・年間計画作成を協同して行った。コーディネーターを中心に地域の多くの方々に声かけをしていただき、地域の貴重な人材を多数発掘することができた。さらに、それぞれのプログラム担当者が人材を集めたことで、総勢 43 名のボランティアスタッフを登録することができた。

【阿蘇市 坂梨小学校放課後子ども教室】 P33

- コーディネーターは、生来からこの地区に住んでいる方であり、人脈が豊富で人望も厚い元教育長にお願いしている。コーディネーターが核となり、地域の中から安全管理員を 2 名、地域協力員として 28 名登録している。

【阿蘇市 尾ヶ石東部小学校放課後子ども教室】



連風

■ 関係機関・団体等へ依頼して

- コーディネーターは、地域と学校で協議し地域で子どもたちに読み聞かせ活動や公演活動を実践していたグループの代表を推薦・決定し、安全管理員、学習アドバイザーについては運営委員会にて検討し、協力支援を依頼した。

【産山村 産山村放課後子ども教室】 P35

- コーディネーターには社会教育指導員 2 名があたり、学校との調整、安全管理員等の調整を実施。安全管理員には、地域の民生児童委員が中心となり、PTAやボランティア 14 名が登録している。活動指導員には、7 人のボランティアの方が登録している。【玉名市 玉水小学校放課後子ども教室】
- コーディネーターは、植木町レクリエーション協会の理事長をつとめ、子どもの対応にも慣れている。この地区に在住で経験豊富で人脈もあり、人望も厚く信頼されている方である。コーディネーターが核となり、地域の中から学習アドバイザー 1 人・安全管理員 2 人・地域の協力員として 24 人登録している。【植木町 菱形放課後子ども教室】 P32



日本一のくぬぎの大木

- 本教室はコーディネーターと学習アドバイザーは退職校長にお願いしている。安全管理員は民生児童委員や読み聞かせの会員が中心となっている。

【御船町 七滝中央小学校放課後子ども教室】 P36

- コーディネーターは、退職校長会やPTA等から情報の収集を行い選任している。安全管理員は、保護者や婦人会、退職教員等に協力依頼を行っている。学習アドバイザーは、地域の愛好会や団体等に協力依頼を行っている。

【八代市 郡築小・昭和小学校放課後子ども教室】 P50



牛乳パックリサイクル工作

- 安全管理員は、新和小学校読み聞かせの会の会員を主として8名、設立当時はほとんど小学校の保護者だったが、現在は地域住民として企画・参加している。

**【天草市 新和小学校放課後子ども教室】**



バス待合室で宿題

**■ 広報・公募を活用して**

- コーディネーター1名は、地域に住んでいる人脈が豊富で人望も厚い元校長先生に依頼したところ、教室の趣旨を十分に理解され了承された。学習アドバイザー1名と安全管理員2名は、広報で募集したところ、元塾の講師や地域行事に積極的に参加している子ども好きな方が集まり、学習支援や遊び活動を見守っている。

**【荒尾市 桜山小学校放課後子ども教室】 P58**



竹とんぼ作り

- コーディネーター及び安全管理員は、PTA、民生委員である。活動の様子を実際に見られて、趣旨等を十分説明したうえで協力を得ている。活動支援ボランティアや講師については、人材バンクを設置したが人材はなかなか集まらなかった。そこで、町の広報紙を利用し、活動の様子を伝えたり、ボランティアの協力を呼びかけるなど、町民に活動の趣旨や内容を理解し、協力してもらえるような取り組みに努めている。

**【玉東町 山北・木葉小学校放課後子ども教室】 P59**



モビール作り

- コーディネーターは、元学校教職員で人脈が豊富であり、教室の趣旨等を説明した上で快諾していただいた。アドバイザーは公募により募集を行なった。

**【山鹿市 稲田小学校放課後子ども教室】 P43**

- コーディネーター及び安全管理員は、PTA総会等での主旨説明や募集の文書を通して保護者や地域の方から公募している。

**【南関町 南関第三小学校放課後子ども教室】**



グラウンドゴルフ

### (3) 私たちの教室では、こんな工夫をしています。(教室実施の工夫点)

#### ① 多様な地域の協力者の参加事例

##### ア P T A等の参画

###### ■宇土市 網田放課後子ども教室 (P29参照)

●網田地区の各種団体が、「地域の子どもは地域で育てる」ため、P T Aと連携して放課後の子どもたちの居場所づくりを応援する試みを行っている。『出来る人が、出来る時に、出来るだけ』を合言葉に、活動ボランティアの約3割がP T A会員であることが特色の一つである。各学期ごとに行う活動ボランティアスタッフ会議では、活動ボランティアの方々がそれぞれの得意分野を担当し、割り振って計画を立てている。スポーツ・地域伝承行事等は嘱託会などの方々、郷土料理・季節の行事などは婦人会・P T A会員がそれぞれ企画を担っている。特にP T Aにおいては、子どもたちの育ちを地域に丸投げしないという保護者の姿勢が活動内容にも反映されており、それぞれの役割の方々が刺激を受け、地域ぐるみの活動へつながってきている。



PTAと一緒にやっづくり

###### ■和水町 菊水西小学校放課後子ども教室

●菊水西小学校「放課後子ども教室」支援連絡協議会を設置し、放課後子ども教室がスムーズに運営できるような体制を整えている。  
メンバー：学校関係者、放課後子ども教室スタッフ、P T A役員、川沿グランドゴルフ支部、読み聞かせ(ひばりの会)、史談会、食生活改善推進員など。



ひばりの会による読み聞かせ

###### ■玉名市 玉水小学校放課後子ども教室

●安全管理員として、地域の民生児童委員の方を中心にP T A、地域ボランティアの方々が登録し協力いただいている。民生児童委員については、民生児童委員の会議で依頼した。P T A、地域ボランティアについては、学校を通じ募集をかけた。地域の活動指導員により、点字や百人一首、環境など、地域の特性や伝統行事を大事にしながら、プログラムを企画運営している。



童謡(お手玉を使って)

###### ■水上村 わんぱくキッズ塾 (P52参照)

(湯山小・岩野小学校放課後子ども教室)

●学校でも家でもないところで過ごす子どもたちの生活する姿を保護者に実感してもらうとともに、保護者と一体となってこの事業に取り組むことを認識してもらうために、2学期から3学期の間に、保護者にそれぞれ1日だけ協力員として事業に参加してもらっている。



ちぎり絵づくり

## イ 公民館講座・自主サークル・地域の各団体等の協力

### ■宇城市 小野部田小学校放課後子ども教室

- 地域の方々の特技を活かしたプログラムを企画しているが、公民館講座を修了した方や地域の名人さんたちに指導をお願いし、子どもたちと交流をしてもらっている。
- 完成した作品を校内に展示したことにより、子どもたちの意欲を引き出すことができた。また、地元郵便局や福祉施設へも展示をしたことで、地元への更なる周知活動ができ、地域の活力が向上してきた。
- 地域協力員は毎日3～5名ほど来校しているので、コーディネーターが校内に指導者名簿・指導者の写真を掲載している。地域と学校をつなぐこのしかけが、協力員には非常に嬉しく、やる気も沸いている。



俳句に挑戦

### ■和水町 神尾小学校放課後子ども教室

- 公民館講座サークル「コスモス学級」の協力により、サークル活動で学んだことを子どもたちに教えてもらっている。ふれあいの時間にもなっている。
- 地域の方の協力により、学校区の歴史について学習をした。自分たちの住んでいる地区なので子どもたちも関心を持っていた。
- 学校生活では体験できないような内容をスタッフで検討し、子どもたちが楽しく参加できるよう工夫している。(放課後学習向上アドバイザーなどの活用)



そら豆人形作り

### ■長洲町 六栄小学校放課後子ども教室

- 開講当時、地域教育力の活性化を基本に、本町ゴルフ協会や地域の読み聞かせ団体、地域活動団体等へ協力をお願いをしたところ、快く引き受けていただいた。また、より一層充実した活動ができるよう、本町の社会教育関係団体や文化団体、自主サークルへボランティア要請のお願いをし、当初より協力者が年々増えてきており、地域で支えあう教室の活動ができている。



日本舞踊(おゆうぎ)の指導

### ■八代市 郡築小・昭和小学校放課後子ども教室 (P50参照)

- 地域で活動されている短歌グループ、環境サークルや和太鼓の指導者、パソコンのインストラクター、退職教員等の協力を得ながらコーディネーターと行政担当者が連携して進めている。専門のインストラクターによるパソコンの指導や元英語教諭による英語活動をゲームを交えながら学んでいる。



パソコンに挑戦

### ■南阿蘇村 久木野小学校放課後子ども教室

●地域の方々はもとより、村外の方々にもご協力を頂いてプログラムを実施している。コーディネーターの人脈を生かし子どもたちがより多くの体験活動ができるように工夫している。また、高校生や大学生にも協力をお願いしプログラムを提供してもらっている。様々なプログラムを実施しているが、コーディネーターが協力者に声をかけ、その方がまた他の人に声をかけていただき、協力者の輪が少しずつ広がっていている。地域には色々な特技をもっておられる方が多く、日頃あまり体験できないことなども体験でき、体験したことを家に帰ってから親にして見せたりと充実した活動を行っている。地域の皆さんからは、放課後子ども教室で子どもたちと接することで元気づけられたと喜んでいただくことも多い。



盆栽に挑戦

### ■相良村 相良村（相良北小学校）放課後子ども教室「四浦塾」（P37参照）

●夏季四浦塾は、夏休み期間中ということもあり、通年活動と違って、学年が上の児童の参加も多いため人数も増え、また活動時間も長い。そこで、本校独自のボランティアネットワーク「かせすっ隊」（登録者は保護者や地域の方）のメンバーなどに協力を依頼し、いつもは体験できないような活動をしながら地域の方との交流を図る機会を設けている。

●<創作活動>芸術作品（図画・工作・書道等）の製作。「現代書道」は、本校のギャラリーに定期的に作品を展示して頂いている方に指導してもらいながら、いろんな素材を筆にして自由な発想の書道作品を製作。

※「かせすっ隊」にはこの他にも「読み聞かせ」や「米作り」「お茶つみ」「紙すき（和紙作り）」など、学校行事に係る地域の協力者が登録されている。

### ■相良村 相良村（相良北小学校）放課後子ども教室「サガラッパ塾」

●地域の達人の発掘を行い、夏季講座（夏期休業日実施の子ども教室）で集中的な活動をお願いし定着している。また、商工会・老人会・退職教員から積極的な申し込みがあり、活動をお願いしている。



現代書道



陶芸に挑戦

### ■荒尾市 八幡小学校放課後子ども教室

●(社)荒尾市シルバー人材センター所属の竹細工ボランティア班の協力を得て、竹やわらを使った体験・工作活動を実施している。地域の協力者は、コーディネーターが中心となって確保し、その協力者がそれぞれの友人に声をかけられ、協力者の輪が少しずつ広がってる。



力を合わせてしめ縄作り

## ② 地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

### ア 大規模校の活動の様子

#### ■阿蘇市 宮地小学校放課後子ども教室 参加学年・人数 1～3年生 64人

●参加人数が多いため、約20名ずつの3グループに分けて活動している。名札と名簿を作り、毎回の出欠と子どもの把握に努めている。そして、教室でのルールを決め、参加希望を募る段階で保護者にもしっかり伝えるようにしている。

●異年齢の子どもたちが交流できる場となり、みんなで協力し、楽しく活動することができている。活動の様子と毎月の活動予定を通信にまとめ、保護者・学校・学童クラブへ報告している。また、活動の様子を市の広報紙で情報発信したり、生涯学習や地域での活動グループへの呼びかけを行い、地域の方々に理解と協力を得ている。地域の協力者の方々がそれぞれに声をかけていただき、協力者の輪が広がった。



#### ■菊陽町 菊西キラキラ教室(菊陽西小学校) 参加学年・人数 1～6年生 180人 (P45参照)

●平成20年度に引き続き実施した事業であるが、昨年に比べ参加人数が約60名ほど増加(参加1～6年生 180名)したため、安全面の確保とアドバイザーと安全管理員の負担を軽減するために、実施する日を「月・木班」、「火・金班」の2班に分け、菊西キラキラ教室を開催した。「月・木班」「火・金班」の班を分けるに際しては、教室に登校する方向毎に分け、出来るだけ集団で学校に通えるように工夫した。

●生涯学習の成果を活かすために近隣の町民センターで実施されている講座の先生・受講生の方に協力を依頼し、「絵手紙」等の教室の日を設けた。



#### ■御船町 御船小学校放課後子ども教室 参加学年・人数 1～4年生 99人

●平成19年度から実施。20年度までは、全学年を対象に行なっていたが、参加者が多く空き教室確保ができないため、21年度は4年生までの募集とした。

●毎年子どもたちに多くの体験をしてもらうために、本教室に隣接するカルチャーセンターの自主文化事業の講師や学ぶ人に協力をお願いしている。

茶道教室ではお手前を体験したり、童謡教室で一緒に歌を歌ったり、年配の方々から昔の遊びを教えてもらったりするなど、楽しみながらふれあいの交流を重ねている。地域の技能を持った人にインストラクターとして紙工作や絵手紙、ニュースポーツなどを指導してもらっている。99人の参加者が、「学びの森」に参加するのを楽しみにしてくれている。



## イ 小規模校の活動の様子

### ■美里町 励徳小学校放課後子ども教室（参加学年 1～6年生 19人）

●地域の元気な高齢者をお願いして、グラウンドゴルフや太鼓の指導を受けたり、段ボール箱で家を作って遊んだりしている。放課後ということで、学年を超えて協力しながら楽しく遊ぶ時間となるよう工夫している。

#### ●励徳小学校放課後子ども教室のお約束

- 1 先生や指導される地域の方に対して、失礼な言葉づかいや行動がないように気をつけましょう。
- 2 わがままなことや、人に迷惑になることは、してはいけません。みんなで協力して楽しく活動しましょう。
- 3 先生や指導される方が、お話をされるときは、おしゃべりや手遊びなどをせず、顔を見てしっかり聞きましょう。
- 4 「こんにちは」「お願いします」「ありがとうございました」などのあいさつは、相手の顔を見て、大きな声で元気よくしましょう。
- 5 物を大事にあつかい、整理（せいり）整頓（せいとん）、後始末（あとしまつ）をしっかりとしましょう。



地元の方と銭太鼓の練習

### ■大津町 大津東小学校放課後子ども教室（参加学年 1～6年生 42人）（P46参照）

●当校は、全校生徒 59 人の小規模校であるが、放課後教室の募集には 42 名の参加があった。活動を 1、2 年生 17 名と 3～6 年生 25 名に分けて、異年齢のふれあいを重視しながら地域からの応援を得て、隔週ごとに集会室での習字、体育館で英語を交えたゲームを実施している。

●秋の学習発表会時に地域、保護者に事業の活動、成果を伝えるために活動写真、習字作品等を展示した。



体育館での楽しいゲーム

### ■天草市 一町田小第一分校放課後子ども教室（参加学年 1～3年生 11人）

●小規模の学校で全学年（1～3年）の全員が参加しているので学年別でなく、異年齢での活動を中心に行っている。

●火曜日には、学習活動をやり、その後バドミントンを楽しんだり、運動場で鬼ごっこをしたりして異年齢で活動している。

●木曜日には、「遊びの活動」として、室内では折り紙、オセロゲームなどをやり、運動場では鬼ごっこなどをしたりして異年齢集団で活動している。

●木曜日には、月に一回、学習アドバイザーの指導、また、安全管理員の協力のもと学習活動として「科学遊び」などの活動を実施し、学ぶ活動の充実を図っている。



科学遊び

## ウ 平日毎日実施している活動の様子

### ■宇城市 松合小学校放課後子ども教室（P39参照）

●月曜日の習字、水曜日のそろばんは、年間通して継続的に取り組み、希望者は昇級試験や検定試験にチャレンジしている。火曜日は、学校の教職員と地域住民との協働のもと、学力向上のための学習プログラムを計画。体験学習や交流学習を木曜日と金曜日に実施している。地域の特性や伝統行事を大事にしながら、プログラムを企画運営している。



絵手紙に挑戦

●毎月、学校を通して児童宛に活動プログラムを配布している。

### ■水上村 湯山小・岩野小学校放課後子ども教室（P52参照）

●毎日実施しており、最初の1時間が宿題や読書をして過ごす時間、その後の1時間が自由遊びの時間としており、放課後の過ごし方が定着してきている。

●学校でも家でもないところで、子どもたちが生活する姿を保護者に実感してもらうとともに、保護者と一体となってこの事業に取り組むことを認識してもらうために、2学期から3学期の間に、保護者にそれぞれ1日だけ協力員として事業に参加してもらっている。



学習時間 宿題

●当番でわんぱくキッズ塾に参加した保護者からは、普段と違う子どもたちの様子を見られて良かった、安全管理員さんの苦勞がわかった、この事業があってよかったなどの声がよせられている。

### ■球磨村 渡小学校「あすなろ教室」・一勝地第一小学校「やまなみ教室」（P53参照）

●月曜日から金曜日までのプログラムは、宿題などの補充学習を行い、終了後は上級生を中心に、教室、グラウンドで思い思いの活動を行う。地域の自然や特色を生かしたプログラムを企画しているが特に、夏休み冬休み長期期間は学校周辺に出かけ、季節感を感じ、日本の伝統的な行事を意識した内容になるように工夫している。



いも掘り

●児童数が減少傾向にあるため、放課後子ども教室専用の余裕教室がある。教室では、始まる前のあいさつなどの生活指導などにより集団での生活がスムーズに行えるようになった。

## エ プログラム内容を工夫した活動の様子

### ■玉名市 滑石小・小田小学校放課後子ども教室

●火曜日は、学校の教職員が中心となり学力向上のための学習プログラムを計画。宿題やプリント学習、読書活動などを実施している。金曜日は地域の活動指導員による体験学習を実施。おやつ作りやはぜのろうそく作り、環境学習など、地域の特性や伝統行事を大事にしながら、プログラムを企画運営している。子どもたちと地域のつながり、学校の先生と地域のつながりが出来てきた。(滑石小)



はぜのろうそく作り



神楽へ挑戦

●水曜日は、学校の教職員が中心となり学力向上のための学習プログラムを計画。算数や国語を中心に自由学習やカルタなどの指導をしている。木曜日は、山部田地区神楽保存会の協力により、校区の熊野座神社に伝わる神楽を実施。地域の伝統文化を学び、継承している。子どもたちは、神楽の練習に喜んで参加し、意欲的に取り組んでいる。地域伝統文化に触れ親しむことで「地域を愛し、大切に作る心」が確実に育っている。(小田小)

### ■和水町 和水町放課後子ども教室

●昔の農具や土器などを見学する地域学習で、地域住民を巻き込んだ取組等、学習活動や体験・交流活動を行うことでメリハリをつけて子どもたちの集中力が欠けないようにしている。継続的に取り組むことにより、あいさつや整理整頓等も確実に出来るようになり、子どもたちの成長する姿を見ることが出来た。(菊水中央小)



節分のお面作り

●学習活動（プリント学習）は、スタッフが答えあわせをし、シールを集めて、成果が見えるように工夫している。学習活動は、少人数の方がより効果的ではないかと考え、1年生と



プリント学習

2年生と別教室で行っている。学習後の体験・交流活動においては、1年生、2年生合同で行うようにしている。体験・交流活動では、縄跳びやサッカーなど、学校の授業に反映されるような取組を行っているほか、季節に応じた活動も取り入れるなどして（七夕飾り作り、秋にはどんぐりを使ったこまづくり、冬には凧づくり・凧あげなど）活動に対する子どもたちの関心意欲を高める工夫をしている。(菊水東小)

●放課後という解放感があるので、時間を区切って活動

することにより、子どもたちの集中力を欠かさないように工夫している。放課後子ども教室の開始時に「読み聞かせ」を行い、子どもたちが集中出来るような環境づくりの工夫をしている。異年齢での活動が増え、高学年が低学年のお世話をしたり、手本となったりしているので「人を大切にする心」が育っていると感じられた。(春富小)



新聞遊び

■南関町 南関第三小学校放課後子ども教室

●火・木曜日：学力充実タイム、水曜日：外遊び計算や漢字などのドリル学習における丸付け等のお手伝いや個別支援をお願いしている。担任が、個別指導にゆとりを持って対応できている。子どもたちはスタート当初から比較するととても落ち着いてきた。また、学校内はもちろん地域でも自分からすすんであいさつ等できるようになった。地域の方々にとっては、次世代の担い手育成という観点からだけでなく、自らの生涯学習の成果を活用する場としても学校に足を運び、子どもたちと触れ合うことで生きがいがづくりの場となっている。



学力充実タイム

■菊陽町 南っ子教室（菊陽南小学校放課後子ども教室）

●初年度であるため、活動内容を「学び」「遊び」「交流」をテーマに設定し、「学び」については地域の人材を生かして元高校英語教諭の方に英語の勉強を依頼して実施した。「遊び」については、環境教育グッズを活用して短い時間ではあるが楽しい教室づくりに努めた。遊びの中からも考える力を養えるようにと教室の運営に携わってきた。移動の際に、点字ブロック上に自転車が止まっていると集団で指摘する等、自覚が芽生え頼もしく感じている。



英語学習

■阿蘇市 尾ヶ石東部小・内牧小・山田小学校放課後子ども教室

●老人会の方とのグラウンドゴルフをベースにし、地域の方々の特技を生かしたプログラムを企画している。校区内の狩尾二区・三区に古くから伝わってきた虎舞は、民俗芸能の一つである。子ども教室では狩尾3区の虎舞保存会の方を講師として、体育館において虎舞に取り組んだ。活動内容は、はじめに虎舞についての説明、「壁塗り」「出羽」「玉とり」等の舞いである。子ども教室での虎舞は、いずれの児童にとっても、舞い、踊る楽しい時間である。子どもたちは、学校や家庭ではできないような様々な体験活動や交流活動を行うことにより、向上心の高まりが見られるとともに、虎舞等を通して地域に残る伝統文化の素晴らしさに触れることができている。教室では、始まる前のあいさつ、終わった後のお礼の言葉等を重視し、子どもたちはスタート当初から比較すると格段にあいさつができるようになっている。（尾ヶ石東部小）



虎舞

●阿蘇の自然を実感できる体験活動を企画。校内の小農園で阿蘇の野草の管理、野菜の栽培・収穫等を通して、自然や季節感を実感できるプログラムを実施。地域の人材を有効に活用した多種多様な体験プログラムを企画している。焼き物づくり・凧づくり・しおりづくり・紙すき体験・郷土料理づくりなど、年間を通して児童の興味関心を引く魅力的な体験活動を企画運営。専門性を持った地域のボランティアの方との交流は、子どもにとって貴重な学びの

場にもなっている。教室では、始まりや終わりのあいさつ、ランドセルや靴の並べ方、活動後の片付け等の生活指導を通して、子どもたちの基本的な生活態度の習慣化を図っている。また、地域のボランティアの方々との交流は、コミュニケーション能力の育成にもつながっている。(内牧小)



陶芸家を招いて焼き物づくり

●地域の方々の特技を生かしたプログラムを企画している。

特に、地域の伝統的な行事や食文化など意識した内容になるように工夫している。3年生のそろばんは、年間通して継続的に取り組んでいる。1・2年生は、地域の伝統行事を大事にしながら、プログラムを企画運営している。これからも、地域の方々に学校の様子を伝え、学校へ足を運んでいただく機会となるよう努めていきたい。



門松作り

また、地域の伝統や文化を子どもたちへ伝える機会としても生かしていきたいと考えている。始めて2年目となるが、子どもたちも楽しんで参加しており、昨年度より参加者も増え、保護者や地域の方々の理解も得られてきていると感じている。

(山田小)

■南阿蘇村 長陽西部小学校放課後子ども教室

●定期的に実施しているプログラムで『歌って遊んで』というプログラムは、地域の保育士の方々にご協力を頂いている。ピアノの伴奏に合わせて、童謡を歌ったり、英語の歌や、子どもたちが大好きなアニメの歌に併せて歌ったり踊ったりしている。その他にも地域の方々の特技を生かしたプログラムを実施することで、地域の方々との交流が生まれることや、季節に応じた日本の伝統的な行事等を意識した内容になるように計画している。また、子ども教室のスタッフによる人形劇グループが結成され地域から子ども教室へという面と、子ども教室から地域活動へという二つの面をもって活動を実施している。いろいろなプログラムを展開していくことで、子どもたちの個性が生かされている。



「歌って遊んで」

■天草市 新和小学校放課後子ども教室

●水曜日、木曜日は基本的に子どもたちの自主性を重んじ、自由に活動することが多い。最初に宿題を終えてから、その後野球や、キックベースボール・縄跳びなど、高学年・低学年が一緒に仲良く遊んでいる。月1回の週末活動は日ごろなかなか出来ないような体験活動を企画・実施している。地域の皆さんに手伝っていただき、料理教室や野外体験、また町内外の学校の理科の先生方に協力をお願いして実施している科学体験は、保護者にも大変好評である。いろいろな体験を通して、子どもたちはたくましく育っている。好奇心が旺盛になってきていると感じている。



焼き板作り

### ③ 安全・安心方策の工夫事例

#### ■南阿蘇村 白水小(P62参照)・中松小・久木野小・長陽小・長陽西部小学校放課後子ども教室

●安全管理マニュアルを作成し活用している。マニュアルの中には教室実施前の安全点検表を添付しているので、実施前に教室の環境整備を行っている。また、実際に教室が始まる前に村体育協会主催の救急救命講習会に参加してもらい、安全管理の知識を習得してもらう。

●教室参加児童は、登録カードを提出してもらっているが、カードには緊急時の連絡先やアレルギーなどの情報を記載してもらい、安全管理員は常に保護者との連絡が取れるようにしている。プログラムによってはより注意を払う必要があるプログラムもあるため、その時はより多くのボランティアに協力を頂いて実施している。

●中松小学校放課後子ども教室は、教室終了後の下校方法は保護者迎えのみとしている。そのため、迎えに来られた保護者は教室の中まで迎えに来ていただいている。方法はどの学校も共通しているが、一番最初のプログラムでオリエンテーションを実施している。これは教室での約束事や1年間使用する名札作り、教室の看板作成をしている。出欠の確認は、この名札と出席名簿と学校からの連絡で行っている。まず、教室に来たら順番に安全管理員にその日の健康状態等を伝え、その後名札を着



出席・健康チェック・下校時の確認



詩吟教室

用させる。名札が残っている子どもが欠席となり名簿に記載する。教室が終了したら保護者が教室に来られた子どもは安全管理員へ行き、誰が迎えに来たのかを伝えて名札を返却させ保護者へ引き渡す。確実に保護者へ引き渡すことで下校時の安全管理を図っている。(中松小)

●長陽小学校放課後子ども教室では、日常の安全管理は、安全管理マニュアルや出席簿、名札等を使って児童を確認しているが、下校方法について3パターン(スクールバス・

児童クラブ・保護者迎え)の方法で下校しているため、教室終了後は下校方法で整列させ順に下校させる。スクールバス乗り場へ安全管理員が子どもたちを誘導し全員乗った事を確認する。その後、児童クラブの教室へ全員連れて行き、その後、保護者迎えが来られて引渡している。保護者迎えの児童は誰が迎えに来られたのかを確認し保護者に引渡している。(長陽小)



モグラたたき作り

#### ■和水町 春富小学校放課後子ども教室

●スタッフ同士の安全管理の情報共有のため、放課後子ども教室開始時刻より早めに集まり情報交換を行っている。また、放課後子ども教室参加者は出席簿により確認している。下校においては、保護者のお迎えを確認し、保護者との連携を図るために放課後子ども教室での様子などを報告している。放課後子ども教室以外でも、子どもとの関わりが増え、買物で会ってもあいさつをしてくれるようになった。



学習の時間

### ■甲佐町 乙女小学校放課後子ども教室

- 当教室児童は、帰宅手段として、保護者の直接の迎え、定期バス利用による帰宅がある。教室までの直接の迎えとし安全確保を行い、その際、指導者との直接会話による連絡や信頼関係作りに役立っている。また、バス帰宅者に対しては、バス停までの指導者の確実な送りと、バス停から自宅までの保護者による迎えの徹底をしている。



指導者による見送り

### ■芦北町 湯浦小学校放課後子ども教室

- 保護者のお迎えの時、必ず教室まで来て、安全管理員・子ども・保護者の顔を必ず確認してから帰宅して頂いている。
- 地域の方々との交流の場として「昔遊び」等の活動を実施したことで、ボランティアと子どもがお互いに顔を覚えることができた。放課後や休日に声かけができるようになり、安心・安全な子どもの居場所が地域へも広がった。



手作り羽子板づくり

### ■阿蘇市 波野小学校放課後子ども教室

- 日常の安全管理
  - ・協力者の方と事前に話し合いながら準備を完全にしておく。
  - ・子どもが落ち着いて参加できるように最初に話をして安全に留意する。
  - ・放課後ということもあり、子ども達は気が緩みがちなので、挨拶や言葉遣い、片付け等をきちんとさせる。
  - ・地域の指導者の方以外に学校職員が安全面での支援、活動後の安全確認、さらに終了後、整列させスクールバスに乗るまで指導に当たっている。
- 活動の広報
  - ・学校便り等で保護者に活動の様子を伝えている。



そば打ち・そば料理体験

### ■玉東町 木葉小・山北小学校放課後子ども教室（P59参照）

- スタッフ個々の安全対策に関して危機意識に差が生じないように「安全管理チェックリスト」を記入するなどして、スタッフ及び関係者の危機意識の共有化に努め、事故を未然に防ぐ取り組みを行っている。
- 定期的開催する安全対策会議では、学校とスタッフとの共通理解を深め、より安全で安心な活動ができるよう連携を図りながら安全対策に努めている。
- 町内2校のそれぞれの活動が円滑に実施できるよう、コーディネーター連絡調整会議を定期的開催して、講師への依頼や協力要請、安全管理員の相互協力などについて調整を図り、子どもたちが安全で楽しく活動できるよう配慮に努めている。



玉東産のお米でおにぎり作り

#### ④ 放課後児童クラブ（学童保育・学童クラブ）との連携事例

放課後子ども教室は、実施小学校の希望するすべての子どもたちを対象にした取組です。両事業が連携をして工夫をすれば、放課後児童クラブに参加している子どもたちでも、放課後子ども教室へ参加することができます。また、両事業の情報や指導者を共有したり、合同で活動したりすることで、安全管理面や両事業の活動内容の充実が期待できます。子どもたちのために、できることから始めてみませんか！

放課後児童クラブとの連携内容(例)	
目的連携	①両事業の趣旨を共有し、共通の目的をもつ。 ②運営委員会を実施して、放課後対策事業のニーズの把握、事業計画を策定する。
情報連携	③両事業の指導者が連携して、活動計画・内容・活動場所を情報交換する。 ④学校と連携して、保護者に合同で情報を発信する。
活動連携	⑤送迎を含めた安全管理方策を連携する。 ⑥ボランティア等の地域の協力者を共有する。 ⑦子どもが両事業に参加する。また、両事業が合同で活動をする。

##### 運営委員会の充実（目的連携①②）

<p>■菊池市 花房小学校放課後子ども教室（P61参照）</p> <p>●放課後児童クラブも並行して実施されていることから、両事業に関与するスタッフを束ねる形で運営委員会を設置し、連携を図っている。特に、両事業に参加する児童の指導者による受け渡し等、児童の安全管理に関する連携の強化に努めている。</p>
<p>■甲佐町 乙女小学校放課後子ども教室（P54参照）</p> <p>●運営委員会で、放課後児童クラブより避難訓練等の実施について聞くことができ、放課後子ども教室で避難訓練を実施した。</p>

##### 両事業の情報の共有・子どもが両事業に参加する（情報・活動連携③④⑤）

<p>■宇土市 網田放課後子ども教室（P29参照）</p> <p>●放課後子ども教室終了後、安全管理員が網田小学校から約150mほど離れた網田学童クラブ（放課後児童クラブ）へ子どもたちを送り届けている。また、定期的に学童クラブへ連絡し、子どもたちの入所・退所の確認等を行っている。</p>
<p>■宇城市 小野部田小学校放課後子ども教室</p> <p>●毎月、児童には学校を通して活動プログラムを配布している。同様に学童保育所や安全管理員地域協力者にも事前に活動プログラムを配布している。</p>
<p>■美里町 中央小学校放課後子ども教室（P57参照）</p> <p>●当初は学童クラブ（放課後児童クラブ）を利用している子どもが参加できないという意見が出たため、放課後子ども教室が終了した後、学童クラブへスタッフ引率で送る措置を講じた。この結果、放課後子ども教室への参加者が増えた。</p>
<p>■南阿蘇村 白水小学校放課後子ども教室（P62参照）</p> <p>●白水小学校放課後子ども教室は、現在、放課後児童クラブの子どもたちが100%参加している。放課後子ども教室のプログラムは、この放課後児童クラブにも毎月配布をプログラムや活動内容の情報を共通理解するようにしている。（情報連携）また、放課後子ども教室終了後には放課後児童クラブ参加者は教室で待機させ、児童クラブの先生が教室まで迎えにきてもらい、移動時の安全管理に努めている。</p>

### ■南阿蘇村 長陽小学校放課後子ども教室

- 毎月発行している放課後子ども教室のお知らせを放課後児童クラブにも配布（全児童クラブ共通）している。そのことでプログラムの内容などを共通理解してもらっている。また、教室終了後には安全管理員が放課後児童クラブの教室まで子どもたちを連れて行き、子ども教室での子どもたちの様子などをお知らせしている。

### ■多良木町 多良木・久米・黒肥地小学校放課後子ども教室（P56参照）

- 参加児童は保護者の迎えが厳守。学童クラブ（放課後児童クラブ）へは、安全管理員が送る。
- 活動の広報については、新学期PTA総会での放課後子ども教室の周知、子ども教室通信の発行を行っている。

## 地域の協力者の共有・合同での活動（活動連携⑥⑦）

### ■荒尾市 桜山小学校放課後子ども教室（P58参照）

- 荒尾市教育サポーター事業（派遣ボランティア事業）で登録された市民ボランティアが、「放課後子ども教室」でオカリナ演奏会を行った。この事業のサポーターは、団塊世代や高齢者等が、職業や日々の生活、学習等で得た知識や経験、技術等を生かし、施設の学級・講座の講師などとして「支援協力」を行うものである。同市学童クラブ（放課後児童クラブ）へも「ヒップホップダンス」の講師が派遣され、楽しい活動が実施された。



オカリナ演奏会

### ■長洲町 六栄小学校放課後子ども教室

- 20年度から、学童保育（放課後児童クラブ）と連携した取組みを開始し、現在では、毎月1回、読み聞かせやレクリエーションといった活動を合同で実施している。さらに、22年度からは、「地域子育て創生事業」（国庫補助事業）を活用し、「長洲町放課後子どもプラン連携促進事業」において、合同で実施するために必要な備品や消耗品を整備し、より連携した活動に向けた取組みを予定している。



放課後児童クラブと合同実施

### ■玉東町 木葉小・山北小学校放課後子ども教室（P59参照）

- 放課後子ども教室の参加児童が、そのまま学童保育（放課後児童クラブ：保育園で開催）へ参加する場合には、保育園からお迎にされる体制が整っており、移動における安全面での連携が図られている。（わくわく木葉っ子教室）
- 学童保育（放課後児童クラブ）に参加する児童とその保護者とわくわく教室との交流会（おやつ作り）では、互いの活動報告や意見交換などを行い、放課後活動の連携した取組みを実施している。（わくわく山北っ子教室）



放課後児童クラブとの交流会

## **2 教室別活動の様子**

# PTAと連携した網田寺子屋活動

## 網田放課後子ども教室（宇土市）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本教室は、9年ほど前から網田地区公民館で地域の有志によって行われてきた寺子屋活動をさらに進化させ、放課後の子どもの居場所として平成20年度に立ち上げられた、放課後子どもプラン推進事業の1つである。

### ◆教室運営者選任の経緯

○本事業立ち上げ当時（H20年度）の校長や市教育委員会社会教育指導員（網田地区担当・在住）の推薦によって、地区の主任児童委員をされている方をコーディネーター、前寺子屋活動の学習指導をされていた方々などを学習アドバイザー、地区に住んでいる方の中から安全管理員・活動ボランティアを選任した。

### 教室の概要

- ◇実施場所 網田小学校の余裕教室、体育館、グラウンド
- ◇実施日・時間 水・金曜日 15:30～17:00
- ◇年間実施日数 年間 61日
- ◇参加学年・人数 希望する全学年児童 43人



学習アドバイザーと活動ボランティアによる学びタイム

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

●網田地区の各種団体が、「地域の子どもは地域で育てる」ため、PTAと連携して放課後の子どもたちの居場所づくりを応援する試みを行っている。『出来る人が、出来る時に、出来るだけ』を合言葉に、活動ボランティアの約3割がPTA会員であることが特色のひとつである。各学期ごとに行う活動ボランティアスタッフ会議では、活動ボランティアの方々それぞれの得意分野を担当し、割り振って計画を立てている。スポーツ・地域伝承行事等は囑託会などの方々、郷土料理・季節の行事などは婦人会・PTA会員がそれぞれ企画を担っている。特にPTAにおいては、子どもたちの育ちを地域に丸投げしないという保護者の姿勢が活動内容にも反映されており、それぞれの役割の方々々が刺激を受け、地域ぐるみの活動へつながってきている。

#### ■放課後児童クラブとの連携事例

●放課後子ども教室終了後、安全管理員が網田小学校から約150mほど離れた網田学童クラブ（放課後児童クラブ）へ子どもたちを送り届けている。また、定期的に学童クラブへ連絡し、子どもたちの入所・退所の確認等を行っている。

### <一週間の活動プログラム>

☆水曜日

（学びタイム：全学年）

◎ドリル学習など

☆金曜日

（ふるさとタイム：1～3年）

◎伝承遊び ◎スポーツ

◎季節の行事 ◎竹細工

◎クッキングなど



科学遊びで、くるくる回るシャボン玉



PTAの方々で簡単おやつ作りに挑戦！

### <ゲストを招いた活動>

☆奇数月に1回、市教育委員会の企画でゲスト指導者を招き、活動を行っている。また、放課後学習向上アドバイザー事業を活用し、ふるさとタイムの充実を図った。

5月	プロと一緒に太鼓をたたこう！
7月	放課後学習向上アドバイザーによる科学遊び
9月	ブレイクダンス
11月	モザイクアート遊び
1月	特大熊本弁かるたで遊ぼう！ 放課後学習向上アドバイザーによる科学遊び
3月	放課後学習向上アドバイザーによる科学遊び

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

●児童数の減少で、家に帰っても近くに遊ぶ友達がいない子どもたちにとって、異年齢集団で学んだり、遊んだり出来る放課後子ども教室は、大変貴重な居場所となっていると感じる。2年目は、ずいぶん落ち着いて活動が出来るようになった。また、我々大人の方も関わりにより余裕が出てきた。

#### <地域の協力者から>

●子どもたちが名前を覚えてくれて、参加するのが楽しみになった。  
●地域住民の一人として、役に立てることがうれしい。  
●次にお手伝い出来る日がとても楽しみだ。  
●他のボランティアの方を見て自分の学びになっている。

#### <子どもから>

●勉強が学校の授業に役立った。  
●友だちと勉強や遊びをがんばれる。  
●いつもしないことが出来るのがうれしい。  
●知らないことを教えてもらってわかるようになった。  
●こんなに楽しい遊びは知らなかった。  
●私の知らないことを地域の人や先生たちが教えてくれることがうれしかった。

#### <保護者から>

●いつもあたたかく子どもたちに関わってくださることがありがたい。  
●放課後子ども教室であったことなどをよく話してくれる。  
●ふるさとタイムを楽しみにして、学校に通っている。  
●宿題を見てもらいたい。

# 子どもたちの放課後の安全・安心な活動場所（居場所）づくり

## 隈庄小学校放課後子ども教室（城南町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本教室は、放課後の子どもたちの安全な居場所をつくとともに、様々な体験活動や地域の人たちとの交流をとおして、心豊かな子どもたちを育成することをねらい、平成20年度から地域住民の協力により運営している。

### ◆教室運営者選任の経緯

○学習アドバイザーの選任は、地域で活躍していた退職教員や地域住民の推薦による。  
○安全管理員の選任は、ボランティアスタッフや教育委員会の職員で対応している。

### 教室の概要

- ◇実施場所 隈庄小学校の空き教室や体育館など
- ◇実施日・時間 月・水曜日 授業終了～17:00
- ◇年間実施日数 年間 39日
- ◇参加学年・人数 1～6年生 19人



着衣泳の指導

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

- 月曜日と水曜日は部活動が行われないため、週2回放課後子ども教室を実施している。
- 月曜日は学習、水曜日は地域で活動している方の指導により体験活動やスポーツ活動を行っている。
- 押し花や絵画の指導者、スポーツ団体や消防署の協力により、家庭では体験できないことを計画し実施した。
- 水難事故の対処法を学ぶため、消防署の協力により着衣泳の指導を行った。
- 1学期に4～6年生を対象に募集を行い7人の参加でスタートしたが、参加人数を多くするため、2学期から1～3年生を対象に再募集を行ったところ、応募多数のため抽選により参加者を決定した。



「絵手紙」指導



「折り紙」指導

### 教室を実施して

- 参加児童へアンケートを実施した結果、「子ども教室っておもしろい」や「先生いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いします」などの意見があり、児童が楽しく参加していることや、先生に対して感謝の気持ちを持っていることが分かった。
- 参加人数を多くするために低学年へ募集を行ったが、抽選が必要な程参加希望者がいた。低学年の子どもたちの本教室への関心の高さが分かった。
- 地域の方の協力は、子どもたちへの指導のみならず、世代間交流や学習成果の活用の場ともなっている。
- 現在、コーディネーターを教育委員会担当者が行っている。地域人材によるコーディネーターや安全管理員の確保が必要である。

# つきぜっこ教室 ～地域の方々の特技を生かしたプログラムづくり～

## 月瀬小学校放課後子ども教室（玉名市）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本教室は、平成20年度から地域住民やPTAの協力により放課後の子どもの居場所づくりとして開講した。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターには社会教育指導員2名があたり、学校との調整、安全管理員等の調整を実施。  
○安全管理員には地域の住民4名、活動指導員には9名のボランティアの方が登録している。

### 教室の概要

- ◇実施場所 図書室
- ◇実施日・時間 月・木曜日 放課後～17:00
- ◇年間実施日数 年間 41日
- ◇参加学年・人数 2～5年生 7名
- ◇教室の愛称 「つきぜっこ教室」



竹馬作り

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 地域の方々の特技を活かしたプログラムを企画している。また、季節感を感じ、日本の伝統的な行事を意識した内容になるように工夫している。
- 月曜日は、地域の活動指導員による体験学習を実施。点字、百人一首、アートバルーンやわらざうり作りなど、地域の特性や伝統行事を大事にしながら、プログラムを企画運営している。木曜日は、学校の教職員による学力向上のための学習プログラムを計画。プリント学習等の補習学習を実施している。

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

- 長寿会の協力で、竹とんぼ、竹馬やわらざうり作りなどを行うことにより、地域の伝統文化を学ぶことができ、地域に愛着を持つ心が養われている。



アートバルーン



わらざうり作り

#### 【1週間の活動プログラム】

曜日	内容
月曜日	工作、竹馬作り、竹とんぼ作り、わらざうり作り、アートバルーン、おやつ作り、童謡、点字、百人一首、創造(工作等)等
木曜日	プリント学習等

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員・地域の協力者・学校等から>

- 子どもたちと地域のつながり、学校の先生と地域のつながりが出来てきた。
- 子どもたちは、学校や家庭では出来ないような様々な体験活動を行うことにより、地域の伝統文化を学ぶことができ、地域に愛着を持つ心が養われている。
- 子どもたちは皆、学習活動や体験活動に一生懸命取り組んでいてすばらしかった。
- 上級生が下級生の世話を進んでしていた。
- 子どもが家庭に帰ってから活動内容を話してくれるなど、家庭での会話が増えた。

# 地域の大人と学校がともに子どもたちを育む交流の場

## 菱形放課後子ども教室（植木町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○平成20年度から放課後に子どもに安全・安心な居場所をつくり、地域の方の協力を得ながら、学年を問わず一緒にスポーツや文化活動、体験活動を行う場として教室が設けられた。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは、植木町レクリエーション協会の理事長をつとめ、子どもの対応にも慣れている。この地区に在住で経験豊富で人脈もあり、人望も厚く信頼されている方である。  
○コーディネーターが核となり、地域の中から学習アドバイザー1人、安全管理員2人、地域の協力員として24人登録している。

### 教室の概要

- ◇実施場所 菱形小学校余裕教室、体育館、広場
- ◇実施日・時間 水・木曜日 15:30～17:00
- ◇年間実施日数 年間 38日
- ◇参加学年・人数 1～4年 20人

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参考事例

●教室に来たら必ずあいさつを行い、ランドセルを棚の上に整理し宿題をコーディネーター、アドバイザー、安全管理員が指導して必ず済ませるようにしている。

また、地域の方々の協力を得て、定期的に地域の方々の特技を生かした学習・物作り・伝承遊び等を行っている。子どもたちは、地域の方々が来ると興味を示し、真剣に取り組んでいる。地域の方々は、保護者、地区公民館、学校職員などを通して、校区に呼びかけられ集まられた方々である。

●コーディネーターのネットワークで、うえきクラブ（総合型地域スポーツクラブ）のニュースポーツ指導者等にボランティアとして参加していただき、太極重力球・フリスビーなどの活動をしている。



集団遊び



クリスマス用クラフト作成

月	内 容
6月	宿題・ネイチャーゲーム
	宿題・読み聞かせ・太極重力球
7月	宿題・交通安全教室
	宿題・ひょうたん畑見学
	宿題・読み聞かせ・太極重力球
	宿題・太極重力球・フリスビー
10月	宿題・お手玉遊び
	宿題・新聞紙ゲーム
	環境学習(環境キットを使って)
	算数学習
11月	宿題・折り紙
	宿題・ドッジビー・太極重力球
	宿題・葉っぱさがし
12月	宿題・葉っぱのクラフト
	宿題・ジャンボトランプ
1月	宿題・凧作り
	クラフト作成(クリスマス)
	自然体験プログラム「菱形の森探検隊」
2月	宿題・バルーンアート
	宿題・すごろく遊び
2月	宿題・クラフト作成

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

●一学期の初めは、放課後という開放感のためか子どもたちが少し落ち着きがなかった。回を重ねるごとに、スタッフも運営に慣れ、子どもたちも落ち着き、積極的に活動できるようになってきた。「子ども教室は楽しい。」「おもしろい。」など興味や意欲を示す子どもたちの輝く目に、スタッフや地域のボランティアの方々も元気をもらい、活動意欲となった。保護者とも、迎えに来られた時に当日の子ども様子を伝えたり、子ども教室保護者会の中で説明したりする中で、信頼も深まってきている。

#### <学校・先生から>

●子どもたちが喜んで参加している。4年生が上級生として率先して活動する（お世話をする）姿が見られるようになった。

#### <学習アドバイザーから>

●子どもたちや地域の方々との関わりをもつことが、私にとっても、有意義な経験であり大きな収穫であったと感謝している。子どもたちとの触れ合いが楽しく、取り組みも非常に勉強になった。最初は、子ども達の接し方で戸惑う面もあったが元気な子どもたちから、私も元気をもらうことができた。地域の方々の協力で読み聞かせ、物づくりなど、子どもたちは目をキラキラさせて真剣に活動していた。子どもたちの成長を感じた一年であった。

#### <安全管理員から>

●最初は不安ばかりだった。回を重ねるごとに、子どもたちと親しくなり、毎回来るのが楽しみになっていった。子ども達が、子ども教室で宿題の習慣がついたり、終わったら自分たちから活動内容を聞きに来てくれたり、積極的に取り組んでくれたことがとてもうれしかった。

# 地域の子どもは地域で育てる

## 坂梨小学校放課後子ども教室（阿蘇市）

### ◆教室実施の背景・経緯

○社会教育法改正の動きを踏まえつつ、「地域の中の学校・社会教育との協同」の意義について教職員の意識改革から取り組み、徳育・知育・体育の具体的実践事項の一つとして平成20年度に立ち上げた。

### ◆教室運営者選任の経緯

○地域のキーパーソンから情報をもらい、人を呼べる人材をコーディネーターに据え、学校と十分協議しながら、ボランティアの人選・年間計画作成を協同して行った。現在、安全管理員2名、地域ボランティア43名が登録している。

### 教室の概要

- ◇実施場所 坂梨小学校音楽室、理科室、グラウンド、体育館
- ◇実施日・時間 火・金曜日
- ◇年間実施日数 年間 54日
- ◇参加学年・人数 1～3年 48人

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

##### ●9種類のプログラム

人を呼べる人材（元保育園長）をコーディネーターにお願いしたことで、地域の多くの方々へ声をかけていただき、地域の貴重な人材を多数発掘することができた。さらに、それぞれのプログラム担当者が人材を集めたことで、総勢43名のボランティアスタッフを登録することができた。

・お話ボランティア、切り絵、絵手紙、書道、そろばん、伝承遊び、手話、虎舞（地域の伝統芸能）スポーツ（阿蘇青少年交流の家に依頼）

##### ●ボランティアスタッフの主体的活動

可能な限り教職員の指示なく活動できることを目指し、ボランティアスタッフに放課後子ども教室のあり方について十分な理解が得られるよう、定期的に会議を行っている。また、危険を伴うプログラムの際は、スタッフの人数を増やして対処しているため、教職員は最初の挨拶を見届け後は、スタッフの方々にて運営を任せている。

##### ●コーディネーターの役割

ボランティアスタッフへの伝達事項は、全てコーディネーターを通して連絡しているため、自己運営の意識は高い。



花を片手に絵手紙のデザイン作成中

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員から>

●コーディネーターとして、多くのボランティアスタッフの意見を採り上げたり、調整したり、連絡を取りつたりすることは大変であるが、私にとって子どもたちの笑顔は最高の宝物であり、この笑顔をいつまでも守っていくために、これから色々な工夫を凝らしながら頑張っていきたいと考えている。

#### <地域の協力者から>

●元気が良い子どもたちと、毎回楽しく活動している。できるだけ学校の先生方にお世話していただかなくても良いように、コーディネーターや安全管理員の方々と協力しながら、子どもたちを楽しませ、私たちも楽しみたい。

#### <子どもから>

●「いろんな体験ができて楽しかった。」「そろばんが上手になりたい。」「4年生になったら部活があるので教室に参加できない。」「教わったことをこれからの生活に生かせるように頑張りたい。」など、それぞれの思いを持ち毎回楽しみにしている様子がわかる。

#### <学校・先生から>

●多くのボランティアスタッフの方々へ協力していただきながら、放課後子ども教室は成長していると思う。保護者や地域の協力体制がとても素晴らしく、様々な場面で感謝することが多い。児童のあいさつや聞く態度など、社会規範の向上も感じる。次年度も更なる充実を求めて取り組みたいと考えている。



開講式で「お世話になります」の握手

#### <活動種目・年間の回数・スタッフ人数・内容等>

- 虎舞（11回・11人）：4～6年生のクラブ活動の時間とタイアップし虎舞保存会の方々にご指導いただき、地域の祭・市の芸術祭等でも披露している。
- お話・書道（10回・7人）：ゲームを交えたユーモアたっぷりのお話や学年に応じた毛筆の練習
- そろばん（9回・4人）：一人1挺のそろばんを準備し、学年に応じて基本的な学習をしている。
- 切り絵（8回・7人）：毎回数種の難易度に分かれて本格的な切り絵にチャレンジしている。
- 伝承遊び（7回・7人）：竹馬・笹舟・ぽっくり・竹とんぼ・輪回しなど、可能な限り自分で道具を作って楽しんでいる。
- 手話・絵手紙（6回・7人）：基本的な手話や学年に応じた絵手紙づくりに挑戦している。
- スポーツ（3回）：阿蘇青少年交流の家に出席講座を依頼し、ゲームやニュースポーツなどを楽しんでいる。

# 豊かな体験 ほほえみいっぱい

碧水小学校放課後子ども教室（阿蘇市）

## ◆教室実施の背景・経緯

○本校では、平成20年度から子ども教室を実施している。放課後の時間を利用して、子どもたちの安全な居場所づくりを目指している。また、体験活動を中心とした地域の方々との交流の場づくりにも取り組んでいる。

## ◆教室運営者選任の経緯

- コーディネーターは、PTAの役員さんとして地域のことや子どものことに造詣が深く、人脈も広いので、子ども教室を立ち上げた際に適任だと考え選任した。
- 安全管理員は、地域行事に積極的に参加され、子どもを取り巻く状況の改善に賛同された方を選任した。
- 学習アドバイザーは、本校に勤務する市の非常勤職員を任用した。

## 教室の概要

- ◇実施場所 小学校外国語活動教室、図書室、運動場等
- ◇実施日・時間 毎週月・金曜日 15:30~17:00
- ◇年間実施日数 年間 約40日
- ◇参加学年・人数 1~6年 53人

## 教室実施の工夫点

### ■多様な地域の協力者の参加事例

- 本校では、体験活動を中心におこなっている。地域の方々を取り組まれていることなどを参考に、毎月コーディネーターと活動内容を考え、地域の方に指導依頼をしている。これまでの活動例として、「フラダンス」や「線香山づくり（お盆にする子どもたちの遊び）」「茶道」などがある。校区内に幅広い活動をされている方が沢山いらっしゃるのので、毎月子どもたちに興味をもってもらえるような活動を提供することができていると感じている。
- 活動内容については、月のはじめに活動計画表を配布したり、活動日前に「放課後子ども教室からのお知らせ」として、準備物を知らせたりしている。
- 活動中の子どもたちを写真にとって、定期的に校内の掲示板で活動内容を知らせている。

### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 夏休みの活動で、実際に阿蘇の草原へ行き、牛や馬を見たり、糞虫を探したりした。この活動を機に、子どもたちが住む阿蘇の自然についてもっと知ってもらえる機会が提供できればと考えた。後の活動として、牛の糞を使った紙すきや阿蘇の草原の草を使った紙すきを実施した。また、阿蘇の希少植物の種まきをし、より阿蘇の植物を大切にしていける子どもたちの思いを育てていきたいと考え、取り組んでいる。



雅楽にふれよう

### 【今年度の主な活動内容】

月	活動内容
6月	開講式
7月	草原へ行こう！
8月	牛ふんで紙すき
9月	新聞紙で遊ぼう
10月	希少植物の種まき
11月	落ち葉でつくろう
12月	リースづくり
1月	昔遊び
2月	豆まき
3月	閉講式



牛ふんで紙すき

## 教室を実施して

### <コーディネーター・安全管理員・学習アドバイザー・学校の先生から>

- 子どもたちやボランティアで来てくださる地域の方々との交流は、コーディネーターにとってプラスになることが多い。
- これからも、子どもたちがたくさんを経験を元気いっぱいできる場所があることを願う。
- 子どもたちの成長が楽しみ。
- 地域の方々の協力により、子どもたちの興味・関心をひく活動ができている。
- 子ども教室の中で、少しずつ異学年との交流が活発になってきている。
- 今後も子どもたちの居場所づくりのため安心・安全に過ごせるよう取り組んでいく。

# 大人と子どもがともに学びあう放課後

## 産山村放課後子ども教室（産山村）

### ◆教室実施の背景・経緯

- 平成16年度から地域子ども教室として、「わいわいヒゴタイ土曜塾」「子ども水泳教室」「放課後英会話教室」を開設し3年間取り組み、平成19年度にはこれらを生かして放課後子ども教室を実施している。
- 子どもたちが安心して活動できる居場所を提供し、地域の大人がこれまで培った経験や学びの成果を生かし子どもたちに地域性をもったプログラムを実施している。

### ◆教室運営者選任の経緯

- コーディネーターは、地域と学校で協議し、地域で子どもたちに読み聞かせ活動や公演活動を実践していたグループの代表を推薦・決定した。
- 安全管理員、学習アドバイザーについては、運営委員会にて検討し協力支援を依頼した。

### 教室の概要

- ◇実施場所 平日 小学校英会話教室、メディアセンター  
週末 各地区公民館等
- ◇実施日・時間 火・木曜日 15:00～17:00  
土曜日（土曜塾） 9:00～12:00
- ◇年間実施日数 年間 60～65日
- ◇参加学年・人数 平日 1～3年 40人、土曜日 全学年 79人



敬老の日に向けて（お便り貼り絵）

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

●人口1700名の小さな村であることから、お互いの顔がわかるという利点を生かして多様な地域の協力者の参加を得て放課後教室の運営にあたっている。平日、1・2年生は創作活動を主に3年生は年間通してソロバンの学習を行っている。また、地域の各種団体と協議のうえ週末の活動プログラムを作成し子どもたちの体験活動を地域全体で支援している。放課後子ども教室は、大人が自分たちの経験や学びを生かす場として機能し運営されることにより、地域で子どもを見守るという意識が芽生え関心も高くなってきている。大人の活動の場を、放課後子ども教室のプログラムの中に積極的に取り入れることで、地域の教育力が充実し、子ども達の豊かな学びへとつながっている。



はじめて触れる 日本一のくぬぎの大木！

（土曜塾）

### 活動内容

平日 プログラム	土曜塾 プログラム	協力団体（指導・運営）
●1・2年：切り絵・折り紙・ねんど遊び	●人形劇等公演	ボランティア「りとるべあ」
●3年：ソロバン学習	●読書活動	読み聞かせグループ「お話ポッケ」
支援者 ・コーディネーター 1名 ・学習アドバイザー 13名 登録 ・安全管理員 1名	●スポーツ教室	体育指導員
	●歴史探訪	文化財保護委員
	●生活体験	食育推進員
	●世代間交流	老人会・民生委員・公民館主事
	●農業体験	学校支援ボランティア

\*土曜日のプログラムは全学年対象（1～6年生）

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

●いつも心がけていることは、自ら楽しんで各種プログラムに取り込むこと。子どもたちのパワーを受けながら私自身が日々勉強である。今後、さらに小中一貫校のよさを生かしたプログラムを考えていけたらと思う。

#### <学習アドバイザーから>

●子どもたちの目の輝きを大切にしたいと思う。折り紙、一枚の画用紙からも広い世界が広がること、ともに楽しんで取り組みたい。プログラムの企画は大変だが、子ども達が真剣にはさみを動かしているのを見るとき「やってよかったな。」と思う。

#### <地域の協力者から>

●自分たちがこれまで学んできた知識を、子どもたちのために生かせるのはとてもうれしいし、こちらもっと学習しなくてはと意欲がわいてくる。

#### <子どもから>

●放課後は楽しい遊びができるし、いろんな人たちにあえるから楽しい。

#### <保護者から>

●仕事をしているので、子どもが放課後安心して過ごせる場があってとても助かっている。地域の方に子どもと関わっていただけるので、大家族みたいにあたたかいつながりを感じる。

※第1回放課後子ども教室推進表彰（文部科学省生涯学習政策局長表彰）

# 「なかよしのわ」

## 七滝中央小学校放課後子ども教室（御船町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○当小学校には放課後児童クラブがないために、放課後の子どもの居場所づくりとして平成20年度からスタートした。児童数が54名の小規模校である。

### ◆教室運営者選任の経緯

○本教室は、コーディネーターと学習アドバイザーは退職校長にお願いしている。安全管理員は民生児童委員や読み聞かせの会員が中心となっている。

### 教室の概要

- ◇実施場所 七滝中央小学校多目的室
- ◇実施日・時間 火・金曜日 15:30～17:00
- ◇年間実施日数 年間 51日
- ◇参加学年・人数 1～2年生 13人



子ども教室の歌ができました

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

- 地域の老人会を中心に、グラウンドゴルフの指導や昔のことを聞きながら注連縄づくり、竹細工など、手仕事を教えてもらい交流を深めている。



好きな本の紹介

♪こもれ日の森に♪  
こもれびのみに かぜはひかる  
あざやかなあざやかなわかば ゆらして  
このかぜにのせてとどけたい  
わたしたちのわたしたちのねがいを

### 【活動プログラム】

#### <放課後>

- 1時間目 学習（復習や宿題）
- 2時間目 読み聞かせ、工作、英語遊び、地元老人会との交流、ニュースポーツ

#### <夏休み>

- 1時間目 学習（復習や宿題）
- 2時間目 水泳、ニュースポーツ、交流活動

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

- 子どもたちに色々な体験ができるよう、保護者や大人のニーズを取り入れたプログラムを企画。

#### <安全管理員から>

- みんなが仲よく、けがをすることもなくいろいろなことを体験することができるのがよかった。

#### <学習アドバイザーから>

- 1時間目の学習の時間に、いつも積極的に復習や宿題に取り組んでいる。

#### <地域の協力者から>

- 地域の子どもたちとゆっくとふれあう機会が少ないので、一緒に遊べて私たちも楽しい。これからも協力したい。



注連縄づくりに挑戦

# 「かせすっ隊」の協力で体験・交流

## 相良村放課後子ども教室「四浦塾」（相良村）

### ◆教室実施の背景・経緯

○平成16年度から同村内の別校区で実施されていた「サガラッパ塾」の流れを受け、平成19年度から始まった「放課後子ども教室推進事業」をきっかけに、村教育委員会が本校区に「夏季四浦塾」を設置。後に生涯学習センターから活動の場を学校内に移し、主に部活動開始学年前の児童（低学年）を対象に、放課後の安全な活動の場を提供するため実施していたものを移行。

### ◆教室運営者選任の経緯

○塾長（校長）○コーディネーターは教育委員会職員と小学校教頭が担当  
○学習アドバイザー1名 ○安全管理員2名

### 教室の概要

- ◇実施場所 わくわく教室(空き教室)を中心に、主に学校内で活動。
- ◇実施日・時間 <通年> 毎週月～金曜日 (15:00～18:00)  
<夏季> (8:00～18:00)
- ◇年間実施日数 190～200日 (内夏季休業日中の実施20日)



現代書道

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

●夏季四浦塾は、夏休み期間中ということもあり、通年活動と違って、学年が上の児童の参加も多いため人数も増え、また活動時間も長い。そこで、本校独自のボランティアネットワーク「かせすっ隊」（登録者は保護者や地域の方）のメンバーなどに協力を依頼し、いつもは体験できないような活動をしながら地域の方との交流を図る機会を設けている。

●創作活動…芸術作品（図画・工作・書道等）の制作。

#### 【事例1】「現代書道」

本校のギャラリーに定期的に作品を展示して頂いている方に指導してもらいながら、いろんな素材を筆にして自由な発想の書道作品を製作。

●交流活動…読み聞かせ・昔遊び・手作りのお菓子作り。

#### 【事例2】「まんじゅう作り」

本校の元用務員の方の指導により、午後に自分たちで食べるためのおやつを作る。

※「かせすっ隊」にはこの他にも「読み聞かせ」や「米作り」「お茶つみ」「紙すき（和紙作り）」など、学校行事に関係する地域の協力者が登録されている。



まんじゅう作り

#### <日課表> (通年)

時間	活動内容	《補足事項》
15:10～16:00	学習①(宿題や復習) ※午後の授業がない時	※学習が終わった場合 室内でできる活動。 部活動日外は、屋外 活動も可。
16:10～17:00	学習②(宿題や復習) ※6校時までの授業後	
17:00～17:30	体験活動	※体験活動の時間がと れるのは、部活動日 の月・水・金が中心。
17:30～	部活終了時間 自由時間	
～18:00	活動終了	
・月、水、金(部活動日)…終了後歩いて下校する児童が多い ・火(職員会議・研修日)…一斉下校日 15:15下校 ・木…16:30までにほとんどが下校		

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員・学習アドバイザーから>

●地域の方に参加してもらうことにより、地域の方の子どもへの関心は高まっているように思う。子どもたちには多様な体験活動を通じて地域の方への感謝や尊敬の気持ちを育ててもらいたいが、現状は折角の地域の人材が活かされてない。子どもたちと地域とのつながりを密にしていくためにも、より内容の濃い活動内容の企画・事前準備が必要。(課題は、学校内での活動ということもあり、時間の確保の難しさ、安全面の配慮。)

# 遊んで学ぶ地域の子ども生き生き居場所づくり

## 鬼池小学校放課後子ども教室（天草市）

### ◆教室実施の背景・経緯

○地域全体で子どもを育てるシステムの構築、放課後の子どもの安全の確保、学習支援の充実、遊びを通しての学ぶ場の確保を目的として、平成19年度から発足。活動A（学びの基礎基本となる活動）と活動B（体験を重視した活動）の内容でいろいろな体験活動を提供している。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターを鬼池出張所の職員にお願いし、地区公民館長から推薦いただいた方を登録し、毎回2人の方に来てもらっている。地域のボランティアの方にも協力をお願いしている。

### 教室の概要

- ◇実施場所 鬼池小学校 余裕教室・鬼池公民館
- ◇実施日・時間 火・木曜日 15:15～16:00
- ◇年間実施日数 年間 60日
- ◇参加学年・人数 鬼池小学校 1・2年生 10人



作成した「ホバークラフト」の試走中

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

- 放課後学習向上アドバイザーによる知識と経験を交えた体験学習や身近な材料を使った創作遊び・科学遊び、家庭にあるペットボトル・ストローなどを使った遊びの紹介などを実施している。机上の学習も大切だが、子どもが興味を持ついろいろな体験活動をすることで、自主性、チャレンジ精神、危機管理能力、手先の器用さ、人との関わり方、自分で工夫する態度、根気強さなど、たくさんの事を身に付けていく。
- 地域住民による講師（元体育教諭）により、自分の得意分野の指導をしていただき、鉄棒の苦手だった子どもがうまくなるなど、鉄棒、鬼ごっこ、サッカー、なわとび、水泳等、できなかったことができるようになる喜び、練習することの楽しさ、やればできる実践の場になった。



「バルーンアート」作りに挑戦しました(完成)

## 放課後子ども教室

月2回発行の学校だよりに掲載し鬼池小学校の校区全体に配布。  
・放課後学習向上アドバイザー（前本渡中学校長）佐々木 洋助 先生の指導。  
・内容「恐竜の卵」理科等の学習に関連した体験的学習を中心に活動。



### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

- 子どもたちが毎回元気に参加してくれ、地域の方と子どもの交流にもつながる。

#### <安全管理員から>

- 子どもの顔も覚え、地域ですれ違ってもあいさつしてくれる。子どもの元気な姿から自分たちも元気をもらう。

#### <学習アドバイザーから>

- 子どもが楽しそうに生き生きと活動している姿がうれしい。

#### <子どもから>

- 今日は何があるのかとても楽しみ。普段できないことをやってくれるのがうれしい。いろいろ作れて楽しい。

#### <保護者から>

- 作成物等を家に持ち帰り、こうしてこうなるんだよと楽しそうに話してくれる。

#### <学校・先生から>

- いろいろな体験もできるし、帰りも他の学年の（1・2年生一緒に）子どもと一緒に下校できるので安心。

# 地域と学校がともに育てる放課後子どもプランの新たなモデル

## 松合小学校放課後子ども教室（宇城市）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本教室は、平成19年度の少子化による学童保育所閉鎖に伴い、平成20年度に地域住民やPTAの音頭により放課後の子どもの居場所として立ち上げられた、放課後子どもプラン推進事業の新たなモデルともいえる地域住民総参加による子ども教室である。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは、生来からこの地区に住んでいる方で人脈が豊富で人望も厚い。地区民の総意でコーディネーターが決定した。このコーディネーターが核となり、地域の中から安全管理員を5人、地域協力員として約40人が登録している。

### 教室の概要

- ◇実施場所 松合小学校の余裕教室、グラウンド
- ◇実施日・時間 月～金曜日 15:05～17:05
- ◇年間実施日数 年間 192日
- ◇参加学年・人数 全学年 34人

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 地域の方々の特技を生かしたプログラムを企画しているが、特に、季節感を感じ日本の伝統的な行事を意識した内容になるように工夫している。
- 月曜日の習字、水曜日のそろばんは、年間通して継続的に取り組み、希望者は昇級試験や検定試験にチャレンジしている。火曜日は、学校の教職員と地域住民との協働のもと学力向上のための学習プログラムを計画。体験学習や交流学习を木曜日と金曜日に実施している。地域の特性や伝統行事を大事にしなが、プログラムを企画運営している。
- 毎月、学校を通して児童宛に活動プログラムを配布している。



地域の方々によるそろばん個別指導



さつまいも植えのうねづくり

#### 【1週間の活動プログラム】

曜日	内容
月	習字
火	宿題、ドリル学習、パソコン学習
水	そろばん
木	読書、読み聞かせ、紙芝居、合唱
金	伝承遊び、手芸、絵手紙、グラウンドゴルフ、いもづくり、季節に応じた体験活動

#### 【季節に応じた体験活動例(主に金曜日実施)】

季節	内容
春	折り紙によるかぶと・雛づくり
夏	いも植え、七夕づくり
秋	いも掘り、干し柿づくり
冬	正月遊び、独居老人宛の年賀状づくり

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員・地域の協力者から>

- 児童数が減少傾向にあるため、放課後子ども教室専用として使える余裕教室がある。教室では、始まる前のあいさつ、ランドセルやくつの並べ方等の生活指導を重視し、子どもたちはスタート当初から比較すると格段に整理整頓やあいさつができるようになった。
- 子どもたちは、学校や家庭では出来ないような様々な体験活動や交流活動を行うことにより、向上心の高まりが見られるとともに、伝統文化のすばらしさに触れることができている。
- 地域協力員の方々は、地域の担い手育成という観点からのみならず、自らの生涯学習成果の活用場としても学校に出向き、子どもたちと触れ合うことで生きがいづくりの場となっている。

※第2回放課後子ども教室推進表彰(文部科学省生涯学習政策局長表彰)

# 遊び、学び、ふれあえる場を

## 菊水南小学校放課後子ども教室(和水町)

### ◆ 教室実施の背景・経緯

○ 子どもたちが地域社会のなかで、心豊かで健やかに育つことを目的に、平成14年度から、旧菊水町では、毎月第2土曜日に「いきいき選択学習」を実施（4小学校全校児童の9割程度が参加）し、平成16年度からは、地域子ども教室推進事業として事業実施していたものを継続する形で、平日2回の教室と第2土曜日のいきいき選択学習として実施している。

### ◆ 教室運営者選任の経緯

- コーディネーターは、この地区に住んでいて人脈が豊富で事業に賛同できる方。
- コーディネーターと学校が協議し、地域の中から安全管理員・学習アドバイザーを選任している。

### 教室の概要

- ◇ 実施場所 ホール、運動場、体育館
- ◇ 実施日・時間 月曜日 16:00~17:00（1~3年）  
水曜日 16:00~17:00（1~6年）
- ◇ 年間実施日数 年間 52日
- ◇ 参加学年・人数 1~6年生 30人



干し柿作り

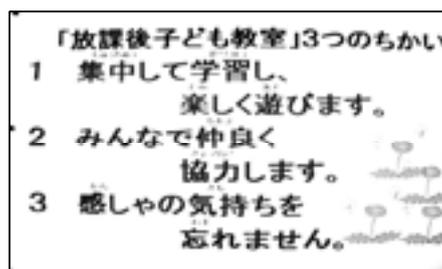
### 教室実施の工夫点

#### ■ 地域の実情や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 小規模校だが全学年の参加があるので、高学年が司会や進行をつとめ、子どもたち主体の教室をつくる工夫をしている。
- 基本的な活動として、学習活動（「すくすくタイム」）と体験活動の2つを行っている。「すくすくタイム」では、百マス計算やドリル学習を繰り返すことで、基礎基本の定着を図っている。体験活動では、伝承遊びや工作などを中心に行っている。「凧作り」や「お茶会」など、子どもたちがじっくりと体験できるよう体験活動のみを行う場合もあり、活動内容に応じて計画している。
- 子どもたちが地域の先生方に感謝の気持ちを持ち、めりはりのある態度で取り組むことができるように、放課後子ども教室「3つのちかい」を提示している。毎回全員で音読し、めあてをもって活動できるようにしている。
- 地域の協力により、季節に応じた体験活動なども取り入れて、地域の伝統を体験している。干し柿作りなどは、藁から吊し紐を編むことを体験している。

#### 【季節に応じた体験活動例】

季節	内容
春	豆まき、竹とんぼ作り
夏	七夕飾り、水でっぼう作り
秋	どんぐりごま作り、干し柿作り
冬	凧あげ、カルタ作り



3つのちかい

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員・地域の協力者から>

- 異年齢の中で高学年が全体をまとめる姿も多く、年上の子どもが年下の面倒を良く見ている。高学年が他の学年の手本となっている。
- あいさつなどの生活指導により、スタート当初より格段に良くなり、感謝の言葉も多くなった。
- 子どもたちが楽しく参加してくれるので、指導者としても嬉しく思う。  
(子どもたちの成長する姿を見るのが楽しい。)

# 季節に応じた体験活動を取り入れ、地域の子どもは地域で育てる

## 緑小学校放課後子ども教室(和水町)

### ◆ 教室実施の背景・経緯

- 子どもたちが地域社会のなかで、心豊かで健やかに育つことを目的として、平成16年度から実施してきた地域子ども教室推進事業を継続する形で、平日2回の教室と第2土曜日のいきいき選択学習を実施している。

### ◆ 教室運営者選任の経緯

- コーディネーターは、この地区に住んでいて、人脈が豊富で事業に賛同できる方。
- コーディネーターと学校が協議し、地域の中から安全管理員・学習アドバイザーを選任している。

### 教室の概要

- ◇ 実施場所 体育館共用スペース・運動場など  
1年・2年教室(学習活動)
- ◇ 実施日・時間 火・木曜日 15:30~17:00
- ◇ 年間実施日数 年間 50日
- ◇ 参加学年・人数 1~5年生 33人



五色百人一首

### 教室実施の工夫点

#### ■ 地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 放課後子ども教室だよりを発行。活動内容や連絡事項を掲載したり、ボランティアの呼びかけを行ったりすることにより保護者の理解を深め協力体制が取れるよう工夫している。
- 前半を学習活動、後半を読み聞かせや体験・交流活動の時間として、子どもたちの集中力を欠かさないように工夫している。
- 読み聞かせでは、指導者が読み聞かせるだけでなく、異学年でグループを作り、お互いに読み聞かせを行ったり、自分たちで紙芝居を創ったりするなど、子どもの自主性を尊重している。
- 地域の協力により、季節に応じた体験活動なども取り入れている。また、地区で盛んなペタンクやオセロなども大会形式で行うことにより、やる気を出す工夫をしている。

#### 【季節に応じた体験活動例】

季節	内容
春	ひなまつり音楽会、桜餅づくり
夏	七夕飾り、七夕祭り
秋	柿の葉人形作り
冬	正月遊び、年賀状作り



地域の方とのペタンク交流

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員・地域の協力者から>

- 異年齢で活動したり、一緒に遊んだりする姿が増えた。地域の方の協力もあり、放課後に子どもたちが楽しく過ごせる場づくりができてきたと思う。
- 基本的な生活面の指導を心がけたことで、整理整頓やあいさつなど良くなった。
- 子どもたちが喜んで参加してくれるので、ボランティアとして関わるのが楽しい。機会があれば、また協力したい。

# 生き生き、のびのびタイム

## 南関第四小学校放課後子ども教室（南関町）

### ◆教室実施の背景・経緯

- 帰宅後友だちと遊ぶことの減った子どもたちに、体験的な活動により、人間関係を育成することは意義深い。
- 子どもに関わる大人が、保護者や地域の方であるため、学校のためにも横に広がるネットワークになり、学校と家庭、地域の連携の上で意義深い。

### ◆教室運営者選任の経緯

- コーディネーターは、PTAの副会長をされている方で、しかも、毎週火曜日の読み聞かせをされるなど子どもに対する理解が大変深く、多方面から学校がお世話になっている。
- コーディネーターが核になり、学習アドバイザー1名、安全管理員2名、地域協力員や保護者10名が登録されている。

### 教室の概要

- ◇実施場所 小学校余裕教室、体育館、運動場
- ◇実施日・時間 月・木曜日 15:30～16:30
- ◇年間実施日数 年間 63日
- ◇参加学年・人数 1・2年生 32人



ネイチャーゲーム(わくわく自然探検)より

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 放課後子ども教室を実施するうえで、心配される一つに下校の安全指導が挙げられる。本校は、月曜、木曜に、放課後子ども教室終了後、地域で学習会（解放子ども会に本校児童の90%以上が参加）を午後5時から6時30分まで実施している。その際お迎えは、各家庭の保護者に協力していただいているため大変助かっている。

#### ●プログラム内容の工夫

##### <体験活動・遊びの活動>

- 1 英語遊び ゲーム・絵本などで楽しく英語に親しむことを目的にしています。英語遊びは、先生が楽しく指導されるので子どもたちもノリノリです。
- 2 グラウンドゴルフ 地域のグラウンドゴルフ協会（約20名）の方々との交流を目的にしています。子どもたちに最も人気のある活動です。この活動のおかげで、日頃からの登下校時の交通指導もとても充実してきました。
- 3 わくわく理科 教科書ではなかなかできない理科実験を通して、自然の持つすばらしさを体験することを目的にしています。理科離れが叫ばれていますが、子どもたちは目を輝かせて実験に参加しています。
- 4 集団遊び 1、2年生の縦割り班で遊ぶことを通して仲間作りと体力の向上を目的にしています。タグラグビー、鬼ごっこやドッジボールなどをするなかで体を動かし汗を流すことで気分がすっきりします。

##### <学校と連携した学習活動>

- 1 学習 国語、算数のプリントを使用して、授業進度に合わせた基礎的・基本的な学習を進めています。

##### <四小放課後子ども教室の約束>

- 1 はきものをそろえる
- 2 ランドセルはきちんと並べる
- 3 先生の話は目を見て聞く

##### 2 読み聞かせ

PTAや地域の方々に組織されている「読み聞かせの会クローバー」の方より学習をはじめの前に、子どもたちを落ち着かせる時間として絵本を読むことで集中力を高めます。



英語教室より

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

- 子どもたちが、学校の先生以外に大人と関われる機会が増えることは、社会性や道徳性を刺激し、成長の手助けになっている。今後も自分の思いを伝えながら、人とつながり、みんなで協力して活動を続けていきたいと思う。

#### <学習アドバイザーから>

- 長い目でみると、今求められている確かな学力（体験を通しての問題解決能力、体力、協調性）が向上すると思う。

#### <学校の先生から>

- 子どもたちは大変この教室を楽しみにしており、多くの様々な体験は豊かな心や学力を身につける上で効果がある。

# 「すくすくタイム」と「のびのびタイム」

## 稲田小学校放課後子ども教室（山鹿市）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本校区には、放課後児童クラブがないが、両親共働きの家庭の増加等により放課後の子どもたちの居場所が求められていた。そのため、部活動のない学年を対象として安心・安全な居場所を設け、学習活動や体験活動を通して豊かな心を育むことを目指し、平成20年度に開設された。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは、元学校教職員で人脈が豊富であり、教室の趣旨等を説明した上で快諾していただいた。アドバイザーは公募により募集を行なった。また、アドバイザーと安全管理員は兼任としており教室の安全の確保に努めている。

### 教室の概要

- ◇実施場所 学校図書室、図工室、運動場、中庭等
- ◇実施日・時間 火・木曜日 15:30～17:00
- ◇年間実施日数 年間 50数回
- ◇参加学年・人数 1～3年生 18人



すくすくタイム

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を活かした活動内容の工夫事例

- まずは、地域での公募によるアドバイザーの募集を行ったが、積極的に活動していくには人数的に不十分であった。そのため、協力者の方が学習指導技能を有する個人等を発掘し、それぞれに呼びかけを行ったところ、地域の「教職経験者」や「読み聞かせ活動経験者」をはじめ一人一人得意分野を持ち、積極的に活動されている方が協力者として集まった。そのことにより、地域の教育力を十分に発揮し、人材を生かした多様な活動を展開することができている。また、学校の施設を利用させていただくことにより、学校の先生方も講師として積極的に参画していただけるなど、学校と地域の連携が取れ、地域の人材が活動の中心を担った活動を行うことが出来ている。さらに、活動の内容によっては、子どもたちが楽しみを共有し合えるまで、継続的に計画の中に組み込む等の配慮も行なっている。そのために、定期的なアドバイザー会議を開き、計画・立案に全員が参画できるようにしている。そのことで、協力者は、未来を担う地域の子どもたちのために自分たちも何かできる、何かしたいという手応えのようなものを感じている。



のびのびタイム「紙工作」「お手玉」

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員・地域の協力者から>

- すすんで学ぶ「すくすくタイム」、家庭や学校では出来ないような体験活動を取り入れる「のびのびタイム」という流れを組み込んできて、子どもも協力者も落ち着いた活動を展開している。
- 1回の活動にあたる協力者は、主たる人材1人と副たる人材2人の計3人の人材による協力で活動を展開している。必要に応じて学校と連携して進めている。

# 地域住民との交流、兄弟みたいな関係作りを目指す放課後子ども教室

## 西合志第一小学校放課後子ども教室（合志市）

### ◆教室実施の背景・経緯

○平成19年度に国が新たに放課後子どもプラン事業を創設されたのを機に市内の小学校のうち学童保育事業を行っていなかった西合志第一小学校において、新規に「放課後子ども教室」を開設することになった。

### ◆教室運営者選任の経緯

○男女コーディネーターを1名ずつ配置している。両名とも地域の方であり、人脈が豊富で講師依頼、地域ボランティア団体への呼びかけ、また自らも勉強し様々な講師として活動している。  
○学習アドバイザー2名、安全管理員2名は子どもを対象とした音楽教室・学童保育に携わる経験豊富な方々を採用し、学習活動とともに子どもたちが飽きないような企画を立案し実施している。

### 教室の概要

- ◇実施場所 西合志第一小学校、合志市合生文化会館
- ◇実施日・時間 木曜 15:30~16:30  
土曜（隔週）13:00~15:00
- ◇年間実施日数 年間 36日
- ◇参加学年・人数 木曜1~3年生 30人  
土曜全学年 94人（希望者）



田植え前の田を利用した「どろんこフェスタ」

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を活かした活動内容の工夫事例

- 毎週木曜日は「ほうかごキッズ」、隔週土曜日に「チャレンジサタデー」と命名して当教室を実施している。
- 「ほうかごキッズ」では、教師や学習アドバイザー、安全管理員による基本学習を主に実施しているが、読み聞かせや手づくり楽器の作成、ドッジボール、年に1回のクリスマス会などの遊び、体験コースも定期的を実施し、子どもたちの学力支援、低学年同士での仲間作り、共同作業の中で生活指導に繋がるような事業を企画運営している。
- 「チャレンジサタデー」では、地域行事であるどろんこフェスタやどんどこ等への参加、豊かな自然を活かしたどんぐり教室、凧揚げやこま回しなどの伝承遊び・科学体験教室、そうめん流しやパン作りなどの食育教室、グラウンドゴルフなどのスポーツなど各種コースを企画し、地域の方々と交流はもちろん学年を超えた仲間作りを図るとともに、それら交流、体験から子どもたちが感動を覚えるような事業運営をしている。



子ども達に大人気の科学体験教室

H21 第一小学校放課後子ども教室 年間事業計画						
ほうかごキッズ			チャレンジサタデー			
月	(木)	活動内容	備者	(土)	活動内容	備者
10月	1日	● 基本の学習	◎仲間作り・学習コース	3日	● おもしろ科学あそび1	◎科学コース
	8日	● 楽しい外遊び	◎伝承・あそびコース	10日	—	—
	15日	● カルタ・すごろく	◎いろいろな体験コース	17日	● グラウンドゴルフ(年助中)	◎スポーツコース
	22日	—	—	24日	—	—
	29日	—	—	31日	×	—
11月	5日	● 基本の学習	◎仲間作り・学習コース	7日	● 弁天山でどんぐり拾い	◎いろいろな体験コース
	12日	● 物作りと外遊び	◎いろいろな体験コース	14日	—	—
	19日	● 外遊び	◎伝承・あそびコース	21日	● アウトドアのパン作り	◎料理コース
	26日	● ドッジボール	◎伝承・あそびコース	28日	—	—
	—	—	—	—	—	—
12月	3日	● お楽しみクリスマス会	◎いろいろな体験コース	5日	● こま回し	◎伝承・あそびコース
	10日	×	10日キッズ打ちせ	12日	—	—
	17日	—	—	19日	● 凧作り	◎伝承・あそびコース
	24日	—	冬休み	26日	—	冬休み
	—	—	—	—	—	—

※第3四半期のみ記載

年間事業計画

### 教室を実施して

- 合生地区地域づくり運営委員会主催事業にも参加することにより子どもたちの地域への愛着も深まっているように感じる。
- 土曜日に開催するチャレンジサタデーでは、料理教室やグラウンドゴルフ、科学教室、伝承遊びなどの各種体験を通じて、地域の異世代間交流が深まった。また各体験コースで学んだことをより深く興味や関心を持つ子どもたちも増えてきている。
- 放課後子ども教室を通じて、上級生が下級生の面倒を見るような兄弟のような関係が構築されつつある。同級生同士の仲間意識が強まっているように感じる。
- 児童数も100名に満たず、高齢化、少子化が進んでいる地域である。もっと多くの地域の方々に事業を知ってもらい、ボランティアとして参加していただき、子どもたちと接することにより生きがいを持ち、ひいては本当の子や孫のような家族的な関係づくりにつながっていけば良いと思う。

# みんな仲良く、元気よく、菊西キラキラ！！

## 菊西キラキラ教室（菊陽西小学校「菊陽町」）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本教室は平成20年度から子ども達の安全・安心な居場所づくりを目的に実施しているものであるが、本校においては、余裕教室が少ないため夏休み期間中の開催となっている。今後は、近隣の町民センターと連携して通年での開催を行う予定である。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターについては、事業の趣旨や目的を説明して地域に在住されている保護者の方にお願  
いし、安全管理員についてもコーディネーターの幅広い人脈により同じく保護者から選任した。  
○学習アドバイザーは地域の方の生涯学習の成果を発揮するため、地域の人材を活用した。

### 教室の概要

- ◇実施場所 小学校体育館、図書館、パソコン教室等
- ◇実施日・時間 月・火・木・金曜日10:00~12:00
- ◇年間実施日数 年間18日
- ◇参加学年・人数 1~6年生 180名



水俣環境センターの指導のもと  
リ・グラスアートを作った子ども達

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

●平成20年度に引き続き実施した事業であるが、昨年に比べ参加人数が約60名ほど増加したため、安全面の確保、またアドバイザーと安全管理員の負担を軽減するために、実施する日を「月・木班」「火・金班」の2班に分け、菊西キラキラ教室を開催した。「月・木班」「火・金班」の班を分けるに際しては、教室に登校する方向毎に分け、出来るだけ集団で学校に通えるように工夫した。また、生涯学習の成果を活かすために近隣の町民センターで実施されている講座の先生・受講生の方に協力を依頼し、「絵手紙」等の教室の日を設けた。



講座生による「絵手紙」の様子

### 活動計画表「火・金班」

7月21日	開講式 名札づくり、下絵描き
24日	野菜苗植え
28日	①おやつ作り、②万華鏡作り
30日	環境の勉強、リ・グラスアート作成
8月4日	英会話、勉強
6日	ボランティアの人達と遊ぼう
11日	絵手紙作り
18日	①万華鏡作り、②おやつ作り
21日	工作の日
25日	ニュースポーツ、閉講式

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理者から>

- 活動する班を縦割りにしたことで、上級生が下級生のお世話をするなど、普段あまりふれ合うことが少ない子どもたち同士が仲良くなれたことがとても良かった。
- 御協力頂いた地域のボランティアの方々からも「とても楽しかった。」「こちらが逆に元気をもらいました。」などの感想を頂き、これからはいろいろな方々に指導に来て頂けたらと思った。

#### <保護者から>

- 毎回活動に参加するのを楽しみにしていて、持ち帰った作品のことや活動内容をとても楽しそうに話してくれて、参加させて良かったと思った。

# 地域で育てる子どもたち（風の子教室）

## 大津東小学校放課後子ども教室（大津町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○当小学校区内では、年々子どもの数が減少し、またパソコン、ゲームの普及などにより友だちと遊ぶ機会、特に異年齢と一緒に遊ぶ機会が少なくなっている。同時に地域とふれあう機会も減少してきている。そこで、一昨年から当校区では、通学合宿などの事業に取り組み、プログラムの中で地域とのふれあいや異年齢集団生活に取り組んできた。これを継続的にまた、より活発にするために本年度より放課後子ども教室に取り組んでいる。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターについては、地元でボランティア等活発に活動され、人脈が豊富な方を学校が選任し、同時に安全管理員、学習アドバイザーも依頼した。

### 教室の概要

- ◇実施場所 大津東小学校体育館 集会室
- ◇実施日・時間 水曜日 15:50～17:00
- ◇年間実施日数 年間 21日
- ◇参加学年・人数 全学年 42人



習字活動

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 当校は、全校生徒59人の小規模校であるが、放課後子ども教室の募集には42名の参加があった。活動を1、2年生17名と3～6年生25名に分けて、異年齢のふれあいを重視しながら地域からの応援を得て、隔週ごとに集会室での習字、体育館で英語を交えたゲームを実施している。
- 秋の学習発表会時に地域、保護者に事業の活動、成果を伝えるために活動写真、習字作品等を展示した。



体育館での楽しいゲーム

#### <習字活動>

- 教室開催ごとに、自分で一番良くできた作品を残し、年度の最後に最も良くできた作品を表彰する。

#### <ゲーム活動>

- 英単語や簡単な文章を覚えるゲーム  
英語でジャンケン、英語でフルーツバスケット、道案内ゲーム、ワードローブリレー、だるまさんが転んだ
- 集中力や緊張感を要するゲーム、体を使った楽しいゲーム  
石取りゲーム（ペットボトルキャップを使って）、手作りオセロゲーム、豆運び競争、新聞島にのろう、ジャンケンゲーム、エンドレスリレー、かくれんぼ
- その他 童謡を歌おう、一分間ゲーム

主な活動内容

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員・学習アドバイザーから>

- 子どもたちが生き生きと活動している様子を見てパワーをもらい、やる気が出てきた。
- ゲームを楽しむ中で、話を聞く態度などけじめをつけさせることが課題である。
- 大きなケガもなく活動できて良かった。
- 安全管理員としての仕事内容に何をなすべきか苦慮した
- 子どもたちが習字活動を一生懸命に取り組む姿や毎回上達するのを見て嬉しく思った。

#### <子ども・保護者・学校・先生から>

- 「字が上手になった」「習字が楽しくなった」という声が聞かれた。
- 文字を書く姿勢が落ち着いてきた。
- 集中して習字の練習ができるようになった。
- 体育館のゲームでは生き生きとして楽しんで活動していた。
- 異年齢の活動で、お互いに相手を思いやる、豊かな体験となっている。
- パソコン等の普及により文字を書く感覚が失われてきている今、一字一字心を込めて文字を書く体験は教育上とても大切なことである。

## そろばん活動を通して、地域の力で育てよう地域の子どもたちを 高森中央小学校放課後子ども教室（高森町）

### ◆教室実施の背景・経緯

- 放課後子ども教室の目的に沿って子どもたちの居場所づくりを、まずは、高森中央小学校で週1回のそろばん教室を開くこととなった。
- 先進町村に習い、アンケートにより保護者のニーズを調査し、平成21年12月から事業を開始する。

### ◆教室運営者選任の経緯

- 学習アドバイザーは、以前本町において、そろばん教室を開いていた方に依頼する。
- コーディネーターは、本町に在住し、元養護教諭で珠算1級の資格を持つ保護者に依頼する。
- 安全管理員は、本町在住で宮司であり、小学校の特別教育支援員の方に依頼する。

### 教室の概要

- ◇実施場所 小学校英語教室
- ◇実施日・時間 水曜日15:40～16:40
- ◇年間実施日数 10日（21年12月事業開始）
- ◇参加学年・人数 4～6年 22人



### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 地域の方の特技を生かし、子どもたちの数字の力を育むため、そろばんを実施、備品（指導用大型そろばん・学習用そろばん）を充実させ環境を整える。

#### ■安全・安心方策の工夫事例

- 放課後子ども教室の参加希望を募り、児童及び運営者の名札を作成したり、下校手段の調査を行ったりコーディネーターの日誌や安全管理員の記録簿を作成したりすることにより、当日の児童の健康状態や下校手段が把握できる。



そろばん活動

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

- いろいろな子どもたちと知り合え、子どもたちの方から積極的に声を掛けてくれるようになった。
- 自分の特技が生かせ、子どもが理解してくれる喜びが味わえる。

#### <安全管理員から>

- 算数への意欲が高まってきた。また、互いに教えあう協調性が見られるようになった。

#### <学習アドバイザーから>

- 子どもたちが真剣に興味を持って参加している姿勢に感心した。
- そろばんで計算力がつくのが楽しみだし、算数への関心の高まりを期待する。

#### <子どもから>

- 「そろばんが面白い」とかの意見や「本当に暗算が速くなるの」とかいう意見があり、そろばんに興味を持ち楽しい交流の場と感じられる。

#### <保護者から>

- 「参加させてよかった。」とか「うちの子も参加させたい」など、参加について積極的な意見が聞かれる。

#### <学校・先生から>

- 放課後、子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所ができて良かったと思う。
- そろばんは、3・4年生併せて4時間しか習わないので、基礎からそろばんが習えて良かったと思う。

# 地域と学校をつなぐ交流の場

## 市原小学校放課後子ども教室（南小国町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本校区では共働き家庭が多く、放課後家に1人である児童が多く、子どもの安全、安心な居場所づくりとして平成20年度に立ち上げた。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは地域の人材を探したが、時間や日にち等の都合が付き、社会教育担当者が行っている。

○安全管理者は、子ども達と接する事が多い方を選定し、1人に負担のかからないよう交代制で行っている。

### 教室の概要

- ◇実施場所 市原小学校の余裕教室、校庭、体育館
- ◇実施日・時間 火・金曜日 15:00～17:00
- ◇年間実施日数 年間 50日
- ◇参加学年・人数 1～3年生 17人



活動でのやくそくごとと  
子どもたちと考える決まり事(めあて)

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 地域の方々の特技を活かしたプログラム作りを行っている。(読み聞かせ・地域の民話・手品・絵画等)
- 家庭ではなかなか行わない昔遊びを地域の方々に教えてもらい、一緒に楽しみ伝えていっている。(カルタ遊び、お手玉、すごろく、竹馬等)
- 季節の行事などを取り入れ行事の意味や習わしを教えて、家庭でも話をできるようつなげている。



節分のお面作りと豆まき



地域の方が作ったすごろくでの遊び

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

- 活動をしていく中で、上級生が下級生のお世話をするようになった。

#### <地域の協力者から>

- 子どもたちと触れ合うことができ、子どもと一緒に自分たちも楽しく活動している。
- 生きがいづくりの場となっている。

#### <子どもから>

- 地域のおじさん・おばさんと活動できることが楽しい。

#### <保護者から>

- 異学年のお友達の名前を覚え交流を楽しむようになった。
- 地域の方との交流で、あいさつをよくするようになった。
- 放課後子ども教室に参加されている方と学校外でも挨拶やお話をするようになった。
- 家に帰ってから、地域の方々の話をするようになった。

# そろばんにより学力向上を目指す

## 飯野小学校放課後子ども教室・津森小学校放課後子ども教室（益城町）

### ◆教室実施の背景・経緯

- 放課後や夏休みに、子どもたちが安全に、しかも安心して活動できる場を確保する。
- 学力向上に資する活動を行う。
- 公民館講座で学んだ成果（そろばん指導）を生かす。
- 放課後児童クラブ未設置校（飯野小学校・津森小学校）で実施する。

### ◆教室運営者選任の経緯

- 学校教育及び社会教育に関わった経験がある社会教育指導員をコーディネーターに選任した。

### 教室の概要

#### <飯野小学校放課後子ども教室>

- ◇実施場所 飯野小学校図書室
- ◇実施日・時間 月曜日16:30～17:30(4年以上)  
金曜日15:30～17:00(2・3年)
- ◇年間実施日数 年間 90日
- ◇参加学年・人数 2～6年生 32人

#### <津森小学校放課後子ども教室>

- ◇実施場所 津森小学校図書室
- ◇実施日・時間 月曜日16:30～17:30(4年以上)  
15:30～17:30(2・3年)  
木曜日15:30～17:00(2・3年)
- ◇年間実施日数 年間 90日
- ◇参加学年・人数 2～6年生 20名

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

- 公民館講座生（そろばん教室）が学んで得た技能を子ども教室に生かす。
- 読み聞かせボランティアが、絵本の読み聞かせを行う。

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 町商工会の紹介により、商工会珠算検定練習プリントを使ったそろばん学習を実施。
- 10級（2桁の足し算・引き算からなる見取り算）から学習を始め、9級（見取り算と2桁×1桁のかけ算）、8級（見取り算、かけ算と3桁÷1桁の割り算）とスモールステップの目標を持たせ、級に挑戦することにより、計算力・集中力・持続力・向上心を養う。

#### ■安全・安心方策の工夫事例

- 出席簿で出席を確認。
- 活動中の安全確保のため、子どもたちの心の平静を確保する。
- 下校の安全は、保護者の迎えまで確認する。



そろばん指導の様子

益城町放課後子ども教室	平成21年12月24日
保護者様	
参加の皆さま	
益城町教育委員会 放課後子ども教室	コーディネーター 中川 有紀
益城町放課後子ども教室 〇学期の学習予定のお知らせ	
2学期の放課後子ども教室では、子どもたちは熱心にそろばん学習に励みました。多くの子どもたちが、全国商工会珠算検定試験で9級から10級に合格することができました。2年生は、2月に行われます検定試験9・10級の受験させようと思っています。珠算は目標に向かって毎日努力を積み重ねることによって、わかる喜び、できる喜びが実感できる学習です。この実感により、集中力・持続力が身につく、自信となり、学習意欲の向上につながります。	
冬休み期間中、家でそろばん学習を続けて欲しいと思います。	
〇学期も各自が自分の目標を定め、目標達成に向け努力することを指導者一同願っています。子どもたちの目標達成に精一杯お手伝いをしようと思います。	
〇学期の子ども教室学習は別添の通りです。	
記	
〇会い言葉	
集中して、楽しく学びます。 他の人に迷惑をかけません。 感謝の気持ちを忘れません。	

学期ごとの連絡

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・学習アドバイザー・安全管理員から>

- 子どもたちはより上の級に合格しようと自分で目標を定め、努力する姿が見られるようになった。
- 2年生のほとんどが9級に合格でき、わかる喜び、できる喜びを実感している。
- 3級合格者を出すことができた。
- 始めと終わりのあいさつを通して、感謝の心が育ちつつある。
- 指導員は、自らの生涯学習の成果を生かした子どもの支援に喜びを感じている。

# 地域とともに育てる・地域の特色を活かした放課後子ども教室

## 郡築小・昭和小学校放課後子ども教室（八代市）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本校区には、放課後児童クラブがないため、児童クラブに参加できない子どもたちのための活動の場として、平成20年度から放課後子ども教室が始まった。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは、退職校長会やPTA等から情報の収集を行い選任している。

○安全管理員は、保護者や婦人会等に協力依頼を行っている。

○学習アドバイザーは、地域の愛好会や団体等に協力依頼を行っている。

### 教室の概要

- ◇実施場所 音楽室、パソコン室、体育館
- ◇実施日・時間 火・金曜日（郡築小）、火・木曜日（昭和小）  
15:30～16:30
- ◇年間実施日数 年間 55日（郡築小）、53日（昭和小）
- ◇参加学年・人数 1～3年 47人（郡築小）、31人（昭和小）

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

- 地域で活動されている短歌グループ、環境サークルや和太鼓の指導者、パソコンのインストラクター、退職教員等の協力を得ながらコーディネーターと行政担当者が連携して進めている。
- 校区の広報紙に掲載するとともに、毎月放課後子ども教室だよりを発行して、理解と協力をお願いしている。

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 専門のインストラクターが、パソコンの指導を行っている。また、英語をゲームを交えながら学んでいる。
- 活動内容は、パソコン、英語、短歌、科学遊び、ボール遊び、環境教室、工作教室（郡築小のみ）、和太鼓（昭和小のみ）などを計画に従って実施している。



郡築小放課後子ども教室  
英語活動：遊びながら英語に親しむ



昭和小放課後子ども教室  
和太鼓体験：伝統文化に触れる

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

- 計画は大変であるが、保護者の理解も進み、地域の支援もあり、子どもたちが積極的に活動している。

#### <安全管理員から>

- 子どもたちの生き生きとした姿が見られ、元気をもらった。

#### <学習アドバイザーから>

- 子どもの想像力・創造力・観察力などからこちらも気づかされることが多い。また、1年間でこんなに変わるのか、と子どもの成長を実感し、喜びを感じることもある。

#### <地域の協力者から>

- 同じ地域の大人として地域の子育てのお手伝いができる。
- 子どもたちと関わりが持てて楽しい。

#### <子どもから>

- いろいろなことを放課後子ども教室で体験できるので楽しみにしている。特に、工作やパソコンなどが気に入っている。ものづくりをたくさんしたい。

#### <保護者から>

- 家では教えてあげられないことを学ぶことができ、興味関心が広がって思考力も向上したようだ。異学年の友達ができたこともよかった。
- 子どもたちが放課後子ども教室に喜んで参加してくれることを願っている。

#### <学校・先生から>

- 低学年の子どもたちには、学校として何らかの放課後の取組みをすることはかなり難しいので、放課後子ども教室は大変有意義である。
- 教室を楽しみにして学校へ来る子どもも多いようだ。

# 楽しく・仲良く・安全に！

## 西地域放課後子ども教室（錦町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本教室は、熊本県放課後子どもプラン推進事業として、錦西小学校児童を対象に平成19年10月1日に開講しました。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは、教育委員会が小学校長に委嘱し、地域の協力者として安全管理員を3名登録。  
○放課後子どもプラン担当者を校務分掌に位置づけ、事業の実施場所確保や学習活動の計画作成・指導のための教員の配置を行っている。

### 教室の概要

- ◇実施場所 錦西小学校図書室
- ◇実施日・時間 月・水・金曜日 15:00～17:00
- ◇年間実施日数 年間 105日（長期休み期間は除く）
- ◇参加学年・人数 全学年 38人（平成20年度）

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 地域の方々の特技を活かしたプログラムを企画しているが、特に、安全管理員さん2名は体育指導委員でもあり、軽スポーツを取り入れた楽しい活動を行っている。
- 年間を通じて1・2年生は早く子ども教室にくるので、上級生が来るまでの時間帯は宿題や予習復習を行っている。全員が揃うと軽スポーツや折り紙・読書・読み聞かせ等を行っている。



全員でボール遊び



安全管理員さん見守る中なわとびに挑戦

- 毎年、開講式の折に保護者へ年間活動プログラムを配布している。

#### 【1週間の活動プログラム】

曜日	内容
月曜日	自主学習（宿題・読書）学力充実（ドリル学習）・縄跳び・ペタンク・バドミントン・折り紙・切り絵・ボランティア読み聞かせ・パソコン等を行う。基本的には水曜日をスポーツの日とする。
水曜日	
金曜日	

#### 【季節に応じた体験活動例（主に金曜日実施）】

季節	内容
春	折り紙・ふうせん遊び
夏	花の植え替え
秋	どんぐりこま作り
冬	正月遊び、スラムづくり

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員・地域の協力者から>

- 1・2年生が多いため管理面や指導面で苦勞することもあるが、活動を通して次第にあいさつやルールを守るようになった。
- 子どもたち全員に連絡帳を持たせ、必ずその連絡帳を安全管理員さんに見せてから活動しているので、子どもたちの体調やその他の連絡事項がスムーズに行われている。
- 地域協力員（安全管理員さん）と子どもたちの交流を通して、子どもたち同士が仲良くなり、協力するようになった。

# 地域の人と楽しく過ごす場

## わんぱくキッズ塾（水上村 湯山小、岩野小）

### ◆教室実施の背景・経緯

○子どもが巻き込まれる痛ましい事件の発生が多くなったため、放課後や週末における子どもたちの安全で安心できる居場所を確保することとともに、体験活動やボランティア活動を通して子どもたち相互の連帯意識を深め、自立心を養いながら、地域とのふれあいを大切にし、心身ともにたくましい子どもたちを育成する場として平成15年度に立ち上げられたのが原型。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは教育委員会社会教育担当者が行なっている。  
○安全管理員として、地域住民24名の方をお願いし、毎日湯山1名、岩野1名ずつ交代で子どもたちを見守ってもらっている。

### 教室の概要

- ◇実施場所 湯山：湯山小地域交流センター  
岩野：岩野公民館図書室・研修室・前庭
- ◇実施日・時間 月～金曜日 15:00～17:00
- ◇年間実施日数 年間 180日程度
- ◇参加学年・人数 全学年 湯山22人 岩野37人



わんぱくキッズ塾湯山の様子  
(学習時間:宿題)

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 高学年は、授業数が多く部活動があるので、参加者は1～3年生が中心となっている。毎日実施しており、始めの1時間が宿題や読書をして過ごす時間、その後の1時間が自由遊びの時間としており、放課後の過ごし方が定着してきている。
- 学校でも家でもないところで、子どもたちが生活する姿を保護者に実感してもらうとともに、保護者と一体となってこの事業に取り組むことを認識してもらうために、2学期から3学期の間に、保護者にそれぞれ1日だけ協力員として事業に参加してもらっている。



わんぱくキッズ塾岩野の様子  
(自由時間:ちぎり絵づくり)

#### 【わんぱくキッズ塾での過ごし方】

- 15:00～16:00 宿題、読書等
- 16:00～17:00 自由遊び  
屋外：野球、なわとび、昔遊びなど  
屋内：ぬり絵、折り紙など

### 教室を実施して

#### <安全管理員から>

- あいさつやくつの並べ方、施設の利用方法など、子どもたちに教えることが多く大変だが、子どもたちの成長していく姿を見ていくと事業に参加してよかったと思う。

#### <保護者から>

- 家に帰ってくる前に宿題を終わらせてきたときは、家族で話す時間も十分にとれ、子どもたちの生活リズムもよくなるようである。
- 当番でわんぱくキッズ塾に参加した保護者からは、「普段と違う子どもたちの様子を見られて良かった。」、「安全管理員さんの苦労がわかった。」、「この事業があつてよかった。」などの声が寄せられている。

## 地域と学校がともに育てる「アフタースクール」

### 渡小学校「あすなろ教室」・一勝地第一小学校「やまなみ教室」（球磨村）

#### ◆教室実施の背景・経緯

○球磨村では、平成16年度に放課後の子どもの居場所づくりを目的に「アフタースクール」を村内4小学校で開校し、平成19年度より放課後子どもプラン推進事業として渡小学校「あすなろ教室」と一勝地第一小学校「やまなみ教室」の2校に安全管理員のみを配置している。児童は、スクールバス登下校が大部分を占め、スクールバスの待ち時間を「アフタースクール」で過ごしている。

#### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは、各小学校の校長先生にお願いし、学習アドバイザーは村職員をチューターと称し、安全管理員を地区に住んでいる方に委嘱し、各学校で地域の中で特色のある活動を実施している。

#### 教室の概要

##### 渡小学校「あすなろ教室」

- ◇実施場所 学校の余裕教室、グラウンド、学校周辺
- ◇実施日・時間 月～金曜日 14:00～18:00
- ◇年間実施日数 年間 220日
- ◇参加学年・人数 全学年 60人

##### 一勝地第一小学校「やまなみ教室」

- ◇実施場所 学校の余裕教室、グラウンド、学校周辺
- ◇実施日・時間 月～金曜日 14:00～18:00
- ◇年間実施日数 年間 220日
- ◇参加学年・人数 全学年 40人



「やまなみ教室」夏休み座禅修行

#### 教室実施の工夫点

##### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 地域の自然や特色を活かしたプログラムを企画しているが、特に、夏休み冬休み長期期間は季節感を感じ、日本の伝統的な行事を意識した内容になるように工夫している。
- 月曜日から金曜日までのプログラムは、宿題などの補充学習を行い、終了後は、上級生を中心に教室、グラウンドで思い思いの活動を行う。夏休み冬休み期間中の活動においては、教室、グラウンドのみならず学校周辺に出かけ地域の特色ある季節感あふれる活動を実践している。

- 学校を通して児童宛に「アフタースクールだより」を配布している。

##### <主な年間活動内容>

希節	内 容
春	折り紙・ひなまつり・花見
夏	七夕づくり、水あそび、昆虫採集
秋	いも掘り、干し柿づくり、紅葉狩り
冬	正月遊び、年賀状づくり
その他	むかし遊び、絵手紙、グラウンドゴルフ、押し花づくりなど季節や地域の特色に応じた体験活動等



押し花に挑戦

#### 教室を実施して

##### <コーディネーター・チューター・安全管理員・地域から>

- 児童数が減少傾向にあるため、放課後子ども教室専用の余裕教室がある。教室では、始まる前のあいさつなどの生活指導などにより集団での生活がスムーズに行えるようになった。
- 子どもたちは、学校や家庭では出来ないような様々な体験活動や交流活動を行うことにより、向上心の高まりが見られるとともに、伝統文化のすばらしさに触れることができています。
- 地域の特色をいかすことにより、郷土の素晴らしさを地域も一緒になって再認識ができる活動となっている。地域の方々も子どもたちと触れ合うことで生きがいづくりの場となっている。

# 地域の大人と子どもがつながる場・科学する心を育てる「まつやま塾」

## 乙女小学校放課後子ども教室（甲佐町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○町内では、児童生徒数が多く通学距離が長い為、登下校の安全確保のため、現在一部シャトルバスを利用している。しかし、帰宅後の子どもの居場所の確保が難しい家庭があり、安全確保と子どものすくすく育つ環境を目指し、甲佐町のモデル校として、取組みを始めた。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは、教員経験者の地域住民であり、地域の方からの人望が厚く、企画アイデアが多才な方である。  
○コーディネーターを中心に、地域の中から学習アドバイザー4名、安全管理員5名、ボランティア1名、計10名の指導員により運営している。

### 教室の概要

- ◇実施場所 乙女小学校内「乙女福祉ふれあいセンター」を中心に（体育館、グラウンド）
- ◇実施日・時間 水・金曜日 15:30～17:00
- ◇年間実施日数 年間 51回
- ◇参加学年・人数 全学年 20人



稲こぎ・他学年との交流

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

●田植えをし草取りなどの管理を行い、継続観察を行なった。収穫時には、昔の生活・道具を知るといった目的のもと、放課後子ども教室参加者の事前学習及び体験をした。その後、他学年（4、5年生）との交流を目的とし、放課後子ども教室の子どもにより、他学年へ学習内容を知らせながら共に体験活動を行っている。

#### ■安全・安心方策の工夫事例

●当教室児童は、帰宅手段として、保護者の直接の迎え、定期バス利用による帰宅がある。教室までの直接の迎えとし安全確保を行い、その際、指導者との直接会話による連絡や信頼関係作りに役立っている。又、バス帰宅者に対しては、バス停までの指導者の確実な送りと、バス停から自宅までの保護者による迎えの徹底をしている。

氏名		
学年		
曜日	水曜日	金曜日
帰宅方法		
迎えの方氏名		

#### <11月「まつやま塾」予定表>

11月	活動予定	コーディネーター	学習アドバイザー	安全管理員	教育委員会
4 水	木の実・木の葉を使って製作		山本	池田 吉岡	金森 森田
6 金	農作業の収穫（さつまいも堀り）		宮本	新田 飛鷹	行事
11 水	※中止（研修会のため）		宮本 山本	池田 吉岡	教育委員会
13 金	稲こぎ		久米	新田 飛鷹	金森 仲原
18 水	お茶教室・いも料理		藤田 山本	安達	ボランティア 西村 仲原
20 金	稲こぎ（4・5年生との交流）		宮本	新田 飛鷹	金森
25 水	農作業：植付け（そら豆）	宮本	宮本 山本	新田	金森
27 金	※中止（研修会のため）	宮本		池田 吉岡	教育委員会



指導者による定期バスへの見送り

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

- 担当者が、スタッフの意見を聞いて、毎月の予定表（活動予定、地域スタッフの参加予定）を配布され活動の充実につながっている。
- 事前準備や指導の援助に教育委員会の積極的な取り組みがあった。

#### <安全管理員から>

- 全学年が参加するので、全学年に合わせた活動は難しいように思うが、上級生として下級生の世話をしているのが見られたのは良かった。

#### <学習アドバイザーから>

- 高学年がリーダーとなって計画、実践に結びつき、主体的な学習になればよいのではないかと。

#### <地域の協力者から>

- 落ち着いた活動するという点には課題が残ったようだ。

#### <子どもから>

- 畑にいろんなものを植えたことが楽しかった。
- 私たちの意見も入れて欲しい。
- お茶教室「おいしいな お茶たいけんで 大人のあじ」

#### <保護者から>

- 自然にとっても興味を持ち、その中で大切なことをたくさん教えてもらっている。竹などの工作やお茶など、家庭では出来ないことを学べ、楽しそうに覚えたことを話している。

#### <学校・先生から>

- お茶、工作等、様々な充実した体験活動をすることができ、児童の成長にどの活動も役立っていると思う。

# みんなで育てる地域の子ども

## 湯浦小学校放課後子ども教室（芦北町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本町においては、子どもの少子化、親の共稼ぎ等で、学校から帰宅しても1人で過ごす子どもが増えているので、地域住民との交流を通して、安心・安全な子どもの活動拠点（居場所）を設ける必要があった。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは、校区内に住んでいる方で、湯浦小の子どもたちとも顔見知りであった。  
○コーディネーターが核となり地域の中から安全管理員等を募集・登録している。

### 教室の概要

- ◇実施場所 湯浦小学校余裕教室、運動場
- ◇実施日・時間 火・木曜日 15:00～17:15
- ◇年間実施日数 年間 49日
- ◇参加学年・人数 全学年 30人

### 教室実施の工夫点

#### ■安全・安心方策の工夫事例

- 低学年の参加が多いので、活動をするにあたって危険性がなく、安全で楽しく活動が出来るよう工夫している。  
（例）新聞で作ったバット・ボールを使った野球ゲーム、ニュースポーツ
- 保護者のお迎えの時、必ず教室まで来て、安全管理員・子ども・保護者の顔を必ず確認してから帰宅して頂いている。
- 地域の方々との交流の場として「昔遊び」等の活動を実施したことで、ボランティアと子どもがお互いに顔を覚えることができた。放課後や休日に声かけができるようになり、安心・安全な子どもの居場所が地域へも広がった。



ニュースポーツ・バグギーに挑戦

#### <活動日程表>（平成22年1月）

期日	曜	学習	活動内容
12	火	学習	輪投げ
14	木	学習	作って遊ぼう
19	火	学習	グラウンドゴルフ
21	木	学習	羽子板作り
26	火	学習	羽子板で遊ぼう
28	木	学習	ペットボトルホーリング



地域の人とグラウンドゴルフで交流



手づくり羽子板で遊ぼう

### 教室を実施して

#### <コーディネーター、安全管理員から>

- 町内で会った時、子どもから声をかけてくれるので嬉しい。（コーディネーター、安全管理員）
- 最初始まった頃に比べ、子どもたちが自分から率先して活動の準備等をしてくれることが増え、成長した姿を見る事ができ、やりがいを感じた。

#### <保護者から>

- 火・木曜日の活動日は、学校で宿題をすませてくるので、家庭では、ゆとりをもって子どもと接する時間が増えた。

## 3つの輝き 交流・共育・感動

### 多良木町放課後子ども教室（多良木町）3教室（多良木・久米・黒肥地小学校）

#### ◆教室実施の背景・経緯

○本町（3教室）は、国の委託事業として平成17年度から18年度まで実施した地域子ども教室を引き継いで平成19年度から実施しており、放課後の安心・安全な居場所づくりとともに、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進している。

#### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは、人脈が豊富で人望も厚く、関係者との連絡も容易にできる人を選任している。  
○コーディネーターが核となり、地域の中から安全管理員を33名登録している。

#### 教室の概要

- ◇実施場所 各小学校の余裕教室、体育館、図書室、校庭
- ◇実施日・時間 火曜日・木曜日15:00～17:00
- ◇年間実施日数 年間 65日
- ◇参加学年・人数 全学年 98人（3教室）  
多良木小、久米小、黒肥地小



人吉球磨は雛祭り 雛人形の出品

#### 教室実施の工夫点

##### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

《体験活動・遊びの活動》  
地域の方々の特技を活かしたプログラムスポーツ・季節感を取り入れた工作・体験活動・伝承遊び・町の行事への参加など子どもたちの“声”を聞きながら計画する。

宿題・自主学習  
基礎学力の定着

《学校と連携した学習活動》  
宿題・学習プリントなどを、安全管理員さん・先生方に見ていただき、苦手な部分の繰り返し学習を行う。

##### ■安全・安心方策の工夫事例

- 日常の安全管理
  - ・子ども教室開始前のミーティング（活動内容について打ち合わせ・その他連絡事項）
  - ・参加児童の保護者の迎えを厳守とする。
  - ・学童クラブへは、安全管理員が送る。
  - ・安全日誌の記入
  - ・保護者との連携（連絡帳）
- 活動の広報
  - ・新学期PTA総会での放課後子ども教室の周知
  - ・子ども教室通信の発行



読み聞かせ・自学に夢中！！

#### 教室を実施して

##### <コーディネーター・安全管理員・地域の協力者から>

- 放課後の子どもたちの安全・安心な居場所づくりは、参画する側も意識の向上に努めながら場を提供していくのが最善のように思う。また、その時間を子どもたちと共有し、子どもたちの成長する姿が見られるなど、とても有意義に過ごすことができる。ただし、基本的な生活習慣の意識づけは重要課題で、今後も関係者が共通理解を持って支援していきたい。

##### <子どもから>

- とにかく、子ども教室に来るのが楽しい。
- 異学年で学習・遊びをいっしょにできるのが楽しい。

##### <保護者から>

- 家庭ではできないような体験活動ができ感謝している。
- 学習支援を期待している。

# 地域の子どもをカリキュラムを工夫し地域で育てる

## 中央小学校放課後子ども教室（美里町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○中央小放課後子ども教室は、安心安全な居場所づくりと地域教育力の向上を目的に平成20年度に設置された。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターには、体育教師の経歴を持ち、レクレーションダンス等の指導を行うなど、子どもたちに体を動かす遊びや脳の活性化を図る科学遊びの指導が可能である方を選任した。

### 教室の概要

- ◇実施場所 中央小学校体育館 2階研修室
- ◇実施日・時間 水・金曜日 15:10～17:10
- ◇年間実施日数 年間 60回
- ◇参加学年・人数 1～3年生 25人



空手の指導（黙そう）

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

●子どもたちに創造力、生きる力をつけるため、季節・時期を考えながら体験メニューをコーディネートしている。手作りの科学遊びや棒おじゃめなどの昔遊びで脳の活性化を図り、子どもたちが遊びをとおして学ぶ形を考えている。また、知識・技能を持った地域住民にお願いして、空手の型や太鼓の指導（太鼓は電話帳にバスタオルを巻き代用）を受けたりして、数多くの体験を行っている。学習指導については、学校職員、書道講師に依頼して実施し、学力の向上を図っている。

#### ■放課後児童クラブとの連携事例

●当初は学童クラブを利用している子どもが参加できないという意見が出たため、子ども教室が終了した後、学童クラブへスタッフが引率して送る措置を講じた。この結果、子ども教室の参加者が増えた。

<中央小学校放課後子ども教室活動カリキュラム>

5月 友達になろう(母の日製作)	10月 科学遊びをしよう(風、光、音、物の動きを知る)
6月 お花、鳥をよく見よう(愛鳥週間)	11月 ペーパーマジック(紙で動く物を作る)
7月 自然に親しむ(花、草、木、昆虫をよく見る)	12月 カレンダーを作ってみよう
8月 夏と遊ぼう(外に出かけてみよう・水遊び他)	1月 おめでとう新しい年
9月 スケッチをしよう(よく見て描いてみよう)	2月 成長を喜び進級することを自覚する

<例:中央小学校放課後子ども教室5月プログラム内容>



神社の秋祭り踊りのけいこ(教室で参加)

#### ●5月目標 友達になろう

- ・自己紹介をする。  
大きな声で名前が言える。友達や先生の名前を覚える。
- ・ハイの返事をする。  
名前をよばれたら大きな声で返事をする。
- ・ありがとうが言える。  
お母さんに感謝しお礼を言う。(母の日)花束をつくる。手紙を書く。
- ・自分の所持品は自分で整理し、片付ける。  
ランドセル、服、靴下、靴、傘など
- ・約束事を皆で決めて守る。
- ・遊ぶときはグループに喜んで参加し、仲良く楽しむ。個人行動はしない。
- ・製作をするときはよく考え創作する。作ったものは大事に持って帰る。
- ・宿題は進んでやり、正しくきれいに書く。
- ・体を動かすことの喜びを知り、健全な身体の成長につとめる。
- ・昔あそびを楽しむ。・空手の型をやってみよう。

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

●脳や体を使うメニューを工夫しているが、子どもたちの反応が楽しみである。

#### <安全管理員から>

●元気のいい子どもが多く大変だがやりがいはある。

#### <学習アドバイザーから>

●子どもたちの元気に圧倒されながらも、子どもたちが一生懸命頑張る姿が嬉しい。

#### <地域の協力者から>

●今の子どもたちは行儀作法に問題があるが、地域住民の責務として協力している。

#### <子どもから>

●秋祭りの時、村祭りの曲を舞台上で踊れて楽しかった。

#### <保護者から>

●学校から帰っても、近くに友達がいないため放課後子ども教室の友達がいる良かった。楽しく遊んでいるようで安心である。

#### <学校・先生から>

●学校から帰っても家に誰もいないなどして一人で過ごす子どもが、目の届く所で活動しているのでとても安心していい。

# 「放課後子ども教室」に「教育サポーター」が支援協力！

## 桜山小学校放課後子ども教室（荒尾市）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本市では、少子・核家族化の進行や就労形態の多様化など、子どもたちを取り巻く環境の変化を踏まえ、平成19年度から放課後の子どもの安心・安全な居場所として本教室を立ち上げた。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーター1名は、地域に住んでいる人脈が豊富で人望も厚い元校長先生に依頼したところ、教室の趣旨を十分に理解され了承された。  
○学習アドバイザー1名と安全管理員2名は、広報で募集したところ、元塾の講師や地域行事に積極的に参加している子ども好きな方が集まり、学習支援や遊び活動を見守っている。

### 教室の概要

- ◇実施場所 桜山小学校の余裕教室、運動場
- ◇実施日・時間 水・金曜日 15:00～17:00
- ◇年間実施日数 年間 54日
- ◇参加学年・人数 1～4年 48人

### 教室実施の工夫点

#### ■多様な地域の協力者の参加事例

●荒尾市教育サポーター事業（派遣ボランティア事業）で登録された市民ボランティアが、「放課後子ども教室」でオカリナ演奏会を行った。

この事業のサポーターは、団塊世代や高齢者等が、職業や日々の生活、学習等で得た知識や経験、技術等を活かし、施設の学級・講座の講師などとして「支援協力」を行うものである。

地域の人々の連携・つながりにより、地域人材の発掘、活動の活性化や活動内容の高度化、活動内容の場の創出等が図られ、地域の教育力の向上や生涯学習の推進につながっている。



教育サポーターによるオカリナ演奏会

#### ■放課後児童クラブとの連携事例

●同市学童クラブへも「ヒップホップダンス」の講師が派遣され、楽しい活動が実施された。



お正月書初



### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

●この教室は、地域住民の協力で魅力的な体験活動ができるだけでなく、日常生活の中でも地域の大人と子どもがあいさつをかわせるようになっており、地域の防犯対策につながっている。また、異年齢での集団活動を通して、社会性・情操性を身につけている。

#### <安全管理員から>

●子どもたちが、以前より挨拶や整理整頓を自らできるようになった。

#### <保護者から>

●子どもたちは、学校や家庭では出来ないような素晴らしい体験活動ができたり、普段は遊べない家が遠い友達と遊べたりするので、「放課後子ども教室」に行くことを楽しみにしている。

# 体験活動から学ぶ「わくわく木葉っ子教室・山北っ子教室」

## 木葉小・山北小学校放課後子ども教室（玉東町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本町では、平成16年度から週末の居場所づくりとして英会話・太鼓教室を開催。平日における放課後の居場所づくりとして学校でも取り組む必要があるという認識から平成19年度から教室を開講した。

### ◆教室運営者選任の経緯

- コーディネーター及び安全管理員は、ほとんどがPTAの関係者、民生委員である。活動の様子を実際に見られて趣旨等を十分説明したうえで協力を得ている。
- 活動支援ボランティアや講師については、人材バンクを設置したが人材はなかなか集まらなかった。そこで、町の広報紙を利用し、活動の様子を伝えたり、ボランティアの協力を呼びかけたりするなど、町民に活動の趣旨や内容を理解し、協力してもらえるような取り組みに努めている。

### 教室の概要

- ◇実施場所 体育館、運動場、生活科室、パソコン室、学習センターなど
- ◇実施日・時間 火・木曜日 15:30～16:30
- ◇年間実施日数 年間 木葉小40日、山北小42日
- ◇参加学年・人数 1・2年生 木葉小59人、山北小32人

### 教室実施の工夫点

#### ■安全・安心方策の工夫事例

- 定期的に開催する安全対策会議では、学校とスタッフとの共通理解を深め、より安全で安心な活動ができるよう連携を図りながら安全対策に努めている。（木葉小）
- スタッフ個々の安全対策に関して危機意識に差が生じないよう「安全管理チェックリスト」を記入するなどして、スタッフ及び関係者の危機意識の共有化に努め、事故を未然に防ぐ取り組みを行っている。（山北小）



おやつづくり(学童保育との交流会)  
～一生懸命ポテトをつぶしたよ～！！



環境学習「自分だけのエコバック作り」

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 町内2校のそれぞれの活動が円滑に実施できるよう、コーディネーター連絡調整会議を定期的に開催して、講師への依頼や協力要請、安全管理員の相互協力などについて調整を図り、子どもたちが安全で楽しく活動できるよう配慮に努めている。

#### ■学童保育との連携について

- 放課後子ども教室の参加児童が、そのまま学童保育（保育園で開催）へ参加する場合には、保育園からお迎に來られる体制が整っており、移動における安全面での連携が図られている。（木葉小）
- 学童保育に参加する児童とわくわく教室との交流会（おやつ作り）では、互いの活動報告や意見交換などを行い、放課後活動の連携した取り組みを実施している。（山北小）

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

- 子どもたちが喜んでくれると教室のメニュー作りにも気合が入る。
- いろんな体験をさせたいと、地域にも協力を得ながら実施することにやりがいを感じる。
- 子どもたちが毎回活動を楽しみにしており、スタッフや地域の方との心のつながりが感じられるようになってきた。わくわく教室は、子どもたちにとって体験・交流・遊びを通して、広い意味での「学び」の場となっている。

#### <安全管理員から>

- 一緒に活動を楽しみながら長い目で子どもたちを見守ることができるので、個々の様々な成長が見れ、大変充実感がある。
- 子どもたちの体と心の安全を守ることがサポートできているし、なによりも子どもたちに自分自身が育てられていることを実感する。

#### <子どもから>

- 自分でつくった風がとんでうれしかった。
- グラウンドゴルフで、地域の人が教えてくれたからわかりやすかった。ほめられたのがうれしかった。

#### <保護者から>

- エコについて学習したり、自分たちの手で風を作ったりと、学校や家庭ではできないことを体験でき、低学年らしい素直さで楽しく参加できていることがうれしく、親も勉強できる。
- わくわく教室がある日は子どもが朝からとても楽しみにしていて、帰ってから教室でのできごとをたくさん話してくれる。いい経験をさせてもらっているなあとありがたくなる。

#### <学校・先生から>

- 今年から1、2年生のみの希望参加となり、昨年と比べると大分落ち着いて取り組めるようになっていいます。子どもたちも工夫した活動内容で楽しみにしているようである。

# 子どもたちの笑顔のために、みんなが支える教室

## 長洲小学校放課後子ども教室「きんぎょクラブ」（長洲町）

### ◆教室実施の背景・経緯

○長洲小学校は、平成20年度に本町で2校目に開講した。子どもたちの「学び」の場として、また「体験・交流」の場として、地域で支えあう教育現場を目指すため実施している。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーターは、PTAや子ども会の経験を持ち学校や地域と精通した方で、学校から推薦をいただいた。

○安全管理員は、学校行事に積極的に参加されておられる方で、学校から推薦をいただいた。

### 教室の概要

- ◇実施場所 小学校余裕教室、運動場、体育館  
多目的ホール、図書室等
- ◇実施日・時間 毎週月・金曜日 15:30~17:00
- ◇年間実施日数 年間 56日
- ◇参加学年・人数 1~5年生 33人



物づくりの指導(古新聞でバック作り)

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を活かした活動内容の工夫事例

●開講当時、地域協力者として、各種の団体へお願いしたが、まだ不足していたため、各種団体の代表者へ個人として協力していただけないかお願いした。各種団体は指導くださる活動分野が決まっているため、個人の方には、より多種多様な活動が行えるよう、様々な分野を指導くださるようにしていただいた。これにより、充実した活動が行えるようになった。

#### ■放課後児童クラブとの連携事例

●21年度後半から、学童保育と連携した取り組みを開始し、現在では、毎月1回、読み聞かせを合同で実施している。さらに、22年度からは、「地域子育て創生事業」(国庫補助事業)を活用し、「長洲町放課後子どもプラン連携促進事業」において、合同で実施するために必要な備品や消耗品を整備し、より連携した活動に向けた取り組みを予定している。

#### 【1週間の活動プログラム】

曜日	活動内容
月曜日	体験・交流活動 (グラウンドゴルフ・ドッチビー・物づくり・将棋・レクリエーション等)
金曜日	読み聞かせ・体験(レクリエーション・将棋)・学習(宿題・ドリル)

※子ども教室通信(A4サイズ)を毎月発行・配布し、保護者へプログラム及び諸連絡の通知を行っている。

#### 【季節に応じた活動内容】 ※主に月曜日に実施

季節	活動内容
春	お雛づくり・お芋植え
夏	七夕飾り付け
秋	お芋掘り・お芋料理・ハロウィンパーティー
冬	クリスマス飾り付け・クリスマスケーキ作り・カルタ大会・節分



読み聞かせ(学童保育と合同実施)

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員・参加児童から>

- まだまだ、ボランティアが不足していると思いますが、子どもたちが学年問わず、楽しく、たくさん体験ができるような活動を考えていきたい。
- 21年度は昨年度より参加児童が約3倍になり見守ることが大変になりましたが、保護者が安心して参加させられる教室にしていきたい。

#### <参加児童から>

- みんなで、いろんな遊びや体験ができて楽しい。また、一緒にやりたい。
- 将棋を覚えるにつれて楽しくなりました。
- 出来なかったことをアドバイスしてくれたり、褒めてくれたりしてありがとうございます。

# 地域の人たちとの交流を通じた様々な体験・学習活動

## 花房小学校放課後子ども教室（菊池市）

### ◆教室実施の背景・経緯

○放課後子どもプラン制度創設を受けて、本市におけるモデル校としての位置付けのもと、平成19年度より放課後児童健全育成事業と並行して実施している。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーター（1人）、安全管理員（2人）、学習アドバイザー（2人）は、いずれも地域選出の指導者であり人望も厚い。特に、学習アドバイザーについては、小学校等から得られた情報をもとに、退職教員の中から選任している。

### 教室の概要

- ◇実施場所 小学校多目的ルーム、運動場、体育館等
- ◇実施日・時間 火・木曜日 15:30～17:00（冬季は16:30まで）
- ◇年間実施日数 年間 41日
- ◇参加学年・人数 1～3年生 21人

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

- 地域の各種ボランティアの方々の協力を得て、様々なプログラムを企画しているが、季節折々の伝統的な行事についても実施している。
- 火曜日の学習活動では、学力向上のための学習はもちろんのこと、読み聞かせ・紙芝居・合唱等も含めた複合的なプログラムとして実施している。

#### ■放課後児童クラブとの連携事例

- 放課後児童健全育成事業も並行して実施されていることから、両事業に関与するスタッフを束ねる形で運営委員会を設置し、連携を図っている。特に、両事業に参加する児童の指導者による受け渡し等、児童の安全管理に関する連携の強化に努めている。
- その他、放課後子ども教室の実施に際し、安全管理チェック表を用いて、事故等の発生を未然に防ぐ取り組みを徹底している。



秋の芋掘り体験活動

#### 【1週間の活動プログラム】

曜日	内 容
火曜日	学習活動（ドリル学習、宿題、合唱等）
木曜日	体験活動（昔遊び、工作、スポーツ等）

#### 【季節ごとの体験活動例（木曜日）】

季節	内 容
春	お雛様作り（工作）
夏	七夕飾り作り、水鉄砲・シャボン玉遊び
秋	芋掘り・焼き芋作り体験
冬	菊池ふるさとかるた

### 教室を実施して

#### <コーディネーターから>

- 当初から比較すると子どもたちの様子に落ち着きが見られるようになった。

#### <安全管理員から>

- 子どもたちとの交流が深まる中で、子どもの本心がかいま見えることもあった。

#### <学習アドバイザーから>

- 自ら進んで学習の準備に取りかかるなど、向学の意識が醸成されている。また、異学年活動の中で、自然と上級生が下級生に指導を行うなどといった関係も構築されている。

#### <保護者から>

- 子どもたちにとって、大変素晴らしい取り組みが進められており、指導者の皆さんにはとても感謝している。

#### <学校・先生から>

- 学校内で地域の方々と交流を深めることは、子どもたちにとっても大きな財産になっているのではないと思う。

# 地域の大人との交流の場

## 白水小学校放課後子ども教室（南阿蘇村）

### ◆教室実施の背景・経緯

○本教室実施にあたっては、保護者へのアンケート調査を実施し、児童の放課後の過ごし方がどのようになっているのかを調査した。結果、地域の中で群れて遊ぶ「遊びの体験」や「生活に基づく体験」等が少なくなっており、更には地域の方々との交流も薄れてきている。このようなことから地域教育力の向上や子どもたちが様々な体験を積める場になるようにと考えている。

### ◆教室運営者選任の経緯

○コーディネーター及び安全管理員は小学校区の地域の方々の中から選任した。このことでプログラム実施の際、地域の方々の協力が得やすくなる。

### 教室の概要

- ◇実施場所 小学校余裕教室（オオルリルーム）  
体育館等
- ◇実施日・時間 火・金曜日 15:30～17:00
- ◇年間実施日数 年間 42回
- ◇参加学年・人数 1年～3年 24名



老人クラブの方々による『昔あそび』

### 教室実施の工夫点

#### ■地域の実態や特色を生かした活動内容の工夫事例

●地域には文化協会の方々や老人クラブの方々も多く、コーディネーターが依頼をし今まで何度もご協力を頂いた。文化協会の方々には裁縫やクラフト、老人クラブの方々には昔遊びやニュースポーツをして子どもたちと共に楽しんで頂いた。また、地域で書道教室をされてる方には、毎月1～2回程度、定期的に硬筆教室を実施している。

#### ■放課後児童クラブとの連携事例

●白水小学校放課後子ども教室は、現在、放課後児童クラブの子どもたちが100%参加している。放課後子ども教室のプログラムは、この放課後児童クラブにも毎月配布をし、プログラムや活動内容の情報を共通理解するようにしている。また、放課後子ども教室終了後には、放課後児童クラブ参加者は教室で待機させ、児童クラブの先生が教室まで迎えにきてもらい、移動時の安全管理に努めている。



文化協会会員による布遊び



放課後子ども教室の情報発信

### 教室を実施して

#### <コーディネーター・安全管理員から>

- いろいろなプログラムを展開していくことで子どもたちの個性が出て良いと思う。
- 教室では、始まる前のあいさつ、ランドセル、上靴の並べ方などの生活指導を重視して活動している。最初に比べると整理整頓や挨拶がよく出来るようになった。

#### <子どもから>

- 放課後子ども教室に参加するのが楽しい。
- いつも楽しい気持ちで帰れるのがうれしい。
- 物を作って帰るとお家の人も喜んでた。

#### <保護者から>

- 家ではなかなか出来ない事を体験できて、子どもにとって、とても貴重な時間になっている。
- もっと幅広い体験をさせたい。放課後の居場所としてではなく、本気の活動や学びの体験を通して子どもがより成長できるようなプログラムをお願いしたい。
- 毎回色々なことを体験することができ、楽しそうに話してくれるわが子を見ると自分も嬉しくなる
- 毎回楽しく参加しているので、これからも続けてほしい。

## IV 市町村運営委員会の活動

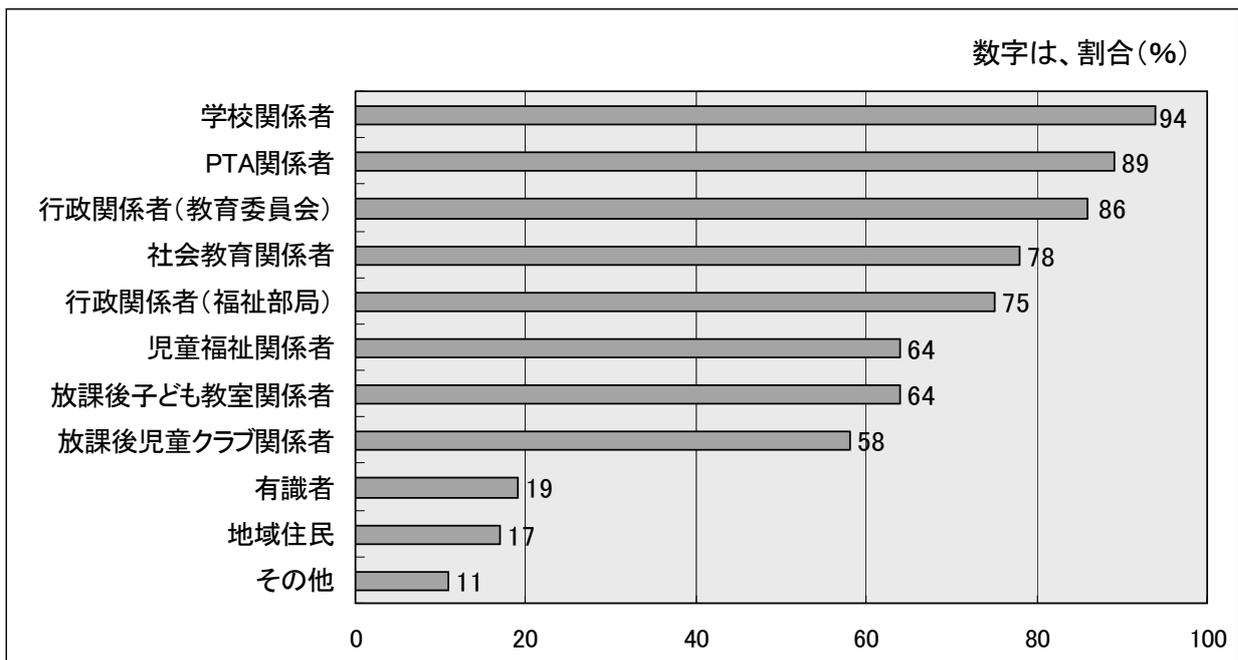
### 1 運営委員会の設置（平成21年度放課後子ども教室推進事業等実施要項）

市町村は、域内の放課後子ども教室推進事業及び放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の運営方法等を検討する運営委員会を設置する。

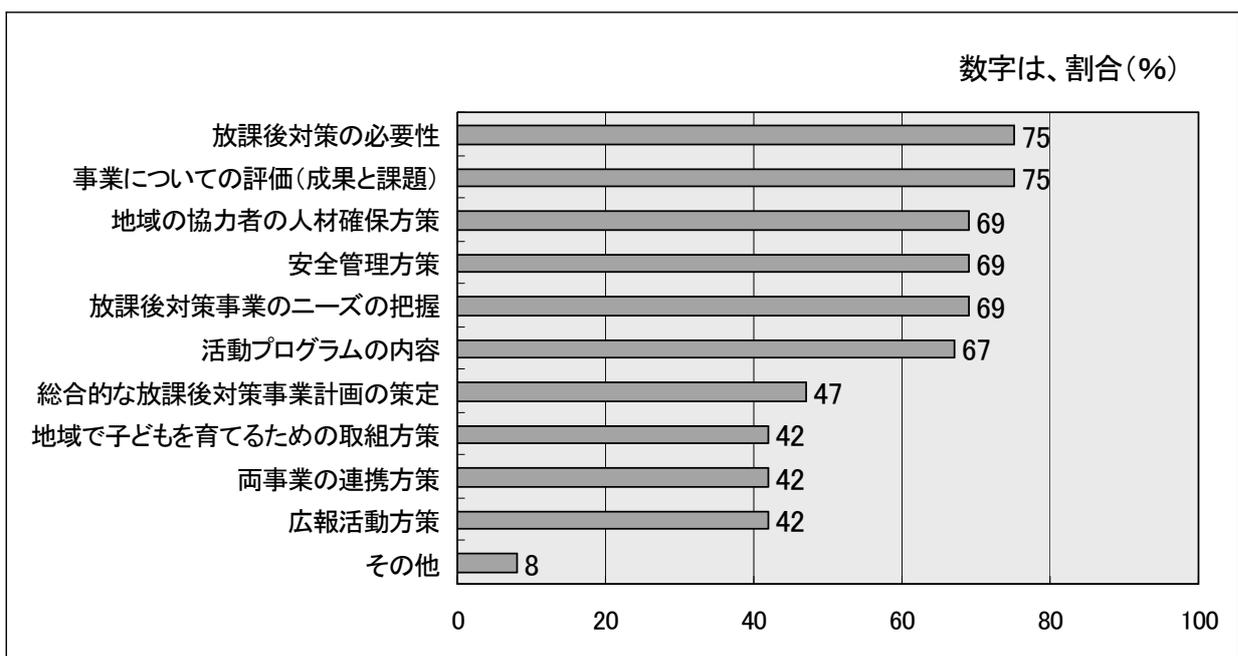
### 2 運営委員会の構成、協議内容・協議の結果改善したこと

- ・平成21年度放課後子ども教室推進事業実施状況調査から
- ・回答：県内46市町村教育委員会担当者（H22.1月調査 36市町村が実施）

#### ■運営委員会の構成



#### ■運営委員会の協議内容



## ■運営委員会で協議の結果、改善したこと

項目	内 容	市町村
ニーズの把握	・放課後対策事業未実施校区に対して調査を実施した。	八代市
安全管理	・安全管理員の増員。(3名に増員し、ローテーションを組んでもらう)	宇土市
	・安全管理について、安全管理員からも保護者への理解を求め、関心をいただくようになったと感じられる。	宇城市
	・放課後児童クラブ(学童保育)の安全確保及び設備の充実。	長洲町
	・実際に活動をしていく中での安全管理に対する認識が定着した。	山鹿市
	・子どもの安全管理の面及び充実した活動を保証する面からも参加学年の制限を設けた。(御船小学校4年生まで、七滝中央小1・2年のみ)夏の暑さ対策のために、扇風機を購入した。	御船町
	・子どもたちの安全・安心な活動のため、特に夏休みなどの長期休暇期間における野外活動等の安全対策の充実。	球磨村
広報活動	・子ども教室の活動内容を保護者に見てもらおうようにする。(授業参観など)	南小国町
両事業の連携	・放課後子ども教室と児童育成クラブの両方に参加する児童の受け渡しについては、両事業指導者の連携のもと、万全を期す。	菊池市
	・両事業は所管課や事業目的が異なるが対象者が重複する場合があります。限られた予算の中で両事業を推進する必要があるため、対象者が見込める大規模校で児童クラブを推進し、小規模校で子ども教室を推進するよう、方向性を協議した。	阿蘇市
	・安全管理方策において、管理マニュアルを作成した。情報交換により、放課後児童クラブより、避難訓練等の実施について聞くことができ、放課後子ども教室で避難訓練を実施した。	甲佐町
人材確保	・活動ボランティアを保護者にも呼びかける。(保護者も地域の人材として位置づける)	宇土市
	・委員会開催後、運営委員から市シルバー人材センター竹細工班のボランティア協力者を紹介していただき、充実した体験活動(竹とんぼ作り、しめ縄作り、流しそーめん)を実施することができた。	荒尾市
	・各学校の運営方針、取り組み状況等を意見交換することにより、互いの良い点を取り入れることができた。	南関町
	・放課後子ども教室の開設に際しての人材確保について、運営委員会の協議を通じ何名もの候補者が挙がり、その中から適切な人材の確保ができたこと。	高森町
キ 事業評価	・参加人数が少ないという意見が出たので、募集期間を長めに設定することにした。(人数に反映されるまでには至っていない。)	合志市
	・放課後児童クラブの活動状況、問題点と課題が把握できた。5クラブの活動状況・取組方針がわかった。	あさぎり町
活動内容	・活動内容の見直し。	玉東町
	・地域の人材について、多方面からの意見や情報提供があり活用できた。	南関町
	・8月中旬に老人会で、子どもとの交流ゲートボールが予定されているため、サガラッパ塾の夏季子ども教室に参加している子どもは、子ども教室の一環として参加できるよう活動プログラムを作成する。	相良村
	・活動プログラムの充実と特色ある活動の実施。	球磨村
地域教育力	・ボランティア等の地域の協力者を有効に活用し、地域で子どもを育てることができた。	植木町
学校との連携	・学校行事等で教室の開催日や場所の変更などを行う必要があるが、連絡調整が遅れることがあったため学校行事調整会議で学校との連携を密に行うようにした。	産山村
	・指導者と学校との情報交換会を設置した。	益城町

## V 「科学遊び」・「算数遊び」のレシピ集



### 使用上の留意点 —放課後学習向上アドバイザーより—

ここにご紹介するのは、  
 放課後子ども教室で、できそうな「科学遊びの事例」です。  
 準備に時間を要するものはあまりありませんが、  
 これを見たらすぐできるというわけでもありません。  
 指導者自身がまずやってみて、どういう準備物があるか、  
 どんな留意点があるか確かめて活動を行うことが大切です。

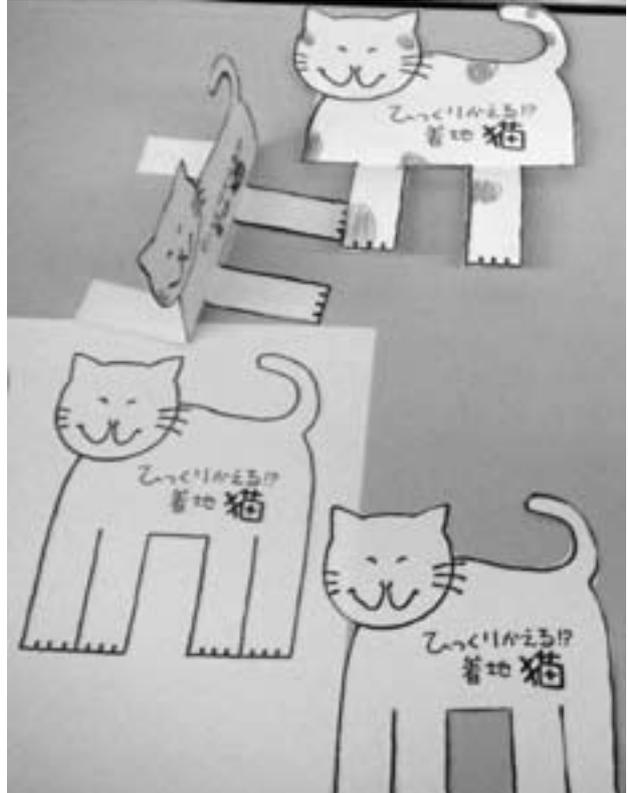
#### <出典・引用・参考>

- 「科学の実験大辞典 vol.2 1998～2009 総集編」  
 (青少年のための科学の祭典)
- 「科学実験ものづくりメニュー」1999. 10  
 科学技術振興事業団 科学技術理解増進室
- 「子どもにウケる科学手品77」  
 後藤道夫著 講談社
- 「ふしぎふしぎ!! 夢いっぱい科学あそび」  
 阿部昌浩著 メイト
- 「ものづくりハンドブック」(仮説社)

## 科学遊びの事例(1) 着地猫

猫は、高いところから落ちても、頭から落ちても、ちゃんと着地ができると言います。

この紙の猫も、高いところから落としても、着地します。



### 1 準備物

- ・型紙を印刷した用紙
- ・はさみ

### 2 展開

#### (1) 作成

- ① 型紙を切る
- ② 足を折り曲げる

交互でなく 内側2本を同じほうへ 外側2本を逆のほうへ

#### (2) 活動

- ① 頭から落としてみる。
- ② いろいろな体の向きでどうぞ。  
※拡大縮小して、いろいろな大きさにためしてみてください。

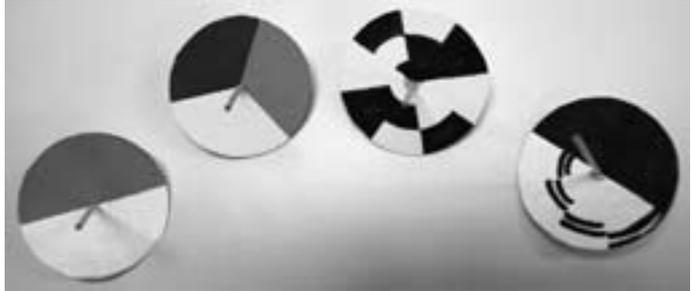
#### (3) その他 (アドバイス)

- ① うまくいかないときは、内側の足の間にはさみクリップをはさむなど少しおもりをつける。
- ② 手を離すという感じで落とす。
- ③ 足を折り曲げて直ぐが、うまくいく。

## 科学遊びの事例(2) 色ごま

### 1 準備物

- ・色紙（黄色、緑、赤、青など）
- ・方眼紙・爪楊枝 ・コンパス
- ・黒マジック・はさみ ・のり
- ・瞬間接着剤



### 2 学習

- ①光としての色が混ざると見える色に変化すること（絵の具との違い）
- ②光の不思議を実感する。
- ③自作作品への愛着



### 3 展開

#### (1) 作成

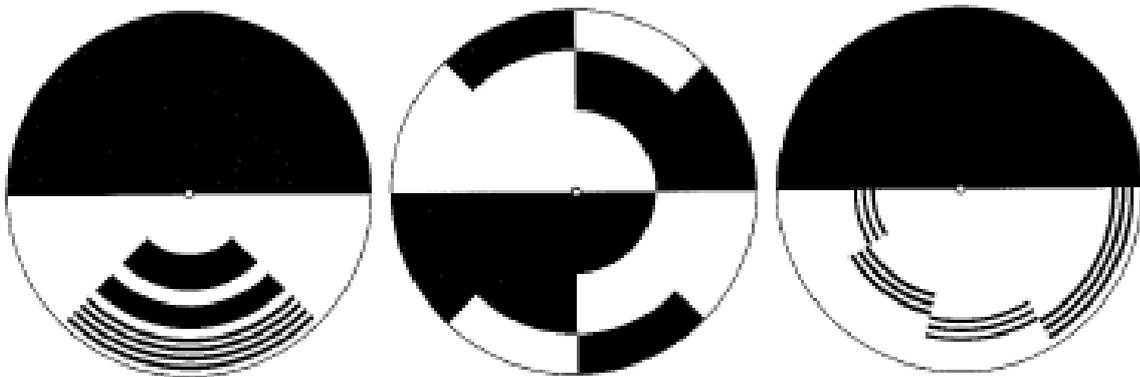
- ①コンパスと色紙と方眼紙に円をかく（半径3～4cmで決めてかく）
- ②色紙と方眼紙の円をはさみできれいに切り取る。
- ③色紙を方眼紙に貼り付ける。
  - ・白黒で塗り分けた紙（下図）を貼る。
  - ・2色の色紙を半分ずつ貼る。
  - ・赤、青、黄色の3等分に貼る。
- ④貼り付けた円の中心に爪楊枝を通す。
- ⑤まっすぐに立てた爪楊枝を瞬間接着剤で固定する。



#### (2) 活動

- ①いろいろな色を貼ったこまを回して、その見える色を観察する。（予想と比べるとおもしろい）
- ②色紙がきれいではあるが、クレヨンや色鉛筆で着色してもよい。

「ベンハムのこま」の型紙



## 科学遊びの事例(3) バランスとんぼ

### 1 準備物

- ・ケント紙
- ・はさみ
- ・のり



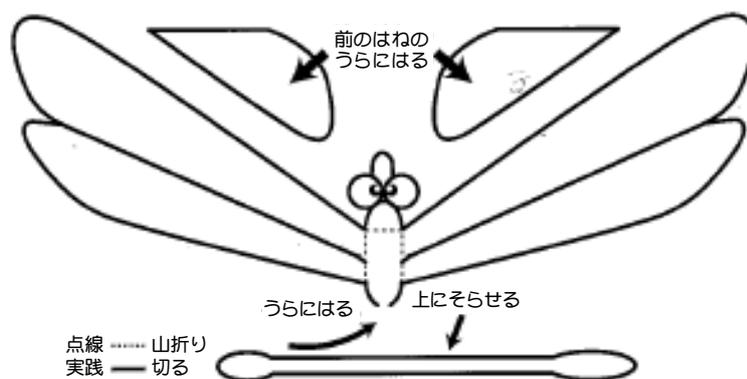
### 2 展開

#### (1) 作成

- ①ケント紙にトンボ（下図）をかいて、好きな色をぬる。
- ②ケント紙から、トンボの部品を切り出す。（羽が4枚になるようにする）
- ③頭と羽の部品に、腹部（下の棒状の部品）をはりつける。
- ④前ばねの先の裏側に、重なる紙をはりつける。
- ⑤鼻先と首、羽のつけ根にある点線の部分を、下に曲げる。（山折り）

#### (2) 活動

- ①できたトンボを、トンボの鼻先で、指先などにとまらせてみる  
※腹部をクルンと上向きにカールさせると、ぐっと立体的に立ち上がってくる。
- ②バランスがうまくとれれば一点で支えることができる。羽につけるおもりや、羽を曲げる角度などをいろいろ工夫できる。



## 科学遊びの事例(4) カラフルしおり

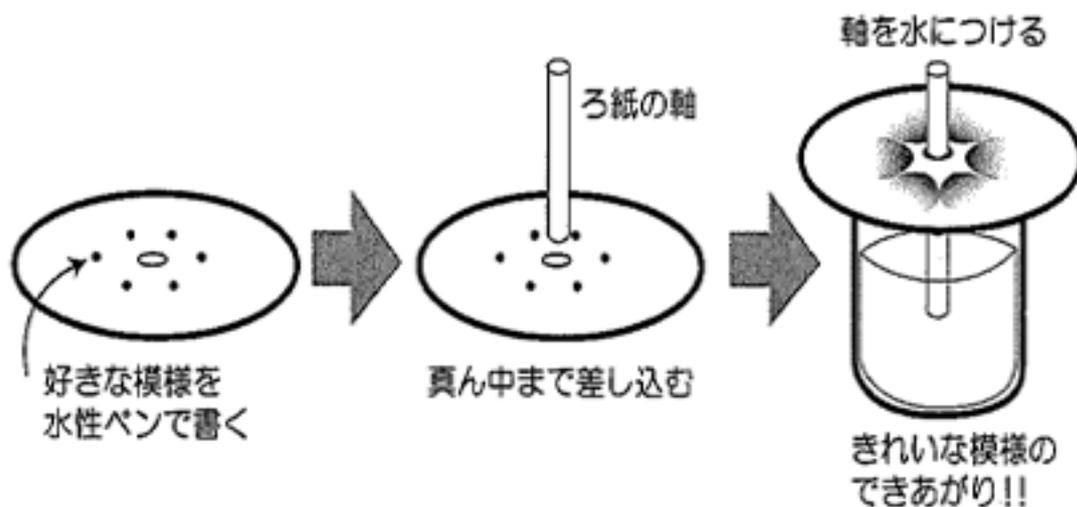
### 1 準備物

- ・ 100ml ビーカーまたは容器
- ・ ろ紙
- ・ 水性ペン  
(・ ラミネーター)



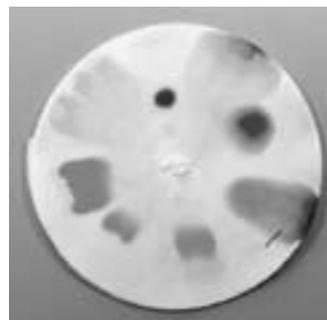
### 2 展開 (作り方)

- ① ろ紙の真ん中(基本)に、シャーペンの先などを使って小さい穴をあける。  
※穴を開ける場所はどこでもOK。いろいろ試してみる。
- ② 水性ペンで、ろ紙に好きな模様をかく。
- ③ ろ紙の軸をつくり、穴に差し込む。
- ④ ビーカーに水を9割ほど入れて、軸が水につかるようにろ紙をのせる。
- ⑤ 水につけると、水性ペンで色をつけたところが、どんどん変化する。
- ⑥ ほどよく広がったところで、水からひきあげる。
- ⑦ しっかり乾燥させて、ラミネート加工したら「カラフルしおり」の完成。  
※ラミネート加工しなくても「しおり」として使用可。



### 3 諸注意

- ① ろ紙を乾かすのに少し時間がかかる。  
ビーカーの水はこぼさないようにする。
- ② ラミネーターを使うときは、機械が熱くなるので「やけど」に気をつけさせる。



# 科学遊びの事例(5) ストロートンボ

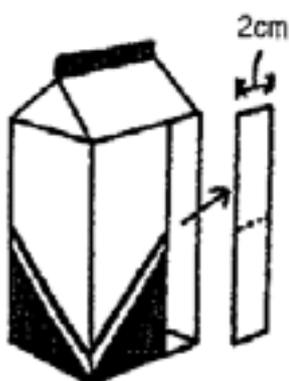
## 1 準備物

- ・牛乳パック (1リットルパック)
- ・ストロー
- ・ビニールテープ
- ・はさみ
- ・ホチキス

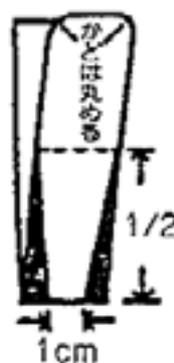


## 2 展開 (作り方)

①牛乳パックを下図のように切る。



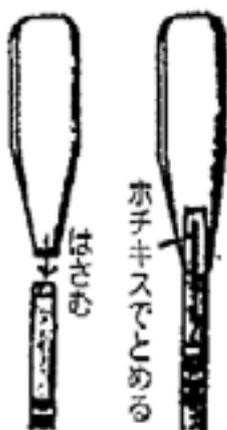
②切り取った牛乳パックを真ん中から2つに折り、羽をつくる。



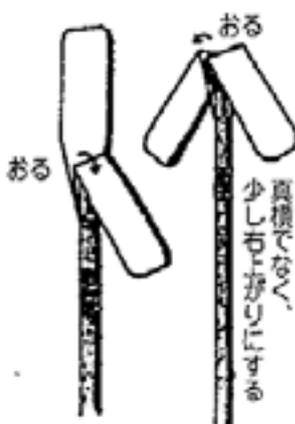
③ストローの先を2カ所ぐらい切る。

※曲がる部分はビニールテープをまいてまっすぐにするか、切り取る。

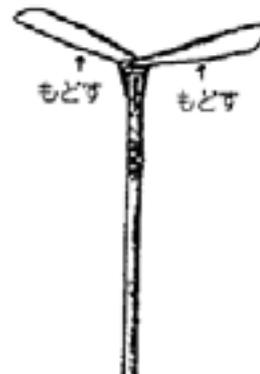
④ストローの切りこみに羽をはさみ、ホチキスでとめる。



⑤羽を交互に広げる。  
※真横でなく、少し斜めに折る。



⑥折った羽を平らにもどす。



## 3 遊び方の工夫

- ①羽の折り方で、利き手にあったストロートンボができる。
- ②おもりを羽につけることで、より高く上がるトンボができる。

# 科学遊びの事例(6) 浮くってな～に

## 1 準備物

- ・透明コップ（一人3個）・着色剤（絵の具や醤油等）・チラシの紙（葉書、TPシート）

## 2 学習

- ①温度や濃さが違うと水に混ざらない。（比重の違い）
- ②同じ比重なら中間に止まる。
- ③自分で操作することの感動と楽しさ。

## 3 展開

### (1) 師範演示

- ①水に紙を浮かせる・・・紙が軽い。（紙は水より軽い）
- ②水に釘を置くと沈む・・・釘が重い。（釘は水より思い）
- ③水に油を入れると油が上になる・・・油が軽い。（油は水より軽い）

### (2) 活動：水が落ちない（重力）

- ①透明コップに水をたっぷり入れ、チラシをかぶせる。
- ②静かに逆さまにする・・・水がこぼれない。



### (3) 活動：水とお湯

- ①透明コップに水をたっぷり入れ、チラシをかぶせる。
- ②もう一つの透明コップに色の付いたお湯（絵の具や醤油等）をたっぷり入れ、チラシをかぶせる。
- ③お湯の入ったコップを静かに逆さまにし、チラシを付けたまま水の入ったコップに載せる。
- ④静かに2枚のチラシを抜き取り・・・観察！（お湯が軽い）
- ⑤静かに2個のコップを逆にしてみる・・・混ざる。（水が重い）

### (4) 活動：水と色水と食塩水

#### 【水と色水】

- ①透明コップに水を入れる。
- ②もう一つのコップに色水を作る。
- ③ストローで色水を取り、水のコップに沿って静かに垂らす。  
・・・水と混ざる。（重さは同じ）

#### 【水と食塩水】

- ④透明コップに水を入れる。
- ⑤もう一つのコップに水と塩で飽和食塩水を作り、薄く色を付ける。
- ⑥ストローで食塩水を取り、水のコップに沿って静かに垂らす。  
・・・水の下にたまる。（食塩水が重い）

### (5) 活動：卵を水中に

- ①透明コップに半分ほど水を入れ、その中に卵を入れる・・・沈む
- ②透明コップに飽和食塩水を半分ほど入れ、卵を入れる・・・浮く
- ③水のコップに飽和食塩水を少しずつ入れて混ぜ、卵を中間に浮かせる。  
・・・卵と食塩水の比重が同じ

# 科学遊びの事例(7) 触らないで動かそう

## ～乾燥した日に～

### 1 準備物

- ・塩ビパイプ (ストロー、塩ビ物差し、ペンシルバルーン) ・ティッシュペーパー
- ・荷造り用のビニールひも ・割り箸 ・ペットボトルの蓋など ・はさみ ・櫛

### 2 学習

- ①触らなくても動かせる力がある事を知る。(静電気)
- ②静電気を体験。

### 3 展開

#### (1) 活動：水を曲げる (＋と－)

- ①塩ビパイプをティッシュペーパーでしっかり擦る。  
※ぱちぱち音がするまで擦る。(ティッシュは＋、パイプは－)
- ②水道の水が細く流れるように流す。
- ③擦った塩ビパイプを水道水に近づけ、水が曲がることを観察する。

#### (2) 活動：髪の毛を逆立てる (＋と－)

- ①塩ビパイプをティッシュペーパーでしっかり擦る。  
※ぱちぱち音がするまで擦る。(ティッシュは＋、パイプは－)
- ②塩ビパイプを髪の毛の上にかざし、髪の毛が逆立つ事を知る。

#### (3) 活動：箸や箸入れが動く

- ①塩ビパイプをティッシュペーパーでしっかり擦る。
- ②割り箸の箸や箸入れ(紙)をペットボトルの蓋などの上に置く。
- ③塩ビパイプを近づけると、箸や箸入れ(紙)が動く。

#### (4) 活動：ビニールのひもを浮かす

- ①はさみでビニールひもを10～15cmに切る。
- ②一方を結ぶ。
- ③櫛などビニールひもを細かく裂く。
- ④ほぐしたビニールひもをティッシュペーパーで擦る。
- ⑤塩ビパイプをティッシュペーパーでしっかり擦る。
- ⑥擦ったビニールのひもを擦った塩ビパイプの上に投げ、ふわふわ浮かす。

## 科学遊びの事例(8) のぼい人形

### 1 準備物

- ・厚紙（方眼紙） ・クレパス ・はさみ ・ストロー
- ・たこ糸 ・セロハンテープ
- ・両面テープ ・モール ・竹串

### 2 学習

- ①ひもの向きで動きが変わる
- ②指先の器用さ

### 3 展開

#### (1) 作成

- ①方眼紙（トランプ大）に絵を描き、クレパスで色を塗る。
- ②ストローを3～4cmに切る。（3個）
- ③絵の裏に{ハ}の字の向きに両面テープを貼る。
- ④その上にストローを置き、さらに動かないようにテープで留める。  
※狭い方が上
- ⑤残った一つのストローの中央部にはさみで切り口をあける。
- ⑥たこ糸（2m以上）を{ハ}形になったストローの広い方から入れ、次に、残ったストローを通し、最後に{ハ}形の狭い方から通す。
- ⑦{ハ}の広い方から出た両端を、輪にしたモールにそれぞれに取り付ける。
- ⑧ストローの切り口から糸を引き出し、左右の長さを同じにして輪に結ぶ。
- ⑨切り口のあるストローに同じ長さの竹串を入れ、ストローの両端をテープで閉じる。

#### (2) 活動

- ①上記⑧で輪にしたところに釘をかける。
- ②たこ糸をぴんと張り、左右交互に下に引く。
- ③絵が上に上がっていく。（糸を緩めると下がってくる）

#### (3) その他

切り口のあるストロー全体を竹串にしてもよい。



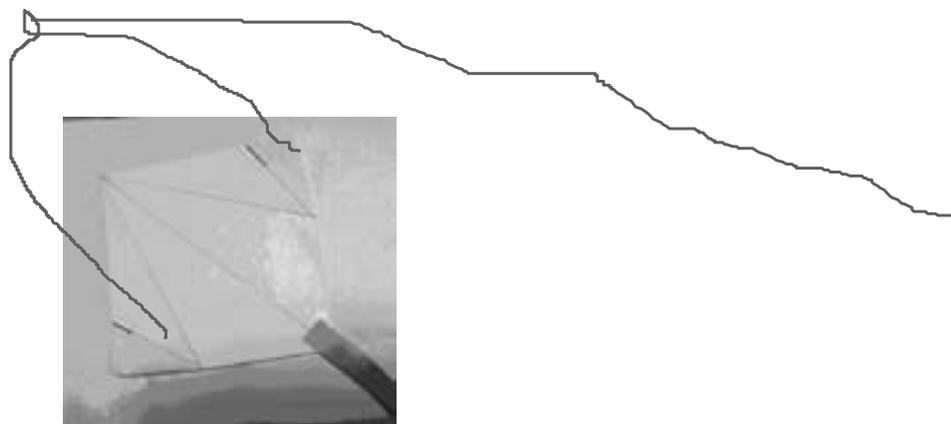
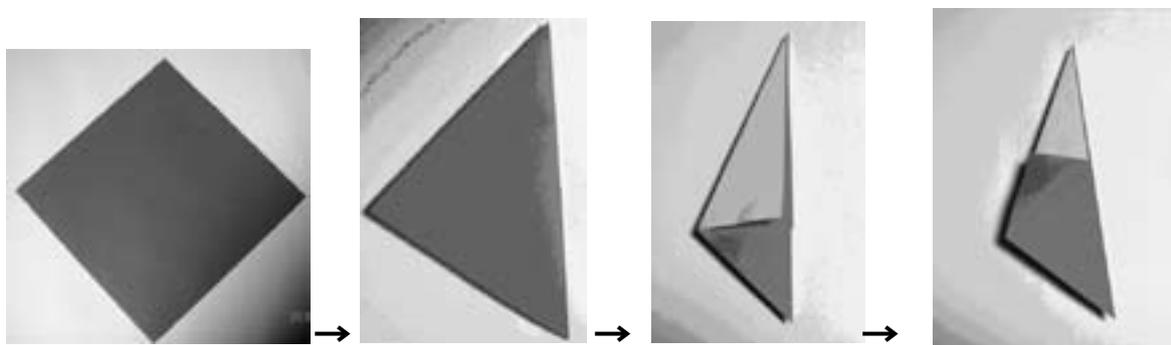
## 科学遊びの事例(9) おり紙でつくるたこ

### 1 準備物

- ・おり紙（なるべく大きいもの。金・銀紙はダメ）（薄い包み紙でも）
- ・紙テープ 約3m                      ・幅狭めのセロハンテープ
- ・太めのミシン糸（たこ糸は、重すぎる）
- ・フェルトペン（クレパスや絵の具は、重くなったり、しわがよったりする。）

### 2 展開

#### (1) 作成



#### (2) 活動（遊び方のこつ）

- ① たこを少し開いてもつ。
- ② あまり走らなくても、風にのせる感じで。
- ③ 重くて揚がりが悪いときは、少しずつしっぽをちぎってやる。回転するときは、しっぽを長くする。
- ④ おり紙が、小さいときは、しっぽの長さや幅を調節する。

# 科学遊びの事例(10) 真下にトン

## 1 準備物

- ・厚紙 (B4、一人2枚) ・ものさし ・コンパス
- ・はさみ ・カッターマット ・カッター
- ・ペットボトル (牛乳ビン) ・両面テープ
- ・セロハンテープ ・鉛筆 (細いマジックでもよい)

## 2 学習

- ①繰り返しの活動ができ、上達していく。
- ②物は真下に落ちることを体感する。
- ③素早い動作と指先の器用さを培う。



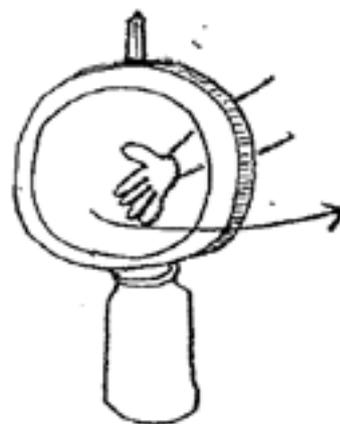
## 3 展開

### (1) 作成

- ①厚紙にコンパスで、半径12.5cmの円と10cmの円をかく。
- ②外側ははさみで切り、内側はカッターマット上でカッターでドーナツ状に切る。(内側は、大人がしてもよい)
- ③別の厚紙の横向きに、幅3cmの線を2本引き、帯状に切る。
- ④帯状の2本の紙片をビニールテープでつなぐ。
- ⑤テープでつないだ帯状の厚紙の中央部に沿って両面テープを貼る。
- ⑥両面テープの上にドーナツ状の輪を置き、くっつけながら輪を作っていく。
- ⑦紙の両端が少し重なる場合は、はさみで切って、輪になるように両端をテープでつなぐ。直径25cmほどの円を作る。  
※輪を立てたとき、水平になるように注意しておく。(鉛筆が立つように)  
※帯状の円にドーナツ状の紙を補強に入れた状態になる。(ここで水平の調整も可)
- ⑧輪の途中に補強として数ヶ所テープで留める。

### (2) 活動

- ①ペットボトルの上に丸い紙の輪を置く。
- ②丸い紙の上に鉛筆を置く。  
(ペットボトルの真上に立っていること)
- ③素早く丸い輪を引き抜く。
- ④鉛筆がペットボトルに入れば大成功。



# 科学遊びの事例(11) 宇宙生物のタマゴ

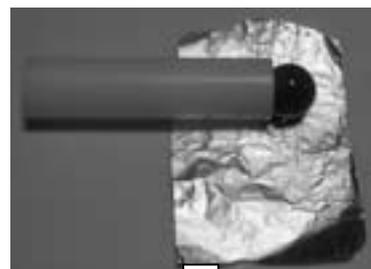
## 1 準備物

- ・ビー玉
- ・パイプ (マジックのキャップなど)
- ・アルミ箔
- ・紙箱のふた

## 2 展開 (作り方)

### (1) 作成

- ①ビー玉を、同じくらいの太さのパイプ (マジックのキャップなど) の上に置く。ビー玉とパイプの直径が違っていると、難しくなる。
- ②たて5 cm×よこ8 cm程度に切ったアルミ箔をビー玉のつたパイプに横からあて、そのままぐるっと巻き付ける。  
このときアルミ箔を1 cmくらい余らせておき、たるまないようにしっかり巻き付ける。
- ③巻き付けたアルミ箔がずれないようにおさえて、1 cmくらい余らせておいた部分をビー玉に押し当てるようにして閉じる。閉じてしまったら、ビー玉をつまんでパイプを引き抜く。
- ④アルミ箔の筒が壊れないように気をつけて、パイプを抜いた部分に向かってビー玉を押しつけてずらしていく。
- ⑤ビー玉2個分くらいずらしたら下に余っているアルミ箔をビー玉に押し付けるようにして閉じる。
- ⑥できたものをフィルムケースに入れてふたをし、上下に強くぶつかるように振る。ふたを開けてみてきれいな「まゆ玉」のような銀色ボディになっていれば完成。



### (2) 活動

- ①銀色ボディの宇宙生物のタマゴを紙箱のふたなどに乗せてみる。
- ②ふたを少し傾けると、宇宙生物のタマゴがモゾモゾと動き始める。
- ③宇宙生物のタマゴが動き出す秘密や動きをコントロールする方法を探る。

## 科学遊びの事例(12) かたこと車



昔は糸巻きが空くと右のようなおもちゃを作って遊んだものです。今は糸巻きが少なくなって、このおもちゃで遊ぶ光景がみられなくなりました。

そこで、糸巻きの代用に何かできないかと考えたのがフィルムケースを利用する方法です。

### 1 準備物

- ・フィルムケース ・ビーズ ・輪ゴム
- ・割りばし ・針金 ・金切りのこ

### 2 展開(作り方)

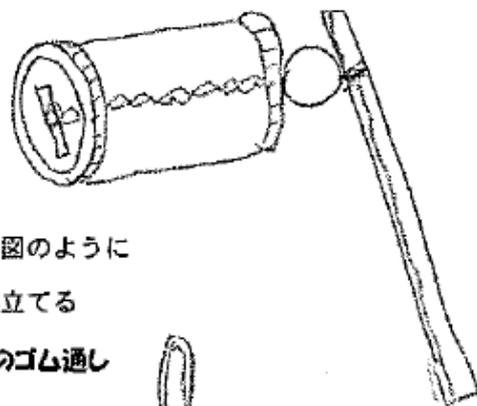
- ①フィルムケースの底の部分のをのこで切る。
- ②別のフィルムケースのふたを切り取ったところにはめる。
- ③フィルムケースのふたに穴を開ける。
- ④ビーズに輪ゴムを通し、左右を割りばしの長・短で止める。
- ⑤長い方をくるくる巻いて床の上に置くと、ゴムの動力で走る。

### 3 工作のこつ

- ①輪ゴムを引っ張り出すために、クリップなどを伸ばして「輪ゴム通し」を作っておく。
- ②ビーズに輪ゴムを通すときは、図のように細い針金を二重にして輪ゴムを通し引っ張ると通せる。

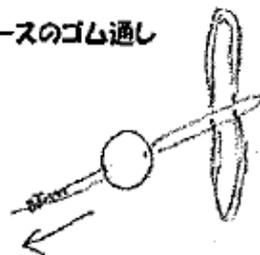


金切り  
のこなどで切る



上の図のように  
組み立てる

ビーズのゴム通し



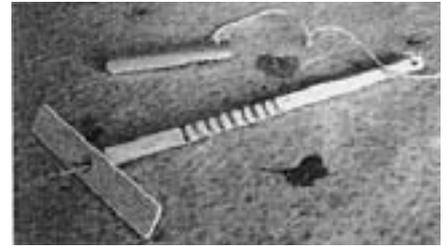
ビーズのゴム通し  
しを作っておくと  
よい



## 科学遊びの事例(13) ガリガリとんぼ

切込みを入れたプロペラ付きの竹棒を、もう一本の竹棒でガリガリこするとプロペラがくるくると勢いよく回りだします。自然の素材に触れて楽しく遊べます。

回し方のコツをつかめば、プロペラを右に左にと、自由に回転させることができるようになります。でも、初めのうちは回らないプロペラがあったり思い通りに回転させられなかったりで、試行錯誤が必要です。それだけに、回ったときの満足感は格別です。



### 1 準備物

- ・ 1. 5 cm幅で長さ20 cmと8 cm程度の竹棒2本
- ・ ビーズ ・ ひも ・ プロペラ (厚紙や牛乳パック)
- ・ 小刀 ・ 太さ1.2 mm程度の釘 ・マジック

### 2 展開(作り方)

- ① 1. 5 cm幅で長さ20 cmと8 cm程度の竹棒2本と厚紙や牛乳パックで作った羽根 (プロペラ) を用意する。
- ② 長い竹棒に小刀できざみを入れる。  
(両側面に5 mm間隔で6ヶ所くらい)
- ③ 羽根のもようをつける。
- ④ きざみを入れた竹棒の先端に、  
太さ1.2 mm程度の釘でビーズと羽根をとめる。
- ⑤ こする竹をひもで付ける。



羽根のもようをかく

### 3 遊び方の工夫

- ① 短い竹棒で、長い竹棒の切れ込み部分を上から押し付けるようにこすると、プロペラが回り始める。
- ② こする強さや角度によってプロペラの動きが変わる。
- ③ 「30秒で何枚のプロペラを回せるか」とか「右(左)に回転させるには」など課題をあたえるとおもしろい。



上から押し付けるようにこする

### 4 プロペラが回る仕組み

竹棒の凹凸をこする振動が先端の釘に伝わり、釘が振動する。この振動によって、釘がプロペラの穴をたたき続けることになり、プロペラが回り出す。

## 科学遊びの事例(14) ころころバック(紙・Back)

この「紙・Back」には不思議な力があります。  
机の上を転がすようにして向かい側の人に渡してみましょ

う。  
「紙・Back」が途中で転がる向きを変えて、あなたの方に帰って(Backして)きます。

「紙・Back」には、どんな秘密があるのでしょうか？



### 1 準備物

- ・厚紙(直径9cmのタイヤ 2枚) ・紙コップ ・輪ゴム ・爪楊枝
- ・クリップ ・おもり(釣り用2号) ・はさみ ・ボンド

### 2 展開(作り方)

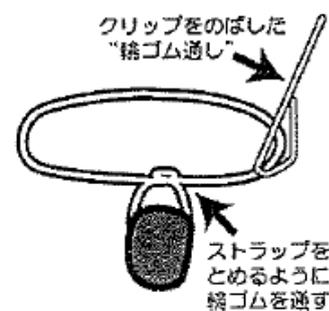
①厚紙を切り、タイヤ(直径9cm)を2枚作る。

②おもり(釣り用2号)にストラップをつける要領で輪ゴムをつける。

③紙コップの底の中心に穴を開け、内側から輪ゴムを引き出して爪楊枝などでとめる。

④紙コップの飲み口側でも一方のタイヤの中心に穴をあけ、輪ゴムを引き出して爪楊枝などでとめる。

⑤コップの飲み口側のタイヤをボンドではり、底にもタイヤをはる。



### 3 工作のこつ

①輪ゴムを引っ張り出すために、クリップをのばして「輪ゴム通し」を作っておく。

②おもりがコップの底と飲み口とに引っ張った、輪ゴムの中心にくるように調節しながら作る。

③ボンドが乾いてしまうまでは、タイヤがずれてしまう。ぬるボンドの量を少なくして接着面全体にむらなくつけると早く乾いてしっかりとつく。



## 科学遊びの事例(15) 浮き玉

### 1 準備物

- ・アルミ線 太線 (50 cm)、細線 (8~10 cm)
- ・曲がるストロー (2本) ・セロテープ
- ・発泡スチロール玉 (直径1.5~2.5 cm)
- ・ホッチキス ・ドライヤー ・ペンチ ・はさみ
- ・物差し ・ピンポン玉

### 2 学習

- ①風の中の球が飛ばされずに浮いている現象を知る。(ベルヌーイの定理)
- ②吐く息の強さ加減の練習
- ③自作作品への愛着

### 3 展開

#### (1) 指導者演示

- ①ドライヤーの吹き出し口にピンポン玉を置き、強い風を送る。
- ②ドライヤーを徐々に横向きにし、ピンポン玉が浮いたままになっている現象を見せる。  
(吹出口をアルミホイル等で半分にするとうい)

#### (2) 作成

- ①ストローを直角に曲げる。
- ②短い方の先端を5mm程度数ヶ所切り込み、押し開く。
- ③押し開いた上に発泡スチロール玉を置く。

#### (3) 活動1

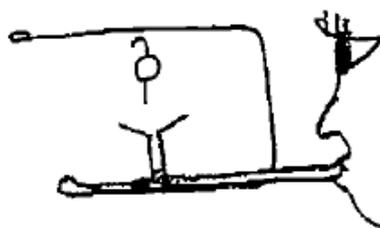
- ①長い方から息を吹き込み、スチロール玉が浮くことを確かめる。
- ②吹く息の強さと玉の浮き方のバランスを覚える。

#### (4) 作成

- ①アルミ線の両端から19cm程度で直角に曲げ、「コの字型」に折る。  
一方はさらに二つに折り、持ち手とする。(横向きに折ると立つ)
- ②ストローの短い方の先を5cm程度に切り、先を切り込み押し開く。  
※子どもの場合、吹く力が弱いので、切り口の3分の2程度をつぶすように  
ホッチキスで斜めに留めてもよい。
- ③ストローの短い方を中にして、長い方をアルミ線の持ち手の間に入れる。  
折った角から5cm程度話、セロテープでストローの長い方を持ち手に取り付ける。  
(曲げたアルミの立った方向と短いストローの方向を同じにする)
- ④アルミ線の中程に両面テープを2~3回巻く。
- ⑤球にアルミ線を入れ、少し左右の長短をつけ、短い方を鍵状に曲げる。

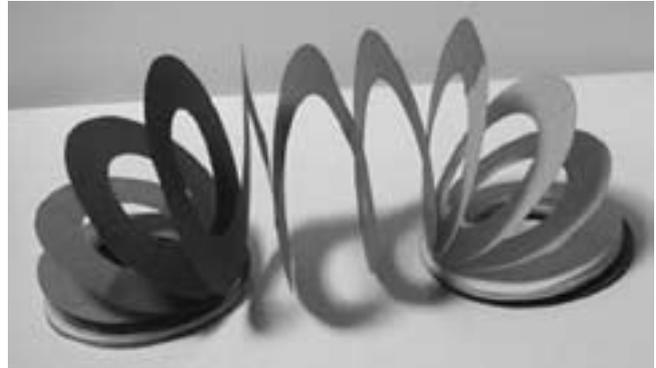
#### (5) 活動2

- ①ストローにスチロール球を差し込み、ストローの長い方から息を吹き込む。
- ②「コの字型」の上のアルミ線に、スチロール球を引っかける。



## 科学遊びの事例(16) レインボートムボーイ

トムボーイというバネのおもちゃを  
色画用紙で作ったものです。



### 1 準備物

- ・色画用紙7色(赤、橙、黄、黄緑、緑、青、紫など)
- ・はさみ
- ・のり

### 2 展開

#### (1) 作成

①色画用紙をドーナツ型に切る。

- ・外の円 半径3.5cm
- ・中の円 半径2.0cm

それぞれ3枚の21枚で1セット。

2セット42枚がきれい。

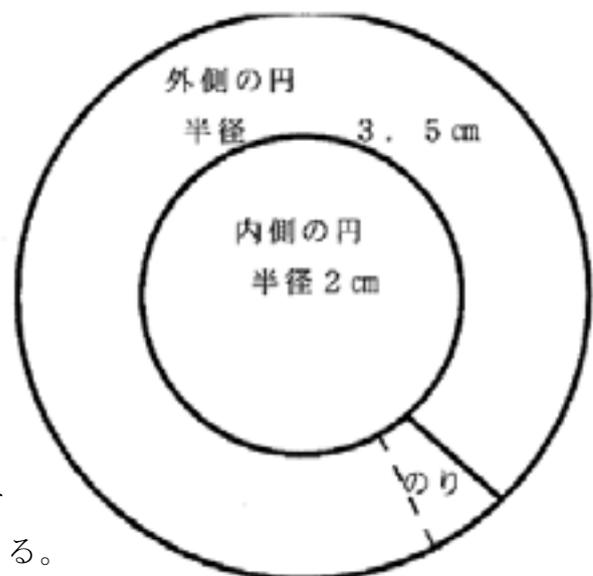
※切るポイント

- ・切る順序を 1 外周 2 切れ込み  
3 内周 にするとはさみだけでできる。
- ・画用紙に直接コンパスでかき、ズレ防止

(ゼムクリップなどで) をすると、画用紙2, 3枚重ねて切れる。

型紙から作るより速い。

②ドーナツ型を糊でつないでいく。



#### (2) 活動

①斜めにした板に、すべり止め用の布を敷いて遊ぶ。

# 算数遊びの事例(1) 石取りゲーム

## I 学習名

「石取りゲーム」

## II 学習のねらい

「10歳の壁」といわれるように、計算等は速いが考える力が育っていないために、算数の学習でつまづく子どもが増えている。そこで、楽しみながら考える力を高める算数の学習をし、算数を好きになる子どもの育成を図る。

本時は「石取りゲーム」の必勝法を考えることで、ねらいに迫りたい。

## III 対象の子ども

小学校1～3年

## IV 学習内容（小学校高学年対象）

### 1 石取りゲームをしよう

(1) 6個のマグネット(磁石)を黒板に並べる



(2) ルールの説明をする (約5～8分)

#### ルール

- 1 ふたりで ジャンケンをして どちらが 石を さきにとるか きめる
- 2 ふたりが、この石を かわるがわる とっていく
- 3 1かいにとる石は 1こか 2こ とする  
2こ とるときは、となりあっている 石に かぎることにする
- 4 さいごに 石をとったひとを 勝ち とする

※ ルールの3の意味を確認しておく

(指導者がいろいろな取り方をして、それが良いかどうかを尋ね、子どもの理解を深める)

(3) 指導者と子ども(代表1人)で、ゲームをする (約3分)

(4) 子ども同士(二人組)で、ゲームをする (約10～15分)

※ 勝敗の結果をワークシートに記録させる

### 2 先攻で必ず勝てる方法を考えよう (約5～10分)

(1) 石が3個の場合 どのようにすれば勝てるでしょうか



(2) 石が4個の場合 どのようにすれば勝てるでしょうか



(3) 石が5個の場合 どのようにすれば勝てるでしょうか



#### わかったこと

はじめの石が3個、4個、5個のときは、先攻が必ず勝つことができる

3 はじめの石が6個であっても、先攻が必ず勝てるでしょうか (約3分)

## V 学習指導上の留意点

1 子どもの集中は長く続かないので、40分以内で終わるようにする。

2 ルール表の3の確認例

こんな取り方はいいですか。(なぜかも聞く)

(1) ● ● ● ● ● ● ⇒ ● ● ● ● ●  
●

(2) ● ● ● ● ● ● ⇒ ● ● ● ● ●  
●

(3) ● ● ● ● ● ● ⇒ ● ● ● ● ●  
● ●

(4) ● ● ● ● ● ● ⇒ ● ● ● ● ●  
● ●

(5) ● ● ● ● ● ● ⇒ ● ● ● ● ●  
● ● ●

3 地域のアドバイザー、コーディネーターの方には、次のような子どもの支援をしてもらう。

- ・ やり方のわからない子ども
- ・ 負けてばかりいる子ども
- ・ 間違ったやり方をしている子ども

4 ゲーム終了の合図をしたら、新たにゲームをしない約束をしておく

5 ワークシートに気づいたことや感想を記入させ、指導の参考とする

6 事前に碁石は洗って使用した。また、子どもには終わった後の手洗い、消毒を心がける

7 準備物

(1) 指導者が準備する物

- ・ 碁石
- ・ ルール表(貼付用)、対戦表(貼付用)
- ・ マグネット、黒板(マグネットがくっつく黒板)
- ・ ワークシート

(2) 子どもが準備する物

- ・ 鉛筆、消しゴム

## VI 予想される子どもの気づき

- ・ 「まんなかをさいしょとると、いい」
- ・ 「はじめに真ん中をとって 終わりに外がわをとれば勝てる」

## VII 特に配慮すること

- ・ 子ども同士のゲームの時は、白熱して一生懸命やる。しかし、負けてばかりいる子には、アドバイザーやコーディネーターが相手をして、意図的に負けてやるなど配慮が必要である。

# 算数遊びの事例(2) 輪 と 輪

## I 学習名

「輪と輪」

## II 学習のねらい

「10歳の壁」といわれるように、計算は速いが考える力が育っていないために、算数の学習でつまづく子どもが増えている。そこで、楽しみながら考える力を高める算数の学習(四角形の学習)をし、算数を好きになる子どもの育成を図る。

## III 対象の子ども

小学校高学年

## IV 学習内容

1 紙テープで輪を2つ作り、十字形に糊づけする。

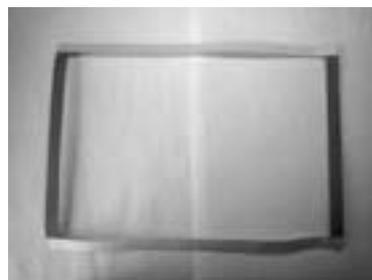
この輪を中心線に沿って切るとどんな形ができるでしょうか。  
予想させる → 実際に輪を作り、切ってみよう。

(1) 違う大きさの輪の場合



はさみで切る

⇒⇒⇒⇒



(2) 同じ大きさの輪の場合

2 紙テープで輪を2つ作り、斜めに接するように糊づけし、中心線で切ると、どんな形ができるでしょうか。

予想させる → 実際に輪を作り、切ってみよう。

(1) 違う大きさの輪の場合



はさみで切る

⇒⇒⇒⇒



(2) 同じ大きさの輪の場合

# 算数遊びの事例(3) 不思議な輪

## I 学習名

「不思議な輪」

## II 学習のねらい

「10歳の壁」といわれるように、計算等は速いが考える力が育っていないために、算数の学習でつまづく子どもが増えている。そこで楽しみながら考える力を高める算数の学習をし、算数を好きになる子どもの育成を図る。

本時は、紙テープで輪を作り、中心線で切ってどんな形ができるかを考えることでねらいに迫りたい。（「メビウスの輪」に関連する学習である）

## III 対象の子ども

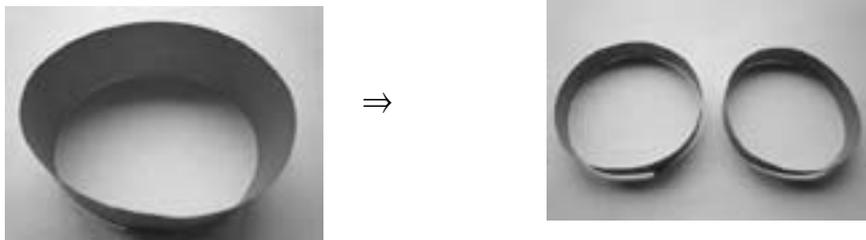
小・中学生

## IV 学習過程

- 1 紙テープで一つの輪を作り、糊づけする。

その輪を中心線に沿って切るとどんな形ができるでしょうか。

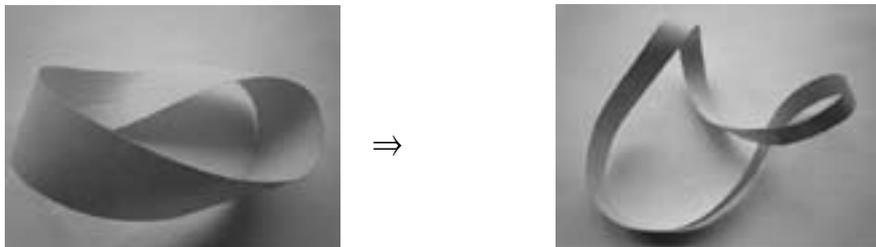
予想させる → 実際に輪を作り、指導者が切ってみる（約3分）



- 2 紙テープを半回転ひねって一つの輪を作り、糊づけする。

その輪を中心線に沿って切るとどんな形ができるでしょうか。

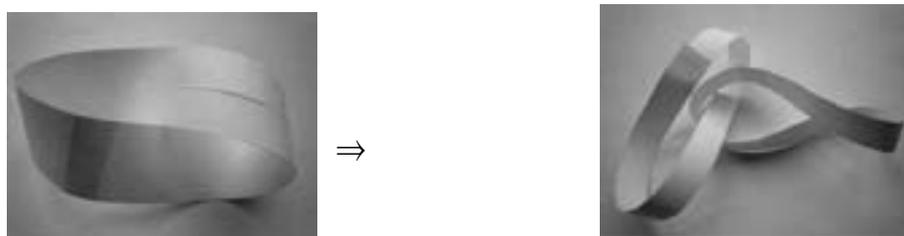
予想させる → 実際に輪を作り、指導者が切ってみる（約3分）



- 3 紙テープを一回転ひねって一つの輪を作り、糊づけする。

その輪を中心線に沿って切るとどんな形ができるでしょうか。

予想させる → 実際に輪を作り、指導者が切ってみる（約3分）



- 4 2と3を子どもに作らせる(約10分)
- 5 紙テープを半回転ひねってふたつの輪(一方は逆ひねり)を作り、十字形に糊づけする。  
その輪を中心線に沿って切るとどんな形ができるでしょうか。  
予想させる → 実際に輪を作り、指導者が切ってみる。  
次に、子どもに作らせる。(約10~15分)



## V 学習指導上の留意点

- 1 子どもの集中は長く続かないので、40分以内で終わるようにする。
- 2 紙テープには、表(黒線)、裏(赤線)に中心線を書いておくと、子どもはハサミで切りやすい。また、紙テープは中心線を少し切って切れ目を作っておくと、子どもは切りやすい。
- 3 「中心線で切ってどんな形ができると思うか」の子どもは、ことばで表現したり、指で表現したり、黒板に図を書いたり…と子どものやり方に応じて表現させ、十分時間を取って考えさせる。
- 4 IVの2, 3, 5で作った紙テープ(写真)は、黒板に貼附するとわかりやすい。
- 5 地域のアドバイザー、コーディネーターは、特にやり方のわからない子どもや間違ったやり方をしている子どもを支援する。
- 6 準備物
  - (1) 指導者が準備する物
    - ・紙テープ(縦3cm、横26cm位の黄、青、ピンク色、子供物人数分) ※指導者用はやや大きい方がよい
    - ・のり      ・ハサミ      ・マグネット
    - ・A4程度の広さの新聞紙(子どもの人数分)
  - (2) 子どもが準備する物
    - ・のり      ・ハサミ

# 学習活動展開案の事例(1) 広さしらべ

## I 学習名

「広さしらべ」(領域:量と測定 広さ)

## II 学習のねらい

学習教室として利用している多目的ホールの広さを測る活動を通して、広さの概念の素地を身につけさせるとともに、仲間とともに活動することの楽しさも味わわせる。

## III 対象の子ども

小学校低学年

## IV 学習内容(学習の流れと留意事項) ※45分の活動

主な学習の流れ	具体的な活動(T;指導者 S;子ども)	備考
1 あいさつ	T;簡単なゲームと自己紹介	・じゃんけんゲーム
2 広さのはなし	T;身のまわりにはいろいろな広さが S;教室の中のいろいろな広さに気づく	・葉っぱなど
3 今日の学習で	T&S;①おうちに人に多目的教室の広さを知らせることができるようになる。 ②友達と仲良く力を合わせて勉強する。	・ゴーヤとヘチマの葉っぱの広さ比べ
4 広さのしらべ方	T;活動の方法や手順を確認する。 ①敷き詰めた新聞紙の枚数で測る ②4つのグループに別れ、4角から敷き詰めていく ③グループ毎に予想を立てる ④困ったときは相談したり先生に問いたりする	・古新聞多数
5 調べ活動	S;グループ毎に敷き詰める活動をする。 T;問題が発生したら途中でストップをかける。なるべく子どもたちに考えさせる。 T;子どもたちの声のかけ方など留意する。	・重なりや隙間がないように ・上級生らしさを出させたい
6 結果の発表	S;皆で敷き詰めた新聞紙の枚数を確認する。 T;予想に一番近かったのは?よく協力できていた班は?おうちの人に多目的教室の広さをどう伝えますか?	・代表者で教え、皆で確認
7 おわりに	T;この方法を使うといろいろな広さが調べられます。	・他に調べたいことは?

# 学習活動展開案の事例(2) 重さ当てチャンピオン大会

## I 学習名

「重さ当てチャンピオン大会」(領域: 量と測定 重さ)

## II 学習のねらい

サツマイモの重さ比べをする活動を通して、身の回りのいろいろな重さに興味関心を持ち、重さの概念や重さを量る素地を身につける。

## III 対象の子ども

小学校低学年

## IV 学習内容(学習の流れと留意事項) ※45分の活動



主な学習活動の流れ	具体的な指導と活動 (T; 指導者 S; 児童)	備 考
1 あいさつ	T; 自己紹介&ゲーム	・じゃんけんゲーム
2 重さの比べ方は	T; 2種類の物、どっちが重いかな S; 予想するT; なぜ S; 形状、感触 T; 正しく測るには S; 上皿天秤など T; 測って見せ、測るときの注意を	・新聞紙1日分と芋1個の重さ比べ ・台ばかり4台(各班1) ・班編制は児童に任せる ・ペットボトルと適当な芋を手にとってみて選ぶ ・はじめにペットボトルの重さを確認し、各自の選んだ芋を順に測る
3『重さ当てチャンピオン大会』について	T; ①学年混合で4班を作る ②各班に芋の入った籠と秤を配る ③目標(ペットボトル)に一番近い芋を選んだ人が班のチャンピオンとする ④その後グランドチャンピオン大会	・グランドチャンピオン大会では「枕」を使う ・まず枕の重さの検討をつけさせる(指導の先生方にも)
4 重さ当てをとしての感想を発表する	T; 困ったことや分かったことなど	
5 1年生の代表を選びその人の体重と同じ重さにするにはおいも何個いるかな	T; A君と同じ重さにするにはどれくらいの芋が。みんなでやってみよう。 S; 体重と同じ目盛りに近づくようみんなで順に芋を乗せる。近くなったら「ストップ」と。	・芋の総重量約20キロと同等程度の体重の児童を代表にしたい ・代表選びには配慮したい
6 自分の体重と同じ重さにするにはお芋どれくらいいるだろうか。	S; 約20キロの重さをかかえてみる	・体重計、コンテナ ・体重を気にする児童もいるので十分配慮したい。
7 今日の学習を振り返る	T; 今日の学習で楽しかったのは?身のまわりのいろいろな重さを家にあるもので調べてみましょう。	・使ったサツマイモはそれぞれ数個ずつ持ち帰らせたい。

**参考資料 1**

放課後子ども教室の活動を計画的に安全に進めていくためには、教室関係者同士の連携並びに情報の共有が重要となります。次のような連絡先一覧を準備しておくとう便利です。

## 放課後子ども教室関係者・緊急等連絡先一覧

■ ( ) 放課後子ども教室

担 当	氏 名	電 話
コーディネーター		
安全管理員		
学習アドバイザー		
ボランティア		

( ) 小学校 放課後子ども教室担当		
市町村教育委員会 放課後子ども教室担当		
放課後児童クラブ担当		
市町村福祉部局 放課後児童クラブ担当		

■ 緊急連絡先

警察署		消防署	
病院 ( 科)		病院 ( 科)	
病院 ( 科)		病院 ( 科)	

■ 県教育委員会

県教育委員会社会教育課 放課後子ども教室担当		
---------------------------	--	--

■ 放課後子ども教室に関する情報

県教育委員会社会教育課	URL: <a href="http://www.higo.ed.jp/kyouikuiinkai/">http://www.higo.ed.jp/kyouikuiinkai/</a>
文部科学省放課後子どもプラン連携推進室	URL: <a href="http://www.houkago-plan.go.jp/houkago/index.html">http://www.houkago-plan.go.jp/houkago/index.html</a>

参考資料2

H21.放課後子ども教室実施一覧

		市町村名	実施小学校	実施日数	コーディネーター	安全管理員	学習アドバイザー	運営委員会 実施回数	教室開始年度			
									H19	H20	H21	
1	1	宇土市	網田小	61	1	1	3	2		○		
2	2	宇城市	松合小	178	1	5	1	2		○		
3	"	"	小野部田小	49	1	1	1	2	○			
4	3	城南町	隈庄小	39	1	1	1	2		○		
5	4	美里町	励徳小	82	1	2	1	1	○			
6	"	"	中央小	59	1	3	1	1		○		
7	5	荒尾市	桜山小	54	1	2	1	2	○			
8	"	"	八幡小	41	1	3	1	2			○	
9	6	玉名市	滑石小	35	2	2	0	3	○			
10	"	"	小田小	52		1	0				○	
11	"	"	月瀬小	41		1	0				○	
12	"	"	玉水小	32		2	0					○
13	7	玉東町	山北小	42	1	3	0	3	○			
14	"	"	木葉小	39	1	6	0			○		
15	8	和水町	菊水中央小	60	1	2	1	2	○			
16		"	菊水南小	61	1	2	1			○		
17		"	菊水東小	40	1	2	1			○		
18		"	菊水西小	36	1	2	1			○		
19		"	神尾小	43	1	2	1			○		
20		"	緑小	49	1	2	1			○		
21		"	春富小	52	1	2	1			○		
22	9	南関町	南関第三小	61	1	3	0	2		○		
23	"	"	南関第四小	61	1	3	1			○		
24	10	長洲町	六菜小	63	1	2	0	3	○			
25		"	長洲小	56	1	2	0				○	
26	11	山鹿市	稲田小	46	1	2	1	1		○		
27	12	植木町	菱形小	38	1	2	1	1		○		
28	13	菊池市	花房小	41	1	2	2	2	○			
29	14	合志市	西合志第一小	30	2	2	1	3	○			
30	15	菊陽町	菊陽西小	18	1	2	3	2		○		
31		"	菊陽南小	25		1	1					
32	16	大津町	大津東小	21	3	3	1	3			○	
33	17	阿蘇市	宮地小	38	1	1	0	2	○			
34		"	坂梨小	53	1	2	0				○	
35		"	碧水小	41	1	2	2				○	
36		"	尾ヶ石東部小	21	1	2	1				○	
37		"	内牧小	40	1	3	0				○	
38		"	山田小	11	1	1	2				○	
39		"	波野小	50	1	1	0					○
40	18	産山村	産山小	58	1	1	13	2	○			
41	19	高森町	高森中央小	9	1	1	1	2			○	
42	20	南小国町	市原小	49	1	2	0	2		○		
43	21	南阿蘇村	白水小	42	1	1	1	1		○		
44		"	中松小	43	1	1	1				○	
45		"	久木野小	45	1	1	1				○	
46		"	長陽小	34	1	3	1					○
47		"	長陽西部小	47	1	2	1				○	
48	22	御船町	御船小	21	1	3	2	2	○			
49		"	七滝中央小	51	1	2	1				○	
50	23	益城町	飯野小	88	1	1	2	3		○		
51		"	津森小	87		1	2					○
52	24	甲佐町	乙女小	51	1	1	1	2		○		
53	25	八代市	郡築小	55	1	5	1	3		○		
54		"	昭和小	53	1	4	1				○	
55	26	芦北町	湯浦小	49	1	4	0	3			○	
56	27	錦町	西小	92	1	3	1	1	○			
57	28	多良木町	多良木小	64	1	5	0	1	○			
58		"	久米小	65		3	0				○	
59		"	黒肥地小	65		5	0				○	
60	29	水上村	岩野小	180	1	1	0	1		○		
61		"	湯山小	171		2	0					○
62	30	相良村	相良南小	179	3	2	1	2	○			
63		"	相良北小	193		2	1				○	
64	31	球磨村	渡小	220	1	1	0	3	○			
65		"	一勝地第一小	220	1	1	0			○		
66	32	天草市	一町田小第一分校	52	1	2	0	1	○			
67	"	"	鬼池小	48	1	2	0			○		
68	"	"	新和小	50	1	2	0				○	
									30	30	8	

参考資料

## 熊本県放課後子ども教室関係資料の紹介

熊本県教育委員会ホームページに下記の資料を掲載しておりますので、活用いただきますようお願いいたします。<http://www.higo.ed.jp/kyouikuiinkai>



平成19年度熊本県放課後子ども教室  
推進事業実践事例集



安全管理指導員のとびき



熊本の地域教育力3つの提言



熊本の地域教育力3つの提言「実践編」

## 熊本県教育委員会

---

〒862-8609

熊本市水前寺6丁目18番1号

熊本県教育庁社会教育課

TEL 096-333-2698

FAX 096-387-0089

